

買受人製造業ト限リト雖モ以テ其賣買ヲ願出サセザルニ許可ヲ與ヘ買受人ニ於テ相當印紙貼用販賣セシムルト
キハ實際取テ不都合モ無之檢査セラレ候右ハ類例モ無之ニ付相伺候
大藏省指令 明治二十年
八月一日
伺之通

○判決例

三四〇 明治二十年乙第九號

鳥取縣平民 大森盛次郎
明治十六年第二十號布達第十一項ニ仲買人小賣人ニシテ裝置烟草ヲ五匁以下前賣ニ爲スルハ稅則第十五條ニ據リ
結束スヘシ但此場合ニ於テハ仲買人小賣人ハ第四項第五項ニ據リ自己ノ氏名任所ヲ附記スヘシ其第四項ニ稅則第
廿一條製造人ノ氏名任所ハ云々帶印紙ハ其印紙影數ノ側面ニ附記スヘシ第五項稅則第十四條烟草印紙ノ消印ハ云
々トアルニ依リ小賣人ニシテ烟草ヲ五匁以下前賣ニ爲ス時ハ稅則第十五條ニ從ヒ帶印紙ヲ以テ結束シテ第十
條第二十一條ニ依リ氏名任所ヲ附記シ且消印スヘキモノトス今被告力第一ノ所爲即チ任所氏名ヲ附記セズ又貼用
印紙ニ消印ヲ爲サシルハ前掲第十四條第廿一條ニ違背シタルモノニ付同稅則第三十八條ヲ適用シ各別ニ處罰スヘ
キモノトス又原告力第二ノ所爲ハ被告力第一ノ所爲ニ於テ無印紙烟草ヲ小賣シタルモノニ付同稅則第四
十七條第三十五條ニ依リ處罰スヘキ勿論ナルニ原告力第三ノ所爲ニ對シ第四十五條第十五條第三十
八條ヲ適用處罰シタルハ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク違背無誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノト認定ス
右ノ理由ナルヲ以テ判決法第四百三十一條三則ノ原裁判第一第二ノ據ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判官渡ヲ爲ス
左ノ如シ

原告判官力認メタル事實ニ因リ之レヲ法律ニ照スニ被告力第一ノ所爲ハ明治十六年第二十號布達第十一項第四項
第五項及ヒ烟草稅則第十四條第二十一條ニ違背スルヲ以テ同第三十八條ニ依リ五匁以上五拾匁以下ノ範圍内ニ於

テ第十四條違犯ノ所爲ニ對シ罰金五圓第二十一條ニ違犯ノ所爲ニ對シ罰金五圓ニ處シ仍ハ犯罪ニ係ル烟草五匁五
二十八匁ハ沒收ス第二ノ所爲ハ同稅則第四十七條第三十五條ニ依リ拾匁以上百匁以下ノ範圍内ニ於テ拾匁ノ罰金
ニ處シ仍ハ賣代金没收シ追徴スル者也
明治二十年一月廿七日

三四一 明治十九年乙第九十七號

福岡縣平民 池田富次郎

明治十六年第二十號布達第一項ニ稅則第二條製造人ハ未製造ノ烟草ヲ耕作人又ハ仲買人ヨリ買入レ之ヲ製造シ仲
買人又ハ小賣人ヘ賣渡スヲ云フトアリテ製造人ハ未製造ノ烟草ヲ買入レ製造シテ仲買又ハ小賣人ヘ販賣スル營業
者ヲ指稱スルモノニシテ其烟草ノ賣切ヲ爲ス者ノ如キハ烟草ヲ刻ム爲メニ賣銀ヲ得ルニ止マリ製造シテ販賣スル
者ニアラサレハ假令烟草稅則第二條但書三所稱製造人ニアラサル者ヨリ依頼ヲ受ケ烟草ヲ賣切リスルモノレヲ以
テ製造營業權ヲ犯シタルモノト云ヘカラス故ニ原告判官カ被告ハ烟草營業人ニアラサル者ヨリ依頼ヲ受ケ自用烟
草ノ賣切ヲ爲シタルモ法律規則ニ之ヲ罰スルノ正條ナキヲ以テ無罪トノ判決ハ其當ヲ得タルモノトス因テ同稅則
第三拾四條ノ制裁ヲ受クヘキモノナリトノ上告論旨ハ相立ス以上ノ理由ナルニ因リ判決法第四百廿七條三則リ之
レヲ棄却スル者也
明治二十年一月廿九日

三四二 明治二十年乙第二百七十號

長野縣平民 山崎喜三郎

烟草稅則ニ於テ營業ト稱スルハ他ノ賣買ト異ニシテ販賣ノ意思行爲ニ際ハルハ、片ハ即チ營業ヲ爲シタル者トシテ
處分スヘキ者トス然ルモ被告ハ未ダ手合金ヲ出サズ前掲書モナシ且金貨モ受取ラサルモノナレハ賣買既成ト云フ

可ラサルニ税則第三十四條ヲ適用シタルハ越權ナリト論訴スルモ其第三十四條ニ營業證札ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲ス者ハ云々トアル其營業ヲ爲ストハ販賣ヲ營業トスルノ意思ヲ以テ之レヲ他ニ賣ラントセシ行爲アラハ假令代金物品ノ授受ナキモ營業ヲ爲シタルモノトシテ論ス可キ者トス而シテ越權トハ法律ニ於テ禁止若クハ命令シタルノ二符キタル場合ヲ云フモノニテ本件ハ公判始末書其他一件書類ニ徴スルニ法律ノ命令禁止ニ背反シタルモノト見認ムヘキ事蹟一モ之レナキヲ以テ越權ノ處分アリトノ論旨ハ採用スルヲ得ヌ又被告ハ稅則第四十七條ハ營業人ノ家族雇人ニシテ其營業上ニ關シタル規則ヲ犯シタルハ其營業者ヲ罰スル者ニテ被告雇人カ爲シタル所爲ハ營業外ノ事ヲ取扱ヒタル者ニテ雇主ノ預カラサルナレハ雇人ヲ罰スヘキニ被告ヲ罰シタルハ理由ヲ阻斷セル不法ノ裁判ナリト分疏スルモ其第四十七條ニ煙草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルハ其營業者ヲ處罰ストアルハ煙草小賣營業者ノ雇人若クハ家族ニシテ其小賣營業ニ關シ犯則アリシハハ勿論其營業者ノ爲サ、ル製造又ハ仲買營業ニ關シ此規則ヲ犯シタル場合ニモ總テ營業者ヲ罰スルモノナリトス本按原判文ハ前掲ノ如ク被告ハ小賣營業者ナルヲ以テ雇人石田平八郎ヲシテ煙草小賣行商ヲ爲サシメタルニ平八郎ニ於テ煙草小賣人山岸警右衛門方ニ至リ煙草百目五十三個ヲ代金八十四錢五厘ニテ賣渡スノ約東ヲ爲シ該賣渡ノ成立シタルモ未タ其代金ヲ受取ラサルモノト認メタルニ在レハ雇人平八郎ノ所爲ハ小賣營業者ナル被告ヨリ小賣行商ノ命ヲ受ケ行商ノ際ニ小賣營業人ニ賣渡シノ約東ヲ爲シ其賣渡ノ成立シタル者ト判定シタルニアリテ煙草營業上ニ關シ此規則ヲ犯シタルニ在レハ其賣渡ノ營業者ノ負擔スヘキハ當然ナリトス而シテ事實理由ノ阻斷トハ一途兩岐ニ涉リ理由ヲ付シタル場合ヲ云フモノナレバ本件原判文ニハ毫モ是レ等ノ一アルヲ觀サレテ以テ理由阻斷ノ旨渡シト云フ可キ者ニ非ス又原檢察官ニ於テ未タ受取ラサル代金ヲ追徵シタルハ擬律錯誤ナリト論告スルモ本按ハ既ニ賣渡ノ成立ニ必要ナル物品代價雙方承諾ノ三條件ヲ具備シテ成リタル賣渡ナレハ未タ代價ノ授受ヲ了セサルモ物品ノ所有權ハ買主ニ移リ代金ヲ拂フノ義務ハ買主ノ負擔シ免カレ可ラサルモノトナリシヲ以テ原裁判官ニ於テ無印紙煙草十三個ハ山岸警右衛門ニ遺付シ代價金八十四錢五厘ハ被告ヨリ追徵スルノ旨渡シテ爲シタルハ至當ノ裁判ニシテ擬律錯誤ニハ非サル者トス因テ被告ヨリ上告論旨並ニ原檢察官ノ附帶上告論旨共阻斷テ相立タス右聲明スル如クナルヲ以テ本按上告ハ消罪法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スル者也

明治二十年三月十七日

三四三 明治二十年乙第二三四十六號

山形縣平民 松田長吉

大審院ニ於テ消罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シタルニ立會檢事岡部綱紀ハ本按ニ對シ意見ヲ陳ヘ且附帶上告ヲ爲シテ曰ク出賣證札ヲ携帶セシメテ出賣ヲ爲スモノハ猶免許證札ナクシテ自家ニ於テ煙草ヲ賣買スルカ如ク煙草ヲ取扱フノ權ナキモノナレハ稅則第六條ノ違犯者ハ其三十八條ニ於テ該煙草ヲ沒收シ且代價ヲモ追徵スト制裁アリ然ラハ則チ該煙草ノ印紙有無ハ固ヨリ問フ可キニ非サレハ同則第三十五條ノ罪ヲ組成セサルナリ然レニ原裁判ノ二罪ヲ併科シタルハ擬律錯誤ナリ又公判始末書中既ニ二箱ノ煙草ヲ賣割キタルアルニモ拘ハラヌ其代價ヲ追徵セサルハ不法ナリ又製造者ノ出賣證札ハ仲買人ニ對シテ賣渡ヲ爲シ得ルニ止マリ決テ小賣ヲ爲スノ權ナシ然ラハ其出賣ヲ爲シタルハ買求者ノ如何ナル者ナルカノ性質ヲ明カニスルハ最要ノ事實ナルニ原判文單ニ出賣トノミ記シ買求者ノ資格ヲ明示セサルハ則チ理由ノ不備ニ付被控ヲ求ムト因テ爰ニ之ヲ審按スルニ煙草稅則ノ規定ハ煙草出賣ノ件ニハ必ス其出賣證札ヲ携帶セシムヘキモノナリトス故ニ若シ出賣ノ件ニ證札ヲ所持セサルハ全則第六條ノ違犯タルトハ得テ免カレ可ラス今被告カ上告ノ理由トスル所ハ該條ハ煙草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ各自之ヲ携帶セシムルモノナレバ被告ノ如キ他雇家出ノ際ト雖モ出賣證札ヲ携帶スヘシトノ命令ナキヲ以テ被告ヲ處罰シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在ルモ原判文ハ前掲ノ如ク證札ヲ携帶セシメ出賣爲シタルモノト認メ而シテ全稅則第六條第三十八條ヲ適用處斷シタルハ相當ナルヲ以テ該論旨ノ如キハ上告ノ理由ト爲シ得ヘキモノニアラストス又本院檢事附帶上告論旨ノ第一ハ無證札出賣者ノ所持スル煙草ノ印紙有無ハ問フヘキモノニ非サレハ第三十五條ノ罪ハ組成セサルハ原判決ハ擬律錯誤ナリト云フニアルモ煙草製造人ハ煙草ヲ刻ミ干燥ノ度ヲ見テ直チニ裝置區分ヲ爲シ相當印紙ヲ貼用スヘキモノニシテ無印紙ノ儘之ヲ所持シ得ヘキニ非サレハ之レニ印紙ヲ貼用セヌ出賣ニ携帶シタルハ即チ無印紙煙草所持ノ罪ヲ構成スヘキハ勿論ナリ故ニ原判官

五ノ部

カ被告ノ所爲ヲ二罪トシテ懲罰シタルハ至當ニシテ法律錯誤トハ云フヲ得サルモノトス
明治二十年四月廿八日

三四四 明治二十年乙第百三十四號

愛知縣平民 篠田新助

烟草稅則第六條ニ所謂烟草出賣トハ一店ヲ定ルナク時々行商或ハ路上等ニ露店ヲ張リ販賣スル等ノ如キモノヲ
指稱シタルモノニシテ工務課ノ如キ家賃内ニ一ノ露店ヲ開設シ營業ヲ爲スニ至テハ之ヲ道路ノ露店ト一般出賣
ト同視スルヲ得サルヤ勿論ナルヲ以テ該露店ノ營業ヲ爲スニ小賣權札ヲ受ケザリシ以上ハ烟草稅則第五條第三十
四條ノ制裁ヲ受ケ可キハ當然ナルニ付其事實ヲ認メ該露店ヲ適用シタルハ相當ナルヲ以テ之ヲ越權ノ處分トハ爲ス
ヲ得ヌ又同則第六條ニ明記スル如ク仕入出賣ヲ爲スニヌラ各自ニ權札ヲ要スル者ナレハ一ノ露店ヲ開設スルニ該
リ權札ヲ要セザルノ理由ナキニ據リ別ニ正條ヲ缺タヌ一葉ノ權札ヲ以テ露店ヲ開設營業スルヲ得サルヤ明確ナリ
故ニ上告第二論旨ハ附會ノ濫辭ニ過キサルモノトス而シテ原判令ヲ檢スルニ被告入新助ハ工務課内云々借受ケ自
家製造ノ烟草ヲ持出シ之ヲ小賣シテ云々トアル事實ニ依リハ被告カ小賣權札タルヤ自家營業ノ權札ニシテ工務
内ノ營業權札ニ非サルハ自カ自ラ賣別スルヲ得ルニ依リ其權札ニ付營業場所ノ申由ヲ掲ケサルモノ之ヲ理由ノ不
備トシテ破毀ノ原由トハ爲スニ足ラサルノミナラス原判令上事實理由ニ於ケル等モ組織アルナケレハ第三論點
モ亦附會ノ濫辭ニ過キサルモノナリ因テ該上告ハ一モ其理由ナキヲ以テ到底相立タルモノト認ルニ付治罪法第四
百廿七條ニ從ヒ本按上告ヲ棄却スル者也
明治二十年一月廿二日

三四五 明治二十年乙第百三十五號

東京府平民 横田イタ

右イタカ烟草稅則違犯被告事件ニ付明治廿年一月十三日東京府裁判所ニ於テ被告カ所爲ハ法律ニ罰スヘキ正
條ナキヲ以テ刑法第三條ニ依リ無罪ト旨渡タル裁判ニ對シ今裁判所檢事補世古祐次郎ハ上告ヲ爲シタル其要旨ヲ
擧レハ烟草稅則第三十六條ニ脫稅ノ便ヲ與ヘ云々トアルハ特リ烟草營業者ノミニ非スシテ脫稅ノ便ヲ與ヘタル者
ハ該條ノ支配スル勿論ナルニ原判令ハ被告カ烟草營業人西山三吉ノ依頼ニ應ジ明治十九年十一月九日右三吉ニ烟
草印紙ヲ賣渡シナカラ同月四日ニ賣渡タルモノ、如ク自己ノ帳簿ニ詳記シ三吉カ脫稅ノ便ヲ與ヘタル事實ヲ認メ
ナカラ右第三十六條ハ烟草營業者ニ非サルハ適用スヘキ法條ニ非サルモノトシ無罪ノ旨渡ヲ爲シタルハ法律ヲ誤
解シタル法律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀更正ヲ求ムト論駁スルニ在リ

御手人タル被告横田イタカハ該上告ヲ駁論シ原裁判相當ナルヲ以テ上告ノ棄却ヲ望ムトノ旨ヲ續述答辨シタリ
大審院ニ於テ治罪法第四百廿五條ノ定式ヲ踐行シタルニ立會檢事川目亨一於テ烟草稅則第三十六條脫稅ノ便ヲ與
ヘ云々ハ單ニ烟草營業者ノミニ限ルニ非サルヲ以テ原裁判該第三十六條後段ハ烟草營業者ノミニ適用スヘキモノ
ナリトノ理由ヲ付シ無罪ノ旨渡タルハ失當ナリト雖モ又以テ上告論旨ノ如ク被告ノ所爲ハ脫稅ノ便ヲ與ヘタルモ
ノト爲スヲ得ヌ原判令查スルニ犯罪ノ事實タル脫稅發覺ノ後チ唯其罪跡ヲ掩フハン爲メ帳簿ノ登記ヲ詐リタル
ニ外ナラス然ラハ稅則第三十六條ニ非スシテ同第二十五條ノ違犯者タルヲ免カレシハ同第四十二條ニ依リ處斷
スヘキモノト思考ス因テ意見ニ併セ附帶上告ヲ爲シ破毀更正ヲ求ムト開陳セリ因テ之ヲ審按スルニ烟草稅則第三
十六條ニ脫稅ノ便ヲ與ヘ云々トアルハ單ニ烟草營業者ノミ指稱シタルモノニアラス苟クモ帳簿ノ記載ヲ詐シ脫稅
ノ便ヲ與フル所爲アル者ハ該第三十六條ニ據リ處分スヘキ勿論ナレ今原判令問スルニ被告カ所爲ノ事實タル
ヤ(被告入横田イタカハ西山三吉カ無印紙烟草賣捌ノ廉ヲ檢査官ニ發見セラレタル后其罪ヲ掩ハンカ爲メ明治十
九年十一月九日烟草百匁用六錢印紙五枚ヲ買求メ同月四日ニ之ヲ買求メタル体ニ三吉カ依頼ニ應ジ自己ノ帳簿ニ
其帳額ノ如ク詐記シタル事實ハ明白ナリ)トアルヲ以テ觀レハ脫稅ノ便ヲ與ヘタルニ非スシテ既ニ三吉カ違稅ノ
後ニ到リ罪跡ヲ隠蔽セント自己ノ帳簿ニ詐偽ノ月日ヲ記載シタリト云フニ在レハ烟草稅則第三十六條ニ開陳スヘ
キモノニ非ス然レモ其所爲無罪ニ歸スヘキモノニモアラス即チ烟草稅則第二十五條ニ定ル如ク印紙賣捌人ハ該明

支ノ如ク正當ニ帳記ヲ爲ス可キハ勿論ナレハ之ニ違背シ詐偽ノ記載ヲ爲スカ如キハ即チ該條ノ違犯者ナリ故ニ
如斯組合ハ本院檢事附帶上告諭旨ノ如ク稅則第四十二條ノ制裁ヲ受ク可キ當然ナリ然ルニ之ヲ法律ニ罰スヘキ正
條ナキモノトシ刑注第二條ニ從ヒ無罪ヲ以テ論決シタルハ擬律ノ錯誤ナルニ依リ破毀更正スヘキモノトス因テ治
罪法第四百廿九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判官選ヲ爲スノ左ノ如シ

横田 イク

右ニ辨明スルカ如クナルヲ以テ被告カ犯罪ノ事實ハ原判官ノ判定シタル所ニ循ヒ刑法第五條ニ基キ之ヲ烟草稅則
ニ照スニ其第二十五條ニ背クヲ以テ同則第四十二條ヲ適用シ罰金三圓ニ處スルモノ也

明治廿二年二月十七日

三四六 明治二十年乙第二百號

長野縣平民

山本直次郎

右直次郎カ被告事件ニ付明治廿一年一月廿八日長野縣裁判所於テ被告人ハ無罪ニテ煙草小賣及出賣ヲ爲シタル
モノト判定シ刑注第五條ニ基キ烟草稅則第五條第六條第三十八條及第四十六條ニ照シ小賣ヲ爲シタル
所爲ニ付營業稅半年分ノ稅額高貳圓五拾錢ノ三倍即罰金七圓五十錢ニ處シ犯罪ニ係ル烟草三十五個捲烟草二箱ヲ
沒收ス又出賣ノ所爲ニ付罰金五圓ニ處シ烟草十一個ヲ沒收スト旨選シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補川久保信任
カ上告及フノ要旨抑モ被告ノ所爲ハ無罪ニテ營業稅ヲ爲シタルニアレハ烟草稅則第五條ノ違犯ニシテニ罪併發下云フ
ヲ得ヌ何トナレハ稅則第六條ニ明記スル出賣稅札ハ元來獨立ノモノニアラスシテ第五條附從ノモノトシテハ也由是
之ヲ觀レハ稅則第六條ハ營業者ヲ罰スル法文ニシテ非營業者出賣ヲ爲スハ單ニ第五條ヲ犯スモノニテ第六條ノ併
發トシテ罰スルヲ得サルモノトス然ルニ原裁判ノ此ニ出テテサルハ擬律錯誤ノ裁判ト考量シ破毀更正ヲ求ムト云フ
ニアリ

判事人被告直次郎ハ答辯書提出サス

大審院ニ於テ治罪法第四百廿五條ノ定式ヲ履行シ之ヲ審按スルニ烟草稅則第一條ニ烟草營業者ヲ分テ三種トナシ
烟草製造人同仲買人同小賣人トアリ又同第六條烟草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ管
轄廳ニ顯出仕入又ハ出賣稅札ヲ受ケ各自之ヲ持帶スヘシトアリテ第六條ノ仕入又ハ出賣稅札ハ第一條ニ掲ケタル
免許營業者ニ於テ之ヲ受クヘキノ法意タルヲ知ルヘシ今本案被告ハ無罪ニテ煙草小賣營業ヲ爲シタルモノナレハ即
チ烟草稅則第一條第三十四條ニ依リ罰金一圓ニ處断スヘキモノトス何トナレハ營業稅札ヲ得サルモノニ在
テハ特リ出賣稅札ノミヲ受クル能ハサレハナリ然ルニ原判官カ被告ノ所爲ニ對シ稅則第五條第六條第三十四條第
三十八條等ヲ適用シニ罪トシテ罰金五圓ニ處シ上告諭旨ノ如ク擬律錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法
第四百廿九條ニ則リ之ヲ破毀シ本院於テ直チニ判決スルノ左ノ如シ

山本直次郎

右被告ノ所爲ノ事實ハ原判官ノ認定シタル所ニ據リ刑法第五條ニ基キ烟草稅則第一條第十一條第十二條第三十四條ニ
依リ明治十九年下半期稅額高貳圓五十錢ノ三倍即チ罰金七圓五十錢ニ處シ刑注烟草百目玉四十六個半捲烟草二箱
ヲ沒收スルモノナリ

明治廿二年二月廿六日

三四七 明治二十年乙第四百十四號

福島縣平民

本田 文助

抑モ粉烟草ハ吸料ニ用フル場合ノミナラス田畑等ノ肥料ニ供スルヲ得ルモノニ付若シ該烟草ヲ賣買スルニ於テ
ハ其吸料ト爲スモノナルヤ時々肥料ニ供スルモノナルヤ否ノ事實ヲ決定シタル後ニアラサレハ販賣稅則違犯ト
ナシ處断スルヲ得サルモノトス何トナレハ本案ノ如キ若シ果シテ田畑ノ肥料ニ供スル爲メニ賣渡シタルニ過キサ
レハ固ヨリ無罪者ナルモ其吸料トシテ自用者ニ販賣セシモノトセハ單ニ稅則第三十五條ニ依リ處罰スルニ止マラ
ズレテ烟草小賣營業權ヲ侵害シタル所爲ニ付テモ同第三十四條ヲ適用シ處断スヘキモノナレハナリ然ルニ原判文

五ノ部

五百六十三

上無印紙ノ粉煙草賣并代金三錢ヲ以テ石橋印傳次へ寄渡云々トノミ揚載シアリテ該煙草ハ果シテ吸用トシテ賣渡
シタルヤ否且石橋印傳次ハ自用者ナルヤ否ヲ明示セザレハ未タ擬律當否如何ヲ鑒査スルニ由ナシ是レ治罪法第三
百四條ノ規定ニ背キタル不注ノ裁判ナルヲ以テ他ノ上告論旨ニ對シ別ニ辨明ヲ要セス破毀スヘキモノトス
明治廿年四月十四日

三四八 明治二十年乙第三百九十六號

東京府平民 花岡幸七
同府平民 大關憲吉

原檢察官ハ被告等カ荒切煙草ヲ賣買シタル點ニ付別ニ無印紙煙草賣買ノ罪及未製造煙草買入レノ罪ヲ構造セルモ
ノ、如ク論旨スト雖モ稅則第二條ニ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スルモノヲ煙草製造人トス云々トアリテ元來卷煙草
ハ即チ卷煙草ト爲シテ初テ製造ト云フヘキモノニシテ普通刻煙草ノ如ク刻ミ上ケタルノミヲ以テ直チニ製造スル
モノト云フヲ得サレハ原判官ニ於テ判文ニ認メタル如ク本案荒切煙草ハ即チ卷煙草ト爲スヘキモノニテ未製造煙
草ナリト理由ヲ付シタル上ハ此點ニ付檢察官ト注律ノ見解ヲ異ニセシ迄ニシテ判決ヲ爲サ、ルニアラス已ニ此事
實ニ對シ別ニ犯罪ヲ構造セルモノト認メ被告等幸七所爲ニ付單ニ稅則第四十條ヲ適用レ被告等幸七付テハ無印紙
煙草製造ノ所爲中ニ包含シタルモノトナシ處斷セルモ越權不當ノ裁判ト爲スヲ得ヌ何トナレハ煙草ヲ製造スル
ニハ未製造煙草ヲ以テ製造スルモノナレハ無印紙煙草製造罪ヲ構造成スル場合ニ在テハ未製造煙草買入レノ所爲ノ
如キハ該犯罪構造成中ノ元素トナルモノニシテ且未製造煙草ニ印紙ヲ貼用スヘキ規定ナケレハ也故ニ原檢察官ノ上
告旨趣ハ其理由ナキモノトス又被告等幸七カ大關憲吉ヲシテ煙草ヲ賣買セルメタルモノナレハ稅則違犯トナシ科罰
セラルヘキモノニアラスト、此第一論旨ハ要スルニ承審判官ノ正當職權ヲ以テ諸般ヲ探擇シ被告ハ第一未
製造ノ煙草ヲ無印紙賣買人ニ賣渡シタルモノト判定セシ其當否ヲ論議スルニ過キサレハ上告適法ノ理由ト爲ス
ヲ得ヌ然レモ凡ソ稅法ハ總テ納稅ノ義務アルモノニ適用スヘキモノナレハ他ニ特例ヲラサレハ納稅者即チ其

費ニ任スヘキモノニテ假令ヒ該稅則違犯ヲ補助セルモノアルモ直チニ從犯トナシ科罰スヘキモノニアラス今被告
幸七ハ大關憲吉カ無印紙煙草賣買ヲ爲スノ情ヲ知リ之ヲ補助セシ迄ニテ幸七自ラ該稅則ニ違背シタルニアラス然
ラハ煙草稅則中特ニ從犯ヲ處罰スヘキ正條ナキ限リハ右憲吉ノ從犯トナシ科罰スヘキモノニアラス然ルニ原裁判
款ニ出テテ刑罰第九條煙草稅則第三十四條第十一條等ヲ適用シ罰金十六圓八十七錢五厘ニ處スト旨渡シタル此
一部ハ被告幸七第二論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ係ル不注ノ裁判ナリトス因テ原檢察官上告ハ治罪法第四百二十七條
ニ從ヒ之レヲ棄却シ被告幸七カ上告ニ對シ前說明ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ則リ擬律錯誤ニ係ル
部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決ヲ爲ス左ノ如シ

花岡幸七

右被告幸七カ第二所爲ノ事實ハ原裁判官ノ認ムル所ニ據レハ前說明ノ如ク煙草稅則中ニ科罰スヘキ正條ナキヲ以
テ治罪法第三百五十八條ニ基キ無罪ヲ旨渡スモノ也

明治廿年四月三十日

三四九 明治二十年乙第四百二十號

滋賀縣平民 寺村榮太郎
同縣平民 林源吉

稅則第三十七條ニ煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ買受ケタルモノ云々第二十三條ニ煙草營業者
ハ左ノ帳簿ヲ備置シ其記載方ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フヘシ明治十六年第六號布達第七項稅則第二十三條ノ帳
簿ニハ左ノ件々ヲ記載スヘシトアリテ小賣人ハ煙草買入帳ニ年月日種類價格量目及賣主ノ氏名住所等ヲ記載シ置
クヘキ旨ヲ規定シアリテ刻煙草ヲ賣買スル者ニシテ煙草ヲ買受ケタル片ハ其登記ヲ爲サ、ルヲ得サルハ勿論ナレハ之
ニ違背スルニ於テハ一ノ罪ヲ構成スルモノナリ而テ同第三十五條ニ煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙
草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者云々トアリテ煙草仲買若クハ小賣營業者於テ無印紙煙草買入レタル時ハ直ニ第三十

七條ノ罪ヲ成立スルモ該煙草ヲ單ニ所持スル場合ハ所謂買入レノ結果ニ過キサレハ第三十五條ノ罪ハ構成スルモノニアラス然レモ仍ホ該煙草ヲ販賣スルカ又ハ店頭ニ陳列スルカ若クハ其殘部ヲ賣捌キタル殘餘ヲ隱匿所持シタル時ハ即チ無印紙煙草販賣者トシテ所持ノ罪ヲモ組成スルモノトス今原判文ニ認メタル被告等カ所爲ノ事實ニ據レハ被告榮太郎ハ第一無印紙煙草ヲ買入レ第二該煙草賣渡シタルニ罪ヲ成立セシモノナレハ稅則第三十五條第三十七條ヲ適用スヘク被告源吉ハ第一無印紙煙草ヲ買入レ第二該煙草ヲ自用ニ消費シ殘六十目現ニ所持シタル迄ナレハ第三十七條ノ罪ハ固ヨリ成立スルモ該買入煙草ヲ他ニ賣渡シ若クハ店頭ニ陳列シ又ハ賣却セシ殘品ヲ隱匿所持シタルニモアラスレハ第三十五條ノ罪ハ未タ成立セサルモノトス又被告兩名カ第三所爲ノ事實ハ即チ正當記載スヘキ買入帳簿ニ登記ヲ爲サ、ルモノナレハ所謂爲スヘキヲ爲サ、ルノ所爲ニ係リ無印紙煙草買入レノ如キ爲スヘカラサルコトヲ爲シタルモノト被是罪實ヲ異ニスルモノナレハ之ヲ第一事實ノ所爲中ニ包含スルヲ得サルモノトス然ルニ原檢察官ハ被告等カ第三所爲ノ事實ニ對シ帳簿ノ登記ヲ詐テ脱稅ヲ謀リタルモノトナシ且無印紙煙草賣却ノ所爲ハ其買入レ犯罪ノ結果ナリト論告スト雖モ原判官カ認ムル所ハ單ニ正當帳簿ニ登記ヲ爲サ、ル迄ニテ登記ヲ詐リテ脱稅ヲ謀リ云々ノ點ハ認メサルノ事實ナルノミナラス已ニ無印紙煙草ヲ賣渡シタル上ハ別ニ一罪ヲ構成シ之ヲ買入犯罪ノ結果ナリト云フヲ得サルヲ以テ此旨ハ共ニ適當ナラスト雖モ被告源吉カ第二事實タル煙草所持罪ニ對スル論告及ヒ其旨趣異ナルモ前記證明ノ理由ニシテ疑律ニ錯誤アリトノ未項論告ハ上告適法ノ原由アルモノトス因テ治罪法第四百三十一條ニ則リト論告ニ係ル被告源吉カ第二事實及ヒ被告兩名カ第三所爲ノ事實ニ對スル疑律錯誤ニ該ル部分ヲ破毀シ本院於テ直チニ判決ヲ爲ス、左ノ如シ

寺村 榮太郎
林 源 吉

右被告等カ所爲ノ事實ハ原判官ノ認ムル所ニ據リ被告兩名カ第三所爲ニ對シ稅則第二十三條明治十六年第六號布達第七項及稅則第四十五條ヲ適用シ各料料金並圓ニ處シ被告源吉カ第二所爲ハ煙草稅則第三十五條ヲ適用シ圓金拾圓ニ處スト旨趣タル部分ヲ取消スモノナリ

明治廿年四月三十日

三五〇 明治二十年乙第五百六十六號

大坂府平民 增 田 芳 平

製造煙草無印紙ノ儲蓄十次販賣スルカ如キ同一事件ノ俱發セシ場合ハ其所爲繼續セサルモ意思ノ繼續スルモノハ即チ連續犯罪ト稱スヘキモノニシテ其所爲一罪トシテ處斷スヘキハ勿論煙草稅則第四十七條ニ家族雇人ノ所爲ト雖モ營業ニ關シテハ營業者ヲ處罰スト規定アレハ假令ヒ數十次無印紙煙草販賣ノ中家族雇人ノ所爲ニ係ルモノアルモ其同時ニ俱發スル場合ニ在テハ一所爲トナシ營業者ヲ罰スヘキモノナルハ固ヨリ論ヲ俟タズ然レモ煙草小賣人ニシテ無印紙煙草所持スル如キハ該煙草ヲ店頭ニ陳列スルカ若クハ已ニ販賣シタル殘品ヲ隱匿藏匿セシ等ニ因リ其罪ヲ構成スルモノニシテ無印紙煙草販賣ノ所爲トハ罪質ノ差異アルヲ以テ該二罪ノ俱發セシ場合ト雖モ之ヲ同一事件トナシ一所爲ヲ以テ處罰スルヲ得今原判文ヲ閱スルニ其前段ニ於テ第一被告人ノ長男芳太郎ナルモノ明治二十年四月九日無印紙煙草四十目ヲ所持シ云々トノミアリテ該煙草ハ果シテ無印紙ノ儘店頭ニ陳列セシヤ將ク已ニ販賣シタル殘品ヲ隱匿セシ場合等ニ發見セラレタルヤ否ノ事實理由ハ毫モ明示シテアラスヲ以テ其第一ニ對スル罪ノ成否ヲ知ルニ由ナク從テ法律適用ノ當否ハ之ヲ鑑査スルヲ得サルノミナラス其第二第三所爲ヲ各別ニ區別シタルハ上告論旨ノ如ク不法ノ裁判ナリトス

明治廿年六月十六日

三五一 明治二十年乙第四百六十六號

愛媛縣平民 木 曾 辰 藏

抑モ煙草稅則第三十五條ハ其明文ノ如ク煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ煙草ヲ所持シ又ハ賣渡シ及之ヲ貸與贈與シタル者ヲ罰スルノ法條ニシテ本被告事件ノ如キ他人ノ依頼ヲ受ケ煙草ヲ賣切シタル場合ニ於テハ該

エノ部

煙草ハ營業品ニアラサルヲ以テ規則ニ從ヒ印紙ヲ用フルニ及ハサルモノナレハ其無印紙ノ罪ヲ問フヘキ限リニアラス而シテ其印紙ヲ附スルニ及ハサレハ從テ製造人ノ住所氏名等ヲ附記スルヲ要セサルヤ勿論ナルヲ以テ規則第三十八條ヲ適用スヘカヲサルモノナリ然ルニ原裁判所ハ前掲ノ事實ヲ認メナカラ之ヲ煙草稅則第三十五條及第三十八條ニ照シタルハ上告論旨及ヒ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク治罪法第四百十條第十項ニ該當スル擬律錯誤ノ裁判ナリトス概テ治罪法第四百二十九條ニ照シ原裁判擬律ノ全部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如

木曾辰藏

原裁判官カ認メタル事實ハ規則上罪トナラサルニ依リ治罪法第三百五十八條ニ因リ無罪

明治二十年五月十九日

三五二 明治二十年乙第五百九十七號

熊本縣平民 榎田榮藏

凡ソ煙草營業者ニアラサルモノニ在テ無印紙煙草ヲ買受ケ又ハ販賣交換シタル場合ニ於テ其所爲煙草小賣權ヲ侵シタルモノナリト認定センニハ宜シク其買受又ハ交換ノ營業ノ爲メナルヲ明示セサルヘカラス何トナレハ若シ營業ノ爲メ之ヲ買受ケ販賣或ハ交換シタルニ於テハ稅則第三十四條ノ制裁ニ止マルヘキモ自用ノ爲メ之ヲ買受ケナカラ營業ノ爲メ之ヲ販賣又ハ交換シタルニ於テハ稅則第四十三條同第三十四條ノ制裁ヲ受ケサルヘカヲサレハナリ然ルニ原裁判所ハ其判決ニ於テハ免許權ヲ受ケス云々煙草營業人ヨリ無印紙煙草買受目ヲ代金九十五錢ニ買受ケ云々量百四十目ヲ殘ス外尚ホ無印紙ノ儘氏名知ラサル干魚商ノ干魚ト交換シタルモノナリトノ記載シ其買受ケタルハ營業ノ爲メナルヤ又ハ自用ノ爲メナルヤ本按必要ノ事實ヲ明示セサルヲ以テ擬律ノ當否ヲ檢査スルニ由ナク即チ治罪法第四百十條第九ニ所謂事實理由ノ不備ナル裁判ナリトス

明治二十年六月廿三日

三五三 明治二十年乙第五十八號

三重縣平民 坪井吉五郎

再貼用ノ印紙ハ其効用ヲ失シタルモノナレハ其貼用ノ印紙ハ貼用ナキト等ク無印紙ニ屬スルモノナルヲ以テ再貼用ノ罪ニハ從テ無印紙ノ罪ナカルヘカラス而テ再貼用ノ罪ハ法律ノ禁令ヲ犯スノ罪ニテ稱シテ之ヲ行犯ト云フ無印紙ノ罪ハ法律ノ命令ヲ行ハサル罪ニテ稱シテ之ヲ不行犯ト云フ已ニ其犯罪ノ性質ヲ異ニスル以上ハ之ヲ罰スルノ効果モ亦異ナラサル可カラス故ニ原裁判所於テ印紙再貼用ノ外無印紙ノ罪ヲ罰シタルハ適法ニシテ上告第二論旨モ亦其理由ナントス已ニ無印紙ノ罪ヲ組成スル以上ハ其賣得金ヲ追徴セザルヘカラス然ラハ則チ上告第三論旨モ亦相立タス以上報明ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却スル者ナリ

明治二十年一月三十一日

三五四 明治二十年乙第七十七號

大阪府平民 福谷利平
同府平民 祐成 松三郎

明治十五年第六十三號布告煙草稅則第五條ニ「煙草營業者ハ管轄廳ヘ願出營業權札ヲ受ク可シ但製造仲買及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業權札ヲ受ク可シ」又同則第十一條ニ「煙草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ムヘシ但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ム可シ」煙草製造營業稅壹圓年拾五圓トアルニ據レハ煙草營業者ハ製造仲買若クハ小賣ヲ兼業スルニ於テ各別ニ其權札ヲ受クヘキニ止マリ縱令ヒ一會社ヲ設立シ又ハ數人合併シテ製造又ハ仲買小賣ヲ爲スモ其人數ニ應シ數個ノ權札ヲ受クヘキモノニ非サルヤ論ヲ待タサルナリ今原判決ヲ問スルニ「上被告等ノ内福原仙次郎一名ノミ煙草製造營業權札ヲ受ケ他ハ皆同人雇人ノ名義ヲ以テ該製造營業ヲ爲サンヲ相謀リ則仙次郎名義ノ煙草製造營業權札ヲ受クルニ付テハ其節上納スヘキ半年分ノ營業稅及其權札料等モ被告八名ニテ之ヲ出金

エノ部

シ其勝へ出願同年七月四日遂ニ其營業權札ヲ受ケ同日ヨリ大坂府和泉國南郡岸和田村字五軒屋町三百五十四番地ニ其製造場ヲ設ケ各自別煙草ノ製造ヲ始メ其製造場一切ノ費用等モ亦被告八名ニテ之ヲ負擔シ銘々業煙草ヲ買入レ之ヲ製造シ其別煙草ハ總テ福原仙次郎ヨリ之ヲ買入レタル体ニ仕爲シ自店ニ持販リ之カ小賣ヲ爲シ云々トアリテ被告八名各自資本金并ニ業煙草等ヲ互ニ出シ合ヒ煙草製造營業ヲ爲スニ當リ被告ノ内福原仙次郎一名ノ名義ヲ以テ業煙草ヲ受ケ而シテ一ノ製造場ヲ設立シ其製造場ニ於テ製造シタル煙草ヲ各自店ニ持歸リ小賣ヲ爲シタルト云フニ此キス然リ而シテ前ニ辨明セシ如ク營業權札ナル者ハ營業ノ區別ニ依リ受クヘキニ止マリ人數ニ應シ受クヘキモノニアラサレハ今被告八名等ニ於テ合併營業上一人ノ名義ニセヨ業煙草ヲ受ケ其場所ニ於テ製造シタル以上ハ之ヲ無權札ニテ煙草製造營業ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス然ルニ原裁判所ニ於テ以上ノ事實ヲ認メナカラ煙草稅則第五條第十一條第十二條第三十四條ニ依リ被告利平松三郎ニ對シ明治十八年下半季及ヒ明治十九年上半季分ノ股稅高合計拾五圓ノ三倍即チ四拾五圓ノ罰金ニ處シ利平ハ賣捌代金四拾圓貳錢松三郎ハ同ク五拾六圓五拾壹錢ヲ追徵スト旨渡シタルハ本院檢事長非常上告諭旨ノ如ク所謂法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルモノトス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十五條ニ依リ原裁判言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲スノ如ク

福谷利平
祐成 松三郎

前ニ判明スルカ如クニシテ原裁判所カ認メシ事實ハ法律上罰スヘキモノニアラス因テ治罪法第三百五十八條ニ照シ被告等ニ無罪ヲ言渡ス者也

明治二十年一月三十一日

三五五 明治二十年乙第五百二十九號

三重縣平民 藤枝利吉

本號ノ事實ハ煙草製造人ニシテ自己名義ノ出賣權札ヲ雇人ニ貸與シ出賣セシメタル者ニシテ即チ煙草稅則第六條ニ規定スル者ナルヲ以テ同第三十八條ノ制裁ヲ免レサル者トス而テ其罪ハ同則第四十七條ニ照シ營業者被告ニ歸スヘキハ勿論ナルニ付原裁判所於テ右第六條第三十八條ヲ適用處斷シタルハ適法ノ裁判ナリトス抑煙草稅則第十條第四十二條ニ所謂權札ノ貸借買賣及讓渡云々トハ營業者ヨリ他ノ營業者又ハ營業者ニ非サル者ニ之ヲ爲スノ禁シタルノ法條ニシテ本案ノ如キ其雇人ニ携帶セシメ自己ノ營業ヲ爲シタル者ヲ制裁スルノ精神ニ非ストス又原檢察官カ提供シタル公証事件ハ原判文ニ於テハ被告カ自己名義ノ出賣權札ヲ雇人ニ携帶セシメ煙草ノ出賣營業ヲナシシメタル事實ナリト認メ其事實ヲ罰スヘキ稅則第六條第三十八條ヲ適用シタル者ナレハ請求ヲ受ケタル事件ニ對シ判決ヲ與ヘサル者ト云フヲ得ス右ノ理由ナルニ付本案上告ハ一モ適法ノ原由ナキヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スル者ナリ

明治二十年五月三十日

三五六 明治二十年乙第五百五十六號

廣島縣平民 佐々木平次

上告ニ因リ原判文ヲ閱スルニ被告ハ曩ニ饗家金山榮次郎方ニ在籍中義父榮次郎カ官吏ニ抗拒シタル事實ニ付云々廣島縣裁判所へ出願不在ニ付其家務擔當中云々無印紙煙草ヲ賣渡シタル旨ノ事實ヲ明記セリ果テ然ラハ被告ハ當時烟草營業人ノ養子ニシテ其身營業者ニ非サルナリ今烟草稅則ヲ察スルニ其第四十七條ニ煙草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ懲罰ストアリ然ラハ則チ本案犯則ノ責ハ營業者榮次郎カ不在中ト否ト又ハ被告カ家務擔當中ノ所爲ト否ト問ハス被告ニアラスシテ營業者榮次郎ニ歸スヘキ者トス然ルヲ原裁判所ニ出ス被告ヲ懲罰シタルハ疑難錯誤ノ裁判ナリトス已ニ此點ニ付破毀ノ原由ヲ認メタル上ハ其他上告諭旨ニ對シ辨明ヲ願フルノ要ナキ者トス因テ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如ク

佐々木平次

前辨明ノ理由ナルニ因リ治罪法第三百五十八條同第二百二十四條ニ照シ無罪ヲ會渡ス者也
明治二十年六月十六日

三五七 明治二十年乙第六百十六號

大分縣平民 三宮 佐兵

烟草稅則ヲ案スルニ其第十三條ニ烟草製造人該烟草ヲ製造スルトキハ左ノ量目ニ從ヒ玉造紙包又ハ箱詰ニ裝置シ相當ノ印紙ヲ用テ可シ云々トアリテ此法定ノ量目ニ違ヒ裝置ヲナスカ又ハナサハル者ハ其所爲ノミヲ以テ一罪ヲ組成スル者ニシテ同則第四十一條ノ制裁ヲ免ルヘカラス然リ而テ原判官カ認ムル事實ニ依レハ被告ハ右第十三條ノ違反者ノミナラス亦第三十五條ノ違反者タルヲ以テ第四十一條第三十五條ノ刑ヲ併科スヘキ者ナルヲ以テ該論旨ハ不相立者トス然レ正原判官ハ被告カ袋入烟草ニ在所氏名及量目代價ヲ附記セザリシ所爲ニ對シ稅則第二十條同第二十一條第三十八條第四十五條ヲ適用シ各罰金料ヲ科シ烟草ヲ沒收シタルハ不當ナリトス何トナレハ被告カ所持シタル袋入烟草ハ印紙不貼用ノ者ニシテ其無印紙烟草ヲ所持スルハ販賣ノ目的タルニ外ナラス果テ然ラハ無印紙烟草ヲ販賣セント欲スル者ニシテ在所氏名量目價格等ヲ附記セザルハ犯跡ヲ隠晦セントスル犯人ノ常情ニシテ前第三十八條第四十五條ノ罪ヲ組成スル者ニ非サレハナリ然ルヲ原裁判所於テ該所爲ニ對シ各自ニ罰金料ヲ科シ烟草ヲ沒收スルノ旨渡ヲナシタルハ疑律錯誤ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百三十一條ニ則リ原裁判ノ中第四第五ノ部分ヲ破毀シ本院於テ直ニ判決スルニ左ノ如シ

三宮 佐兵

前辨明ノ如クナルヲ以テ原裁判所於テ被告カ第四第五ノ所爲ニ對シ罰金八圓科料金一圓二十錢ヲ科シ犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收シタル部分ヲ取消シ百匁袋入烟草四十八個五十匁袋入烟草十個ヲ没收スル者也
明治二十年六月三十日

三五八 明治二十年乙第六百二十九號

大分縣平民 粟生 吉作

烟草稅則ニ違ヒ裝置區分ヲ爲サ、ルモノハ同第十三條ノ違反ニシテ其所爲ノミヲ以テ一罪ヲ組成スルモノナルニ依リ同第四十一條ノ制裁ヲ免ル、能ハサルヤ勿論ナリトス然リ而テ原判官カ認メタル事實ニ依レハ被告ハ該第十條ノ違反者タルノミナラス亦第二十二條ノ違反者タルヲ以テ第四十一條第三十五條ノ刑ヲ併科セラルヘキモノタルハ原裁判官カ被告カ其裝置區分ヲ爲サ、リシ所爲ニ對シ該條ヲ當行處斷シタルハ相當ノ裁判ニシテ被告カ此點ニ對スル上告論旨ハ不相立モノナリトス然レ正被告カ所持シタル袋入烟草ハ印紙不貼用ノ者ニシテ其無印紙烟草ヲ所持スルハ販賣ノ目的タルニ外ナラサレハ無印紙烟草ヲ販賣セント欲スル者ニシテ在所氏名量目價格等ヲ附記セザルハ普通犯人ノ常情ニシテ是等ハ同則第三十八條第四十五條ノ罪ヲ組成スルモノニアラス然ルヲ原裁判所於テ被告カ第三第四ノ所爲ニ對シ此法條ヲ適用シ各自ニ罰金料ヲ科シ此法條ヲ適用シ其烟草ヲ沒收スルノ旨渡ヲナシタルハ被告カ上告論旨ノ如ク數律ニ錯誤アル失當ノ裁判ナリトス

明治二十年七月七日

三五九 明治二十年乙第六百五十二號

長野縣平民 宮澤 卯三郎

原判文ヲ查閱スルニ被告卯三郎ハ切斷印紙ヲ以テ結束シタル刻烟草五十目玉三個ヲ所持シ居タルヲ明治二十年五月五日收稅官ニ發見セラレタルモノトレトアリ抑モ烟草小賣人ニ於テ其所持ノ烟草ニ結束シタル印紙ノ切斷シタル場合ニ於テハ小賣人自ラ之ニ相當印紙ヲ貼用スル能ハサルヲ以テ其製造者ニ返戻シ印紙ヲ貼用セシムル乎又ハ五匁以下罰金トナサ、ルヲ得サルモノナリ故ニ若シ小賣人カ切斷印紙ノ刻烟草ヲ所持シタル場合ニ於テ稅則第三十五條ノ違反者ナリトセンニハ其所持ハ其備販賣ノ目的ナルヤ又ハ其印紙切斷後之ヲ製造人ニ付シ相當印紙ヲ

エノ部

貼用セシムルカ又ハ五匁以下ニ改裝スルカノ時間ヲ經過シタルモノナルヤ否ヲ明示セサルヘカラス否ヲサレハ本
案被告ハ稅則第三十五條ノ違犯者タルヤ否ヲ知ルニ由ナキモノナリ然ルニ原裁判ハ此必要ナル事實理由ノ明示ヲ
欠キタルヲ以テ從テ其擬律ノ當否ヲ審査スルニ由ナク是レ治罪法第三百四條ノ規定ニ違フタル裁判ナリトス
明治二十年七月九日

三六〇 明治二十年乙第七百四十二號

東京府平民 武田 德兵衛

抑烟草印紙ノ如キハ其全體ヲ完フスルニ非サレハ其効ナキヲ以テ若シ其所爲假令過失ニ出ルモ既ニ製斷セシ以上
ハ相當ノ手續ヲ踏テ改裝ヲ爲スニ非スルハ貼紙接續等ヲ爲スモ販賣等ハ爲スヲ得サルモノナリ然ルニ原判文ヲ閱
スルニ被告德兵衛ハ云々其複製印紙ニ紙片ヲ以テ取打ヲ爲シテ接續シ之ヲ以テ該烟草三個ヲ結束シテ雇人瀧澤茂
一郎ヲシテ出賣ノ爲メ携ヘシメタルモノナリ云々トアリテ此判定シタル事實タルヤ即チ複製シテ効用ヲ失シタル
印紙ヲ取打以テ接續シ更ニ結束シ取料ニ供シタルモノナルニ顯然タリ然ラハ其印紙ヲ常用スルモ既ニ無効タルモ
ノナレハ無印紙ト何ゾ擇ハンヤ故ニ稅則第三十五條ヲ當行處斷シタル處ニ適當ニシテ聊カ不法ノ處分アルニ非サ
ルモノトス依テ擬律紙幣ニ例ヲ取リ論述スルハ結局附會ノ說ニ過キサルナリ
明治二十年九月十日

三六一 明治二十年乙第八百三十八號

熊本縣平民 大野 徳太

烟草稅則第十三條ニ規定シアル刻烟草ノ裝置區分ハ烟草製造人ニ於テ爲スヘキモノニテ小賣營業者等ノ如キハ同
條十五條ニ依リ五匁以下用賣ヲ爲ス時ノ外印紙ヲ以テ結束スヘキモノナラサルハ勿論ナリト雖モ本案原裁判所カ
認ムル被告事實ニ據レハ被告徳太ハ烟草製造營業中刻レ烟草ヲ隱匿キ而シテ明治廿年八月九月ノ間製斷ノ刻烟草

壹貫六百五十匁ヲ代金六十三錢五厘ニテ中村勘次郎ニ賣掛キタルモノ云々トアルニ依レハ被告ハ製煙營業中爲
ス可キ裝置ヲ爲サハルモノニシテ即製煙營業中ニ係リ而テ其製煙營業ヲ廢シタル後チ該無印紙ノ烟草ヲ賣掛キタ
ルハ單ニ小賣營業中ニ係ルモノナリトス果シテ然ラハ其製煙營業中ニ在テ刻烟草ヲ稅則第十三條ニ從ヒ五匁以上
百匁以下玉造若クハ紙包等ニ裝置セシメテ賣力ニ隱匿キタルノ一罪ヲ犯シ而シテ小賣營業中ニ該無裝置無印紙ニ
係ル烟草壹貫六百五十匁ヲ代金六拾三錢五厘ニテ賣掛キタルノ一罪ヲ犯シタルモノナレハ稅則第四十一條第三十
五條ヲ適用シ同第四十六條ニ照シニ罪併科スヘキモノナルニ原裁判ノ單ニ無裝置ノ罪ノミヲ擬斷シタルハ固ヨリ
不法ヲ免レズト雖モ前説明ノ如ク一ハ製煙營業中ノ所爲ニ係リ一ハ製煙營業タルト小賣營業タルト間ハス刻烟
草無印紙ノ備販賣セシ上ハ各罪質ヲ異ニスルモノナルヲ以テ原檢察官カ上告旨趣ノ一部ハ之ヲ採用セサルモ其擬
律ニ錯誤アリトノ旨趣ニ其キ治罪法第四百三十一條ニ則リ原裁判ノ擬律ノ一部ヲ破毀シ本院於テ直ニ判決ヲ爲ス
左ノ如シ

大野 徳太

右徳太カ被告事實ハ原裁判所ノ認ムル所ニ據リ其所爲ニ對シテ仍ホ烟草稅則第三十五條ヲ適用シ拾圓以上百圓以
下ノ範圍内ニテ罰金拾圓ニ處シ賣掛代金六拾三錢五厘ハ之ヲ追徴スルモノナリ
明治二十年十一月十二日

三六二 明治二十年乙第八百三十二號

三重縣平民 倉田 久太郎

烟草稅則第一條ニ烟草營業者ヲ製造仲買小賣ノ三種ニ區分シ同第五條ニ烟草營業ヲ爲スモノハ管轄廳ニ顯出營業
證札ヲ受クヘキ旨ヲ規定シアルヲ以テ該營業ヲ爲スニ於テハ其種類ニ因リ營業證札ヲ各別ニ受クヘキモノナリト
雖モ稅則第三十五條第三十七條所稱烟草營業者ニシテ無印紙烟草ヲ販賣シ又ハ無印紙烟草ヲ所持シ若クハ營業ノ
爲メ無印紙烟草買入レノ所爲ノ如キハ正當證札ヲ受ケタル營業者ニシテ此等ノ所爲アル場合ニ適行スヘキ法條ニ

シテ一般人ヲ支配スル法條ニアラサルナリ然ルニ本案被告ニ對スル原裁判官渡ニ據レハ被告ハ無鑑札ニテ煙草製
造小賣營業ヲ爲シ已ニ其所爲ニ付各罰金ヲ科シタルモノナレハ其所爲即チ無鑑札營業ヲ爲シタル結果ニ外ナラザ
ル無印紙煙草ヲ販賣シ又ハ之ヲ所持シ若クハ營業ノ爲メ無印紙煙草ヲ買入レシ所爲迄テ各個ニ科罰スヘキモノニ
アラズ然ルニ原裁判官所於テ被告カ前編無印紙煙草ヲ販賣シ又ハ之ヲ所持シ若クハ營業ノ爲メ無印紙煙草買入レ
所爲ニ對シ煙草稅則第三十五條第三十七條等ヲ適用處斷シタルハ本院檢事長カ非常上告趣旨ノ如ク罰セサル所爲
ニ對シ刑ヲ科シタル不注ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百三十五條第四百三十一條ニ則リ原裁判官渡中擬律ノ一
部ヲ破毀シ本院於テ直ニ判決ヲ爲ス左ノ如シ

倉田久太郎

右被告カ所爲ノ事實ハ原判官カ認メタル曩キニ確定セシ裁判官渡ニ據リ前說明ノ理由ニ付其適用セシ法條ノ内烟
草稅則第三十五條第三十七條ニ照シ第三十二付罰金五圓第五第六ニ付各罰金拾圓ニ處スト旨渡シタル部分ハ之ヲ取
消スモノナリ

明治二十年十一月二十四日

三六三 明治二十一年乙第二十一號

長崎縣平民 本多壽一

抑賣買ナルモノハ甲賣者トシ買者ト二個人ノ間ニ成立スル契約ヲ云フモノナレハ煙草稅則第三十七條ニ於テ煙草
營業者カ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ買受ケタリト云フカ如キモ亦甲者ヨリシ營業者カ無印紙等ノ刻煙草ヲ買
入レタル場合ヲ指稱スルモノニシテ同一人カ二個ノ資格ヲ有シ甲ノ資格ヨリシノ資格ニ移シタルモノ、如キヲ云
フニアラス故ニ同一人ニシテ二個ノ資格假令ハ煙草製造ノ資格ト小賣營業ノ資格ト有スルハ其業務上異ナル
ト多シト雖モ個ハ單ニ其手續ノ異ナルノミニシテ其製造資格ヨリ小賣資格ニ移スカ如キハ恰モ左手ヨリ右手ニ移
轉スルニ止リ眞ノ賣買ト云フ可キモノニアラサルナリ本案被告人カ所爲ノ如キモ原判官ニ對シ被告ハ八烟草

製造營業ト小賣營業トヲ兼スルモノニシテ其製造シタル刻煙草ヲ賣切人山中政治ニ於テ効力ナキ破損印紙ヲ以テ
製造シタルト小賣煙草買入帳ニ記載シ所持シタルモノナルヤ明白ナリト雖モ個ハ被告カ有スル製造ノ資格ヨリ小
賣ノ資格ニ移シタルニ止リ煙草稅則第三十七條ニ所謂無印紙ノ煙草ヲ買受ケタルモノトハ云フヲ得サルモノトス
故ニ原裁判官ハ其事實ヲ認テ以テ煙草稅則第三十五條ニ照シ單ニ無印紙煙草所持ノ罪ノミヲ罰シテ同第三十七條
ニ照シ無印紙煙草買入ノ罪ヲ問ハサルレハ相當ナルノミナラス從テ請求ヲ受ケタル事件ニ對シ判決ヲ與ヘサルモ
ト云フヲ得サルニ付上告ノ論旨ハ相立タサルモノトス

明治二十一年一月二十一日

三六四 明治二十一年乙第二百四十九號

德島縣平民 井上源平

煙草稅則第三十六條ニ帳簿ノ登記ヲ詐テ脱稅ヲ謀リ云々トアル帳簿トハ同第二十三條ニ規定スル處ノ帳簿ヲ指
シタルニ在ルヲ以テ帳簿ノ登記ヲ詐リ脱稅ヲ謀リタルノ事實アリト判定センニハ宜ク其帳簿トハ何帳ナルヤ明
示セサルヘカラス何トナルニ右第二十三條ニ規定スル以外ノ帳簿ニシテ即チ營業者カ心覺ノ爲メ便宜上調製シタ
ル帳簿ニ登記ヲナサハルトテ違法ナリト云フヲ得サルニ付キ何帳ナルヤノ事實ハ右第三十六條ノ犯罪ヲ構成スル
ニ必要ノ條件ナレハナリ故ニ本案被告人ノ如キ煙草製造人ニ在テハ右第二十三條ニ依ルニ煙草製造帳ヲ調製記帳
スヘキニ止レハ帳簿ノ登記ヲ詐リ脱稅ヲ謀リタルノ事實アリトスルニハ其煙草製造帳ニ登記ヲナサズ脱稅ヲ謀
タルヤノ事實理由ハ必ズ明示セサルヘカラス今原判官文ヲ閱スルニ被告入源平ハ云々檢査シタルニ現在セル卷上
リノ帳簿一貫四百五十枚ナルヲ帳簿上詐テ少枚ニ記載シ脱稅ヲ謀リタル者也トアルニ依レハ帳簿上登記ヲ詐
リタルヤ明カナレモ其帳簿トハ果テ煙草製造帳ナルヤ否ナ之ヲ知ルニ由ナク從テ擬律ノ當否ヲモ亦鑑査シ能ハサ
ルモノトス假ニ其帳簿トハ煙草製造帳ニ記載ヲナサハルモノトシテ所謂越權ノ處分タルヲ免レス何トナルニ一
件事實ヲ試問スルニ原裁判官カ心證ニ供シタル煙草製造帳ニ登記ヲナサハルノ事實ハ觀ルヘキモノアルモ煙草製

遺帳ニ正當ノ登記ヲナサハ即チ架空ノ判定ナルヲ以テナリ若シ烟草製造帳ニ登記ヲ正當ニナサスト認メタルニアラス烟草製造帳ニ載記セサルモノトセシカ其帳簿ハ右第二十三條規定以外ノ帳簿ナルヲ以テ之レニ登記ヲ許ルモ同第三十六條ノ犯罪ヲ組成セサルヤ前辨明ノ如クニシテ原裁判ハ擬律ノ錯誤タルヲ免レヌ要スルニ原裁判ハ本案犯罪組成上必要ナル事實ノ理由ヲ明示セサル失當ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ理由アルモノトス

明治二十一年四月三十日

三六五 明治十九年第一千二百二十五號

愛媛縣平民 中津喜三郎

烟草稅則中無印紙ノ烟草ハ營業者之ヲ所持スルヲ得サルモ製造人ノ氏名住所及ヒ代價量目等ヲ附記セサル烟草ヲ所持スルヲ能ハサルノ明文ナク同則第二十一條及同第二十二條ニ依リテ定メタル明治十六年第二十二號布達ニ於テモ製造人ノ氏名住所ヲ附記スヘシ又ハ價格量目ヲ附記スヘシト云フニ止リ附記シタル上ニ非サレハ所持スルヲ得スト云フノ律意ニ非サレハ右等ノ附記ハ販賣スルニ際シテハ可ナルモノトス然ルニ原裁判官於テ被告人カ無印紙ノ儘所持シタル烟草ニ氏名住所及ヒ代價量目等ヲ附記セス所持シタルトテ之ヲ罰シタルハ其論旨ノ如ク擬律ニ錯誤アル失當ノ裁判ナリト裁定ス

以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ注リ原裁判中被告カ第一第二ノ所爲ニ對シ言渡シタル部分ヲ破毀シ之ヲ取消シ差押タル烟草壹玉ハ被告人ニ還付スルモノ也

明治十九年十一月廿二日

三六六 明治十九年第八十一號

靜岡縣平民 柚木元吉

右元吉カ被告事件ニ付明治十八年十二月十五日靜岡縣裁判所於テ審理ノ末被告人カ烟草小賣人杉山久五郎ニ賣渡シタル烟草五十包五十個ノ内二個ハ下ニ他ノ紙ヲ以テ結束シ仍ホ其上ニ相當印紙ヲ以テ結束シタルハ烟草稅則第十四條ニ違犯シタルモノナリト云フニアルモ烟草稅則ニ之ヲ罰スルノ明文無之ヲ以テ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補櫻井信上告ヲ爲シタル其要領ハ本案被告人カ所爲ハ原裁判官ノ認ムル如クニシテ烟草稅則第十四條ニ背反セシ者アレハ同則第三十八條ニ照シ處斷スヘキモノナルハ論ヲ疾サルナリ何トナレハ該則第十四條ニ刻烟草ヲ玉造ニ爲スルハ帶印紙ヲ以テ結束スヘシ云々其第十六條ニ刻烟草ヲ玉造ニ爲シ云々帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ結束スルヲ得スト明文アリテ白紙ヲ以テ結束シタル上ニ帶印紙ヲ掛ケ置ク等ノイアラハ營業者ニ於テ其印紙ヲ按取リ白紙結束ノ價販賣シ通稅ヲ圖ルノ弊害ヲ防クノ注意ナラント思考スルヲ以テナリ然ルニ其法律ノ精神ヲ不顧則ニ之ヲ罰スル明文ナキモノトシ無罪ノ言渡ヲ爲セシハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナルニ依リ之レカ破毀ヲ要求スト論斷スルニアリ

對手人被告柚木元吉ハ上告書類ノ送達ヲ受ケタル證アルモ答辯書ヲ提出サス

大審院於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ審理判決ヲ爲ス左ノ如シ

烟草稅則第十四條ニ刻烟草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ箇所及印紙ノ彩紋ニ掛ケ製造人ノ印紙ヲ以テ消印シ云々トアリ該條ハ即チ其明文ノ如ク玉造烟草ハ帶印紙ニテ結束シ其封所ト印紙ノ彩紋トニ消印スヘシトノ注意ニシテ本件被告人カ玉造烟草ヲ白紙ニテ束テ其上ヲ正當ナル帶印紙ヲ以テ結束セシ如キノ所爲ヲ創設シタル法律ニアラサレハ被告カ所爲ヲ以テ該條ノ違背者ナリト云フヲ得スシテ其所爲ハ同則第十六條ニ背反シタル者ナルハ明カナリ然レハ其第十四條ノ違犯者ヲ罰スルハ同則第三十八條ノ正條アリト雖モ其十六條ニ觸レタル者ヲ罰スルノ法律アルニアラサレハ刑罰第五條ニ從ヒ同法第二條ニ法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルヲ得ストアル原則ニ基キ被告カ所爲ハ罰スヘキモノニアラス故ニ原裁判官ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ當然ニシテ之ヲ擬律錯誤ナリトノ上告論斷ハ其理由ナキモノト判定ス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ本案上告ハ棄却スル者也

明治十九年七月十三日

三六七 明治十八年第二千三百三十一號

福岡縣平民 白土 武市

被告人カ上告ノ理由トスル所ハ掲ケテ前文ノ如シト雖モ要スルニ原裁判官カ治罪法第四百十六條第二項ニ依リ特任セラレタル正當ノ職權ヲ以テ被告人ハ雇坑夫ノ者ヘ實錢ニ代ヘ烟草又ハ熊膽丸等ヲ引渡シタルノ事實アリト認メタルヲ實錢ニ代ヘ引渡シタルニアラス只換取シタルモノナリト云ヒ破毀ヲ求ルルニ外ナラサレハ之ヲ以テ上告ノ理由トナスニ足ラス然リト雖モ抑賣買ナルモノハ第一賣買ノ目的ノ物件第二代價第三物件並ニ代價ニ付テ双方ノ承諾ノ三條件具備シ成立シタルモノヲ指稱シ而テ亦此賣買ヨリ賣主ハ物件ヲ引渡シテ務ト代價ヲ受取ルノ權利トヲ生シ又買主ハ代價ヲ支拂フノ義務ト物件ヲ受取ルノ權利トヲ生スルモノトス今原裁判官言渡書ヲ閱スルニ被告入ハ石炭坑業ヲ爲シ云々雇坑夫ノ者ヘ實錢ニ代ヘ無權札ニテ烟草十斤一圓四十錢ニ立テ引渡シ尚ホ熊膽丸云々七方取貼四十錢ニテ交付シタルモノナリトアツテ此認メタル事實ニ依レハ被告人ノ所爲タル雇坑夫ノ者ヘ支拂フヘキ實錢ニ代フルニ烟草又ハ熊膽丸外取方ヲ以テシ之ヲ引渡シタルト云フニ止リ右等ノ烟草賣場等ヲ賣買ノ目的物ト爲シ代價ヲ定メ合意上引渡シタルト云フニ非サルヤ明白タリトス果テ然ラハ被告人カ此所爲本院檢察官附帶上告論旨ノ如ク悉ヨリ賣買ト云フ可ラサルモノナレハ從テ烟草稅則又ハ賣場規則ニ所謂無權札營業者ナリトシ罰スヘキモノニアラス況ヤ一件賣場ニ徵スルモ雇坑夫ニ日々支拂フヘキ實錢ノ代リニ相渡シアル切符ト其會テ購求シアル烟草又ハ熊膽丸等トヲ引換ヘ交付シタル迄ニ止リ若モ爲メニ利益ヲ得ルノ事跡ハ勿論賣買ナリトモ見ルヘキ形迹ナキニ於テオヤ然ルヲ原裁判官ハ既ニ此事實ヲ認メアルニモ係ハラス前掲ノ如ク處斷シタルハ疑律ニ錯誤アル失當ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ理由アルモノト裁定ス

以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ被告人カ上告ハ之ヲ棄却シ同第四百二十九條ニ依リ原裁判官言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スルヲ左ノ如シ

原裁判官言渡書ニ就キ其認定シタル事實ニ依レハ被告人カ所爲タル罪トナラサルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ被告人ニ對シ無罪ヲ言渡スモノ也

但テ押アル烟草并ニ賣場ハ治罪法第三百八條ニ照シ被告人ニ還付ス

明治十九年八月三十一日

三六八 明治十九年乙第三百一號

岐阜縣平民 川橋 永作

烟草稅則第三十六條ニ帳簿ノ登記ヲ詐テ脫稅ヲ謀リ云々トアルハ即チ烟草製造者カ印稅ヲ遁脱セシガ爲メ帳簿上詐リノ登記ヲ爲シ又ハ其帳簿ニ登記ヲ爲サスレテ脫稅ヲ謀リタル者ヲ制裁スルノ法規ナルヲハ論ヲ竣タスト雖モ該法律ノ精神タル專ラ其脫稅ヲ謀ルノ所爲ヲ罰スルモノニシテ其未製造ノ烟草ヲ買入之ヲ其僱自用者ヘ販賣スルニカキ其帳簿ヘ登記セサル者ノ如キハ即チ脫稅トナラサレハ直チニ此法條ノ支配スヘキモノニアラストス今原裁判官言渡書ニ於テ被告人カ明治十八年九月及十月中兩度ニ烟草八拾貫目ヲ前田常右衛門ヨリ買入レタルモノ詐テ帳簿ニ記載セシ該烟草ヲ店頭ニ於テ任所氏名知レサル自用者ヘ悉皆ニテ代金拾五圓ニ賣渡シタルト云々トアルハ烟草稅則第四十條ニ依リ處罰シタルハ當然ナリト雖モ帳簿ノ登記ヲ詐リ脫稅ヲ謀リタルモノト等ク同則第三十六條ヲ適用處斷シタルハ前記ノ如ク未製造ノ烟草ハ未ダ印稅ニ關係之レナキニ之ヲ脫稅ヲ謀リタルモノトシタルハ被告上告論旨ノ如ク疑律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ理由アルモノト裁定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ則リ原裁判官言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判言渡ヲ爲ス左ノ如シ

川橋 永作

原裁判官カ被告ノ所爲ニ對シ烟草稅則第三十六條ヲ適用シ罰金拾五圓ニ處スト言渡シタル部分ハ之ヲ取消ス者也

明治十九年十二月十八日

三六九 明治十九年乙第七百八十五號

東京府平民 小島市助

烟草稅則第三條ニ列烟草又ハ卷烟草ヲ製造スル者ヲ烟草製造人トストアリテ卷烟草ノミヲ製造スル者ハ玉造ヲ爲シ得ストノ區別アルニ非サレハ其製造人ハ同一ナルヲ以テ若シ玉造ヲ爲シタルニ於テハ同則第二十二條ノ規定ニ從ヒ無印紙又ハ不足印紙ノ列烟草ハ所持スルニ能ハサルモノトス故ニ被告ハ兼テ卷烟草製造者ニモセヨ百目ニ區分シ玉造ト爲シタル無印紙ノ列烟草ヲ所持シタル以上ハ稅則第二十二條ヲ犯シタル勿論ナルヲ以テ同第三十五條ニ依リ處斷スル當然ナレハ之ヲ據テハ爲スヲ得サルノミナラス又法律ノ誤解ト云フヲ得サルナリ其他ハ探證及ヒ事實ノ判定ヲ取論スルニ止リ上告適法ノ原由ナク且證據ヲ提出スモ本院ハ證據ヲ取捨シテ事實ノ判斷ヲ爲スヘキ所ニ非サルニ付到底該上告ハ渾テ相立タサルモノト裁定ス因テ治罪法第四百廿七條ニ從ヒ該上告ハ棄却スルモノ也

明治十九年十二月十六日

テノ部

(五八) 鐵道犯罪罰例 明治六年三月 第百一號布告

壬申第四百七十七號布告鐵道犯罪罰例別紙ノ通改正相成候條此旨相達候事

(別紙)

鐵道犯罪罰例

第一條 鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中醉ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ二十五圓以內ノ罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アルハ

ハ其事情ニ依リ五百圓以內ノ罰金又ハ三月以內ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス(十二年第十二號布告)

第二條 規則第四條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ二十五圓以內ノ罰金或ハ三十日以內ノ禁獄ニ處ス(十二年第十二號布告)

第三條 規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ十圓以內ノ罰金ニ處ス

第四條 規則第六條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二十五圓以內ノ罰金ニ處ス

第五條 規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ十圓以內ノ罰金ニ處ス

第六條 規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二十五圓以內ノ罰金或ハ三十日以內ノ禁獄ニ處ス(十二年第十二號布告)

第七條 規則第九條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五十圓以內ノ罰金又ハ六週間以內ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス(十二年第十二號布告)

第八條 規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以內ノ罰金ニ處ス

第九條 規則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以內ノ罰金或ハ三十日以內ノ禁獄ニ處ス(十二年第十二號布告)

第十條 規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以內ノ罰金ニ處ス

第十一條 規則第十七條ニ記スル所ノ諸荷物品書其外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺偽ノ品物書ヲ出ス者ハ三箇月以內ノ懲役又ハ禁獄或ハ其品物一噸斤ヲ云毎ニ二十五圓以內ノ罰金ニ處ス一噸以下八十圓以內尤一罰ノ罰金高五百圓ニ過キス(十二年第十二號布告)

①一ノ三三五條
②一ノ三三五條
③一ノ三三五條
④一ノ三三五條
⑤一ノ三三五條
⑥一ノ三三五條
⑦一ノ三三五條
⑧一ノ三三五條
⑨一ノ三三五條
⑩一ノ三三五條
⑪一ノ三三五條
⑫一ノ三三五條
⑬一ノ三三五條
⑭一ノ三三五條
⑮一ノ三三五條
⑯一ノ三三五條
⑰一ノ三三五條
⑱一ノ三三五條
⑲一ノ三三五條
⑳一ノ三三五條
㉑一ノ三三五條
㉒一ノ三三五條
㉓一ノ三三五條
㉔一ノ三三五條
㉕一ノ三三五條
㉖一ノ三三五條
㉗一ノ三三五條
㉘一ノ三三五條
㉙一ノ三三五條
㉚一ノ三三五條
㉛一ノ三三五條
㉜一ノ三三五條
㉝一ノ三三五條
㉞一ノ三三五條
㉟一ノ三三五條
㊱一ノ三三五條
㊲一ノ三三五條
㊳一ノ三三五條
㊴一ノ三三五條
㊵一ノ三三五條
㊶一ノ三三五條
㊷一ノ三三五條
㊸一ノ三三五條
㊹一ノ三三五條
㊺一ノ三三五條
㊻一ノ三三五條
㊼一ノ三三五條
㊽一ノ三三五條
㊾一ノ三三五條
㊿一ノ三三五條

テノ部

第十二條 鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照シ罰ヲ科スルノ外其毀損物ノ代價ヲ償ハシムルコトアルヘシ

但其償金ノ追徴モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フルハ法官ニ於テ追徴スヘシ

●參照

○關係法令

〔三七〇〕太政官第四百四十六號布告 明治五年五月

第六十一號布告鐵道略則別紙ノ通改正候條此旨相達候事

但開局日限ノ儀ハ治定ノ上追テ可相達候事

(別紙)

鐵道略則

第一條 賃金ノ事

何人ニ不限鐵道ノ列車ニテ旅行セント欲スル者ハ先賃金ヲ拂ヒ手形ヲ受取ル可シ然ラザレハ決シテ列車ニ乗ル可カラス

第二條 手形檢査及ヒ渡方ノ事

手形檢査ノ節ハ改ヲ受ケ取集ノ節ハ渡スヘシ若シ檢査ノ節手形ヲ出サス或ハ取集ノ節手形ヲ渡サハル者ハ更ニ最初發車ノ「ステーション」(ステーショントハ列車ノ立場ニテ旅客ノ乗下リ荷物ノ積ミ下リシヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ尤途中ヨリ乘來リシ者ニテ其確證判然ヲ爲ス所ヲ云フ)ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ

四三七二ノ二七條

タルトハ其乘リタル場所ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ

第三條 途中「ステーション」ニテ乘組并ニ手形ノ事

途中「ステーション」ニ於テ列車中餘地ノ有無ニ應シテ乘リ組ムコトヲ得ヘシ若シ其手形ヲ買取リシ總人數ヲ容ルヘキ餘地ナキ時ハ其中ニテ最遠キ地ニ赴ク手形所持ノ人丈ケ先ツ乘組ムコトヲ得ヘシ若シ又同里程ノ地ニ赴ク客數人アルトハ其手形ノ番號ノ順序ヲ以テ乘ルコトヲ得ヘシ

第四條 偽欺ノ者扱方ノ事

何人ニ限ラス賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行セント計リ或ハ遂ニ旅行シ又ハ其拂ヒシ賃金高相當ノ車ニ乗ラスシテ更ニ上等ノ車ニ乘リ組ミ又ハ既ニ車ヨリ下ルヘキ場所ヲ過キ増賃金ヲ拂ハスシテ遠キ場所ニ至リ遂ニ其賃金ヲ免レント計リ又ハ既ニ拂ヒタル賃金ニテ到ルヘキ場所ニ至リナカラ車ヨリ下リ去ルコトヲ肯セス其外如何ナル仕方ニテモ賃金拂方ヲ逃ントスル者ハ夫々法ニ隨テ罰スヘシ

第五條 列車運轉中出入禁止ノ事

總シテ列車ノ運轉中ニ出入スルコト又ハ車内旅客ノ居ルヘキ場所ノ外ニ乗ルコトヲ禁ス

第六條 痘瘡等ノ病人ヲ禁止スル事

痘瘡及ヒ諸傳染病ヲ煩フ者ハ乘車ヲ禁ス若シ此等ノ病人車中ニ在ラハ見當リ次第鐵道掛リノ者ヨリ車外并ニ鐵道構外ヘ退去セシムヘシ

第七條 吸煙并ニ婦人部屋男子出入禁止ノ事

テノ部

何人ニ限ラス「ステーション」構内吸煙ヲ禁セシ場所并ニ吸煙ヲ禁セシ車内ニテ吸煙スルコトヲ許サス且婦人ノ爲メニ設アル車及ヒ部屋等ニ男子妄リニ立入ルヲ許サス若シ右等ノ禁ヲ犯シ掛リノ者ノ戒メヲ用ヒサル者ハ車外并ニ鐵道構外ニ直ニ退去セシムヘシ

第八條 醉人及不行狀人扱方ノ事

何人ニ限ラス總シテ列車乗組中又ハ「ステーション」并ニ鐵道構内ニテ醉ニ乘シ安狀ヲ現ハス者又ハ不良ノ行狀ヲ爲ス者ハ鐵道掛リノ者ヨリ車外及ヒ鐵道構外ヘ直ニ退去セシムヘシ

第九條 鐵道ニ屬スル物品ヲ毀損スル時ノ事

何人ニ限ラス浪リニ「ステーション」其他鐵道構内ニ標識揭示セル書附等ヲ剝シ或ハ破リ又ハ列車ノ番號札ヲ取除キ或ハ車燈ヲ消シ又ハ各車ノ諸器械倉庫建築柵其他鐵道一切ノ附屬品ヲ毀損スル者ヲ都テ法ニ隨テ所置スヘシ

第十條 機關車等へ乗込ヲ禁スル事

機關方并ニ火夫ノ外ハ其筋ノ許シヲ得スシテ機關車又ハ炭水車ニ乘リ或ハ乗ラント爲ス可カラス且ツ車長及ヒ車掛リノ者ノ外其筋ノ許ヲ得スシテハ荷物車又ハ旅客ノ爲メニ設ケサル車ニ乘リ又ハ乗ラント爲スヘカラス若シ此禁ヲ犯シ鐵道掛リノ者ノ制止ヲ用ヒサル者ハ直チニ其場ヨリ退去セシムヘシ

第十一條 鐵道地所へ妄リニ立入者取扱方ノ事

何人ニ限ラス「ステーション」又ハ鐵道構内へ妄リニ立入者ハ鐵道掛ノ者ヨリ即刻構外ヘ立去ラシムヘシ

第十二條 旅客ノ荷物紛失毀損取扱ノ事

旅客手廻リ荷物其外所持ノ品タリト總テ之カ爲ニ別段ニ賃金ヲ拂ヒ其請取證書ヲ取置カサレハ若シ紛失毀損等アルトモ政府ニ於テ關係セサルヘシタトヒ賃金ヲ拂ヒ證書ヲ取置トモ其毀損紛失等ヲ償フハ只旅客自用衣服ノミニ止リ且ツ賃金モ五拾圓ヲ過タルコトナシ

第十三條 高金及ヒ大切ノ物品紛失毀損ニ關不關アル事

金銀紙貨幣郵便切手爲替會社通用券爲替手形約定證書金銀請拂證書地所建築沽券諸繪圖書畫古器金銀玉石鍍金及諸彫錫細工物時計類其餘衣類或ハ玩佩物ノ粧飾ニ混作ノ品類及ヒ硝子器類陶器漆器酒類蠶繭絹布生熟糸等ノ品物運送方ニ付テハ其品柄并價高等ヲ明白ニ其掛ヘ申立テ増賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合シ分ノ外總テ政府ニ於テ之ヲ償ハス

第十四條 牛馬獸類運送ノ事

牛馬及ヒ其他ノ獸類ヲ運送スルニ其持主或ハ送り人ヨリ其獸類ノ價ヲ運送掛ヘ申出相當ノ増賃金ヲ拂ヒ請合證書ヲ取置クヘシ若シ増賃金ヲ拂ハス請合ヲ爲サハル分ハ如何程高價ノ獸類紛失損害アルモ牛壹疋金貳拾圓以上馬壹疋或ハ乳牛壹疋ニ金五拾圓以上羊或ハ豚壹疋ニ金五圓以上ヲ政府ニ於テ償フコトナシ

テノ部

第十五條 砲發ヲ禁スル事

何人ニ限ラス車内ハ勿論鐵道線及ヒ其他構内ニテ砲發スルヲ禁ス

第十六條 爆發質アル危害物運輸ヲ禁スル事

鐵道寮ヨリ進テ公告スルマテハ火藥及ヒ「ピトロリヤム」「ケロシン」「オイル」「トルペンタイ」石炭油硝性並ニ爆發質燃燒質等ノ物品ハ運輸セサルヘシ

第十七條 荷物目錄ヲ渡スヘキ事

運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛ッ者ヘ引渡シ又ハ受取ノ度毎ニハ右荷主或ハ宰領人ヨリ其品柄數量及ヒ姓名ヲ記シテ掛リノ者ヘ差出スヘシ

第十八條 物品並ニ畜類損害償方定限ノ事

鐵道ニテ運送スル物品並ニ畜類紛失損害アリトモ鐵道掛リノ怠惰疎漏ヨリ起リシニ非レハ政府ニ於テ之ヲ償フコトナシ

第十九條 荷物運送賃金ノ事

何人ニ限ラス荷物運賃ノ催促ヲ受テ尙ホ拂ハサルハ其荷物ノ全部又ハ部分ヲ留置キ若シ又其荷物既ニ他所ニ運送セシキハ其後同人附屬ノ荷物鐵道掛リヘ送來ルコトアルハ之ヲ留置キ同人ヘ告知ラセタル上ニテ滯金高程ノ品ヲ入札公賣シ其滯金ト諸入費トヲ引取殘金殘品ヲ同人ヘ返スヘシ又時宜ニ依リ右ノ取計ヒヲ爲サス法官ニ訴ヘテ賃金並ニ入費等ヲ取立ルコトモアルヘシ

第二十條 規則ニ隨ハサル者ノ事

何人ニ限ラス諸事前條ノ規則ニ隨ハスンハ乘車及ヒ荷物ノ運送ヲ許サ、ルヘシ

第二十一條 規則等ノ變革布達ノ事

此規則中變革及加除アルハハ遍ク告達スヘシ

第二十二條 荷持運送引請方ノ事

諸荷物ノ運送ヲ引請ルコトハ列車中餘地ノ有無ニ應スヘシ

第二十三條

此規則ヲ施行スルカ爲メニ夫々法官ニ訴ヘ犯罪人罰シ方等ノ裁判ヲ乞フ手順ハ鐵道頭或ハ鐵道支配人ノ間ニテ其取扱アルヘシ

第二十四條

旅客並ニ荷物ノ運賃ハ時宜ニ隨ヒ變革アルト雖モ其變革毎ニハ二週日前ニ告達スヘシ尤鐵道頭鐵道支配方及ヒ運輸頭取ノ間ニ於テ前條ノ如キ告達ナク臨時ニ常例ヨリ下等ノ運賃ヲ以テ別ニ列車ヲ仕立ルコトモアルヘシ

第二十五條

此規則來ル五月七日ヨリ施行スヘシ
右ノ條々此度確定候事

三七一 工部省第拾四號告示 明治十八年 四月

明治五年五月 第百四十六號公布鐵道規則第十六條ニ依リ火藥類鐵道運送條規左ノ通相

定△但此條規ハ私設鐵道ニモ適用スルモノトス

火藥類鐵道運送條規

- 第一條 火藥類ハ鐵道局ノ都合ヲ以テ之ヲ運送スルコトアルヘシ
- 第二條 火藥類ハ別仕立列車或ハ旅客車ヲ連續セサル普通ノ貨物列車ヲ以テ運送スヘシ但兵員乘車ノ時其携帶スル彈藥ハ此限ニアラス
- 第三條 火藥類ヲ運送スルノ賃金ハ百斤ニ付一哩金壹錢貳厘ト定ム但二千五百斤以下及二十哩以内ト雖モ猶本數本哩ニ當ル金額即チ金八圓四拾錢ヲ徵スヘシ
- 第四條 火藥類ヲ運送セントスル者ハ其名種類量數及送受人ノ氏名住所ヲ記載シタル書面ヲ四拾八時間以前ニ鐵道局ニ差出シ其承諾ノ證ヲ領受スヘシ其證ナキトヤハ之ヲ運送セサルモノトス但非常急劇ノ際ハ此時間ノ限ニアラス
- 第五條 火藥類ノ受渡ヲ爲スハ鐵道局員ニ限ルヘシ且其時間ハ日出後日没前ニシテ鐵道局ニ於テ特ニ指定スル日時ヲ限ルヘシ
- 第六條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ストキハ其桶箱等ハ成ルヘク互ニ手渡ヲ爲シ決シテ地上ニ投下シ又ハ輾轉セシムヘカラス若シ輾轉セサルヲ得サルトキハ必ス草布木綿等ヲ以テ其經過スヘキ地上ヲ蔽フヘシ
- 第七條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ス者ハ鋼鐵或ハ釘ヲ附シタル靴類ヲ穿チ又ハ摺附木等ノ發火質アル器具ヲ携ヘ又ハ吸烟スルヲ許サス
- 第八條 火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ始ムルトキハ之ヲ終ルマテ少時間ト雖モ猶豫

スヘカラス又其事ニ預ラサル他人ノ其場ニ近ク防クヘシ

- 第九條 火藥類停車場若クハ鐵道ノ倉庫ニ到着シタルトキハ六時間以内ニ其受取方ヲ爲スヘシ此時間ヲ過クレハ一時間毎ニ一噸ニ付金貳圓ノ遲滯料ヲ徵スヘシ
- 第十條 鐵道局ハ火藥類ノ受渡庫入運送荷揚荷積ノ爲メ火藥類ニ生シタル損害并ニ之ニ原因シテ他ニ及ヒタル損害ハ勿論其他何等ノ事アルモ其實ニ任セサルモノトス但鐵道局員ノ過失ニ因テ起ルモノハ此限ニアラス
- 第十一條 火藥類ノ運送ヲ委託スル者ハ前ニ列記シタル條規ヲ承認シタル證トシテ鐵道局ヨリ下付シタル條規寫書ノ端末ニ署名捺印スヘシ

三七一 勅令第十二號 明治二十年五月

朕私設鐵道條規ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

私設鐵道條規

- 第一條 旅客及荷物運輸營業ノ目的ヲ以テ鐵道ヲ布設セントスル者ハ發起人五人以上結合シ鐵道會社創立願書ニ起業目論見書ヲ添ヘ本社ヲ設置セントスル地ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ差出スヘシ
- 馬車鐵道ハ本條例定ムル所ノ限ニアラス
- 第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 第一 社名及本社所在地

第二 線路ノ兩端及其經過スヘキ地名但略圖ヲ添フヘシ

第三 資本金ノ總額及總株數並一株ノ金額

第四 鐵道布設ノ費用及運輸營業上ノ收支概算

第五 發起人ノ氏名住所及發起人各自ノ引受クヘキ株數但發起人總員ノ引受クヘキ株數ハ總株數十分ノ二以上タルヘシ

第三條 政府ニ於テ第一條ノ願書及目論見書ヲ查閱シ起業ノ大體ニ不都合ナキト認ムルトキハ假免狀ヲ下付シ本社ヲ設立セントスル地ノ地方廳ニ令シ發起人ヲシテ線路圖面工事方法書工費豫算書及會社ノ定款ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

既設ノ鐵道ニ妨害ヲ生スルノ虞アリ又ハ其地方ノ狀況鐵道ノ布設ヲ要セスト認ムルトキハ願書ヲ却下スヘシ

第四條 政府ニ於テ前條ノ圖面書類ヲ審査シ妥當ナリト認ムルトキハ裁可ヲ經テ會社設立及鐵道布設ノ免許狀ヲ下付スヘシ

第五條 發起人前條ノ免許狀ヲ下付セラレタル後ニアラサレハ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ鐵道布設ノ工事ニ着手スルコトヲ得ス

第六條 會社ハ免許狀下付ノ日ヨリ三箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手シ免許狀ニ記載シタル豫定期限内ニ竣功スヘシ若シ其期限内ニ竣功シ難キ事由アルトキハ少クトモ二箇月以前本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ延期ヲ請フヘシ但其延期ハ豫定期限ノ半ヲ超ルコトヲ得ス

第七條 軌道ノ幅員ハ特許ヲ得タル者ヲ除クノ外總テ二呎六吋トス

第八條 左ニ記載スルモノヲ以テ鐵道用地トス

第一 線路ニ當ル敷地但其幅員ハ築堤切取架橋等工事ノ必要ニ應シテ定ムルモノトス

第二 停車場及之ニ附屬スル車庫貨物庫等ノ建築用ニ供スル土地

第三 前項ノ構内ニ常住ヲ要スル驛長車長及機關方等ノ家宅番人小屋等ノ建築用ニ供スル土地

第四 鐵道布設又ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修繕スル器械場及同上ノ資財器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建築用ニ供スル線路ニ沿ヒタル土地

第九條 鐵道布設ノ爲メ舊來ノ道路橋梁溝渠運河等ヲ變換シ又ハ一時之ヲ移設セントスルトキハ所管官廳ノ許可ヲ受クヘシ但其費用ハ會社ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十條 線路ノ道路ヲ橫斷スル場所ニハ橋梁ヲ架設シ若クハ踏切道ヲ設クヘシ其他危險防止ノ爲メ必要ノ場所ニハ牆柵門戶堤防ヲ設ケ若クハ番人ヲ配付スル等充分ノ警備ヲナスヘシ

第十一條 線路ノ全部若クハ一部ノ工事竣功シ旅客及貨物ノ運輸ヲ開業セントスルトキハ鐵道局長官ニ届出ヘシ

第十二條 鐵道局長官ハ前條ノ届出ニ依リ監査員ヲ派遣シテ工事方法書ニ照シ軌道橋梁車輛建物等ヲ監査セシメ完全ナリト認ムルトキハ開業免許狀ヲ下付スヘシ若

シ不完全ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ

會社ハ前項ノ開業免許狀ヲ得シテ運輸ノ業ヲ開クコトヲ得ス

第十三條 鐵道局長官ハ鐵道布設中臨時監査員ヲ派遣シテ工事ヲ監査セシメ又運輸開業ノ後ニ於テモ監査員ヲ派遣シテ軌道橋梁車輛建物等並運輸上ノ實況ヲ監査セシメ危險ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ

第十四條 第十二條第十三條ノ改築修理ヲナシタルトキハ更ニ監査ヲ受クヘシ

第十五條 官有ノ土地ニシテ鐵道用地ニ必要ナルモノ及第九條ノ土地ハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下ケ其民有ニ係ルモノハ公用土地買上規則ニ據リ買上ケ會社ニ拂下クヘシ但其土地ニ建物アルトキハ本條ニ準シテ之ヲ處分スヘシ

第十六條 會社ニ於テ鐵道布設ヲ止メ又ハ線路ノ變更ニ依リ不用トナリタル鐵道用地ニシテ最初公用土地買上規則ニ據テ買上ラレタルモノハ原所有者ニ於テ原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

會社ハ前項ノ土地不用トナリタル旨ヲ原所有者ニ通知スヘシ若シ原所有者ニ於テ三箇月以内ニ之ヲ買戻サハルトキハ其權利ヲ失フモノトス

第十七條 政府ハ鐵道用地内ニ於テ線路ニ沿ヒ電線ヲ架設スルコトヲ得又會社ハ其架柱ノ一部ヲ使用シ鐵道用ノ電線ヲ架スルコトヲ得但其一部ニ對スル費用ヲ支辨

スヘシ

第十八條 會社ハ鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ無料ニテ郵便及ヒ電信ノ用ニ供スヘシ但政府ニ於テ建物ノ改造ヲ要シ又ハ用地ノ買上ヲナストキハ其實費ヲ支辨スヘシ

第十九條 明治十五年第五十九號布告郵便條例ニ依リ郵便物ト稱スルモノ及其遞送ニ關スル人員ノ運賃ハ左ニ記載スル割合ヲ以テ遞信省ト會社ト豫メ之ヲ約定スヘシ

第一 下等旅客二十人ノ座位ニ當ル積量

一哩ニ付金一錢五厘以内

第二 一車(四噸積)貸切

一哩ニ付金五錢以内

但車室ヲ構造シ又ハ之ヲ改造セシメタルトキハ遞信省ヨリ其實費ヲ支辨スヘシ

第二十條 鐵道事務ニ關シテ往復スル官吏ハ無料ニテ乘車セシムヘシ但其官吏ハ常乗切手ヲ帶ル者ニ限ル

第二十一條 公務ヲ以テ往復スル陸海軍軍人軍屬及警察官吏又ハ軍馬銃砲彈藥糧食被服陣具工銀兵器具天幕等ハ總テ半價ヲ以テ輸送スヘシ但其公務タルコトヲ證スヘキ通券ヲ帶ル者ニ限ル

第二十二條 囚徒及其護送官吏ハ半價ヲ以テ乘車セシムヘシ

ヲノ部

第二十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ徵發令ノ定ムル所ニ從ヒ鐵道ヲ使用セシム
ヘシ

平時ト雖モ至急ニ兵隊ノ派遣ヲ要スル場合ニ於テハ當該官廳ノ命ニ從ヒ速ニ之ヲ
輸送スヘシ但其運賃ハ第二十一條ノ例ニ依ル

第二十四條 陸海軍ニ於テ軍事上必要ノ爲メ車輛ニ改修ヲ加ヘ又ハ新裝置ヲ施シ或
ハ艀卸用器具ノ製造ヲ命シ其實費ヲ支辨スルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 鐵道局長官ハ公衆ノ安全ノ爲メ官有鐵道ニ實施スル事物ハ會社ニ命シ
之ヲ施設セシムルコトヲ得

第二十六條 政府又ハ政府ノ許可ヲ得タル者ニ於テ會社ノ鐵道線路ニ接續シ若クハ
之ヲ橫斷シテ鐵道ヲ布設シ又ハ會社ノ鐵道線路ニ接近シ若クハ之ヲ橫斷シテ道路
橋梁溝渠運河ヲ設クルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

⑤五八

④三七

參看

第二十七條 官設鐵道ニ施行スル規則ハ私設鐵道ニモ亦之ヲ適用スヘシ

第二十八條 會社ニ於テ工事ノ方法又ハ會社ノ定款ヲ變更セントスルトキハ本社所
在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ認可ヲ受クヘシ

第二十九條 旅客及貨物ノ運賃額又ハ運輸規程ヲ定メ若クハ之ヲ變更セントスルト
キハ鐵道局長官ノ認可ヲ受クヘシ但下等旅客運賃額ハ一哩ニ付金一錢五厘ノ割合
ヲ超過スルコトヲ得ス又其範圍内ニ於テ運賃額ヲ増加スル場合ニ於テハ少クトモ
二週日前ニ之ヲ公示スヘシ

第二十條 列車發着時間及度數ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルトキハ鐵道局長官ニ報告ス
ヘシ

第三十一條 會社ハ半年度毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ四十日以内ニ鐵道局長官ニ差
出スヘシ

第三十二條 會社ハ其財産ノ全部若クハ一部ヲ抵當トシテ負債ヲナスコトヲ得但其
額ハ株主ヨリ拂込タル資本金額十分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

毎勘定季中ニ支拂フヘキ負債ノ元利金ヲ完償シタル後ニアラサレハ株主ニ純益金
ノ配當ヲナスコトヲ得ス

第三十三條 會社ノ勘定ヲ分ツテ左ノ二種トス

第一 資本勘定 軌道車輛器械停車場土地建物等營業上收益アルヘキ物件ノ創設
ニ係ル出納

第二 收益勘定 前項物件ノ維持保存ニ要スル費用及營業上ノ出納

第三十四條 私設鐵道ノ官設鐵道ニ接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及賃金ノ割
合等ハ鐵道局長官之ヲ定ムヘシ

二箇以上ノ私設鐵道接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及賃金ノ割合等ニ係リ雙
方ノ議協ハサルトキハ鐵道局長官ノ裁定ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ鐵道局長官ノ裁定ハ終局トス

第三十五條 政府ハ免許狀下付ノ日ヨリ滿二十五箇年ノ後(特ニ營業期限ヲ定メタ
ラノ部

ヲノ部

ルモノハ其満期後ニ於テ鐵道及附屬物件ヲ買上ルノ權アルモノトス
 第三十六條 前條ニ依リ鐵道及附屬物件ヲ買上ルトキハ前五箇年間ノ株券價格ヲ平均シ之ヲ以テ買上價格ト定ムヘシ
 第三十七條 免許狀下付ノ日ヨリ三箇月以内ニ鐵道布設工事ニ著手セス又ハ豫定期限及延期内ニ竣功セサルトキハ免許狀ノ返納ヲ命スヘシ但事宜ニ由リ其既設ノ鐵道及附屬物件ヲ公賣ニ附シ其買受者ヲシテ之ヲ竣功セシムルコトアルヘシ
 第三十八條 旅客及貨物輸送ノ際社員ノ疎虞懈怠又ハ故意ニ依リ損害ヲ生シタルトキハ會社其賠償ノ責任スヘシ
 第三十九條 第五條ノ免許狀ヲ受ケスシテ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ及鐵道布設ノ工事ニ著手シタルトキハ第三條ノ假免狀ヲ沒收シ第十二條ノ免許狀ヲ受ケス第十二條第十三條ノ改築修理ヲナサスシテ營業ヲナシタルトキハ鐵道局長官ハ之ヲ停止スヘシ但其營業中ノ收入金ハ之ヲ沒收ス
 第四十條 鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ又ハ鐵道ノ正當ナル使用ヲ妨害シタルトキハ政府ハ役員ヲ改換セシメ又ハ鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムヘシ但鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムル場合ニ於テモ其營業上ノ損益ハ仍ホ會社ニ屬スヘキモノトス
 第四十一條 本條例ノ細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

○判決例

三三三三 明治二十一年乙第五〇號

滋賀縣平民 畑中孫次郎

鐵道規則第四條何人ニ限ラス貨金ヲ拂ハス云々以下其外如何ナル仕方ニテモ貨金拂方ヲ逃レントスル者ハ去々法ニ隨テ罰スヘシトアルハ總テ乘車人カ偽欺ノ手段ヲ以テ貨金ヲ免レントシタル場合ニ當行スヘキ法條ニシテ荷物取扱上ニ關セシ法條ニアラス故ニ該條末項其外如何ナル仕方ニテモ貨金云々トアルハ乘車人カ前掲以外ノ方法ヲ以テ貨金ヲ逃レントセシモノヲ待ツノ文意ニシテ其他荷物等迄モ包含スルモノナリトハ解釋スルヲ得ス然ラハ即チ本案被告カ日ノ出新聞紙登報ヲ矢橋菊次郎ニ托シ右菊次郎ハ自己ノ手廻荷物トナシ之ヲ大垣停車場送付行タル末吉岡市三層人柳京平ニ渡サシメタル所爲ノ如キハ固ヨリ前第四條ノ制裁スヘキ限リニアラストス何トナレハ該新聞ヲ菊次郎ノ手廻荷物トナレタルハ被告ト菊次郎ノ約束上ニ出テ而テ菊次郎カ少許ノ荷物ヲ手廻リトシテ乘車シタルモノナレハ略モ法律ニ違背セシ廉ナケレハナリ然ルニ原裁判所於テ該事實ヲ認メナカラ鐵道規則第四條ニ違背スルモノトナシ鐵道犯罪條例改正條款ヲ適用處斷シタルハ上告末項論旨ノ如ク據律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリトス因テ消罪法第四百二十九條ニ則リ該裁判言渡ヲ破毀シ本院於テ直ニ判決スル左ノ如シ

畑中孫次郎

右孫次郎カ所爲ノ事實ハ原裁判官カ認ムル所ニヨリ其所爲ニ對シ適用スヘキ法律正條ナキモノニ付消罪法第三百五十八條ニ基キ無罪ヲ言渡スモノ也

明治二十一年一月廿八日

(五九)傳染病豫防規則

明治十三年七月 第三十四號布告

明治十二年八月第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

テノ部

五九ノ九一
四六二七一
八一九二一
條

三三
九一
三三
三三

五九ノ一五
一四三三
條

五九ノ一三
三三
條

五九ノ一七
條

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸室扶私、赤痢、實布埜、利亞發疹、室扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルトキハ地方長官ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戸長ニ通知スルヲ要ス戸長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳東京府東下ハ府廳及ヒニ届出ヘシ(十八年第二十四號布告ヲ以テ衛生委)警視本署(目トアルヲ總テ戸長ト改ム以下做之)

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ戸長ニ通知スルモ妨ナシ
地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治療死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘシ(十三年第五十四號布告ヲ以テ本項追加)

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ(十三年第五十四號布告)

第四條 (十三年第五十四號布告ヲ以テ別除ス)

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校病院製作所等ニ於テ傳染病者アルハ其主長

ハ該地方官ト協議シ此ノ規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

スヘキト認ムルトキハ内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ戸長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難キト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶ヤシムヘシ(十五年第四十七號布告ヲ以テ病名票貼)

但患者治療死亡又ハ避病院ニ入リタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且ツ他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ヒ厠間、芥溜下水、溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

五九ノ一三
三三
條
五九ノ一五
一四三三
條
五九ノ一七
條
五九ノ一三
三三
條
五九ノ一五
一四三三
條
五九ノ一七
條
五九ノ一三
三三
條
五九ノ一五
一四三三
條
五九ノ一七
條

五九ノ一
五九ノ二
五九ノ三
五九ノ四
五九ノ五
五九ノ六
五九ノ七
五九ノ八
五九ノ九
五九ノ一〇
五九ノ一一
五九ノ一二
五九ノ一三
五九ノ一四
五九ノ一五
五九ノ一六
五九ノ一七
五九ノ一八
五九ノ一九
五九ノ二〇
五九ノ二一
五九ノ二二
五九ノ二三
五九ノ二四
五九ノ二五
五九ノ二六
五九ノ二七
五九ノ二八
五九ノ二九
五九ノ三〇
五九ノ三一
五九ノ三二
五九ノ三三
五九ノ三四
五九ノ三五
五九ノ三六
五九ノ三七
五九ノ三八
五九ノ三九
五九ノ四〇
五九ノ四一
五九ノ四二
五九ノ四三
五九ノ四四
五九ノ四五
五九ノ四六
五九ノ四七
五九ノ四八
五九ノ四九
五九ノ五〇
五九ノ五一
五九ノ五二
五九ノ五三
五九ノ五四
五九ノ五五
五九ノ五六
五九ノ五七
五九ノ五八
五九ノ五九
五九ノ六〇
五九ノ六一
五九ノ六二
五九ノ六三
五九ノ六四
五九ノ六五
五九ノ六六
五九ノ六七
五九ノ六八
五九ノ六九
五九ノ七〇
五九ノ七一
五九ノ七二
五九ノ七三
五九ノ七四
五九ノ七五
五九ノ七六
五九ノ七七
五九ノ七八
五九ノ七九
五九ノ八〇
五九ノ八一
五九ノ八二
五九ノ八三
五九ノ八四
五九ノ八五
五九ノ八六
五九ノ八七
五九ノ八八
五九ノ八九
五九ノ九〇
五九ノ九一
五九ノ九二
五九ノ九三
五九ノ九四
五九ノ九五
五九ノ九六
五九ノ九七
五九ノ九八
五九ノ九九
五九ノ一〇〇

第十三條 虎列刺流行スルルハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルルハ此規則ニ從テ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナルルハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得

此場合ニ於テハ醫師タルモノ吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病ヲ診斷スルトキハ總テ檢疫委員ニ届出ヘシ(十五年第四十八號布告)
但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルコトヲ得虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ボサル機遮斷シ得ヘキモノト見認ムルトキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶メシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得(十四年第五十八號布告)
但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸窒扶私病
第十六條 腸窒扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病
第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ
實布陸里亞病

五九ノ一
五九ノ二
五九ノ三
五九ノ四
五九ノ五
五九ノ六
五九ノ七
五九ノ八
五九ノ九
五九ノ一〇
五九ノ一一
五九ノ一二
五九ノ一三
五九ノ一四
五九ノ一五
五九ノ一六
五九ノ一七
五九ノ一八
五九ノ一九
五九ノ二〇
五九ノ二一
五九ノ二二
五九ノ二三
五九ノ二四
五九ノ二五
五九ノ二六
五九ノ二七
五九ノ二八
五九ノ二九
五九ノ三〇
五九ノ三一
五九ノ三二
五九ノ三三
五九ノ三四
五九ノ三五
五九ノ三六
五九ノ三七
五九ノ三八
五九ノ三九
五九ノ四〇
五九ノ四一
五九ノ四二
五九ノ四三
五九ノ四四
五九ノ四五
五九ノ四六
五九ノ四七
五九ノ四八
五九ノ四九
五九ノ五〇
五九ノ五一
五九ノ五二
五九ノ五三
五九ノ五四
五九ノ五五
五九ノ五六
五九ノ五七
五九ノ五八
五九ノ五九
五九ノ六〇
五九ノ六一
五九ノ六二
五九ノ六三
五九ノ六四
五九ノ六五
五九ノ六六
五九ノ六七
五九ノ六八
五九ノ六九
五九ノ七〇
五九ノ七一
五九ノ七二
五九ノ七三
五九ノ七四
五九ノ七五
五九ノ七六
五九ノ七七
五九ノ七八
五九ノ七九
五九ノ八〇
五九ノ八一
五九ノ八二
五九ノ八三
五九ノ八四
五九ノ八五
五九ノ八六
五九ノ八七
五九ノ八八
五九ノ八九
五九ノ九〇
五九ノ九一
五九ノ九二
五九ノ九三
五九ノ九四
五九ノ九五
五九ノ九六
五九ノ九七
五九ノ九八
五九ノ九九
五九ノ一〇〇

第十八條 實布陸里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹室扶私病
第十九條 發疹室扶私病者アルトキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ(十三年第五十四號布告ヲ以テ改正)

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病
第二十一條 痘瘡病アルトキハ第十條第十一條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ(十五年第四十八號布告ヲ以テ改正)

罰則
第二十二條 醫師戶長此規則ニ違背シタルトキハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルトキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルルハ一圓五十錢以内ノ科料ニ處ス

●參照

○判決例

電信條例第五十八條第六十二條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ普通刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

●參照

○關係法令

〔三七五〕太政官第七號布達 明治十八年五月

電信取扱規則別冊ノ通相定ム

(別冊)

電信取扱規則

第一章 電報

第一條 官報トハ各官廳ノ公信並締盟國ノ大臣長官陸海軍將帥公使及領事ノ通信ヲ云フ但商人ニシテ領事ヲ兼ムル者ヨリ發出スル電報ハ在官者ニ宛テ且公務ニ關スルモノニ非サレハ官報ト爲サス

第二條 局報トハ電信事務ニ關シ電信局及中央局并分局相互ニ送受スル通信ヲ云フ

第三條 私報トハ官報局報ヲ除クノ外諸般ノ通信ヲ云フ

第四條 發信人ハ條例第二條ニ記載シタル各類ノ電報ヲ單用シ又ハ併用スルコトヲ得

第五條 至急電報ハ通常電報ヨリ先ニ傳送シ同種類ノ電報ハ發信局ニ於テハ受托ノ

四三三
六三三
七三三
參七七

前後ニ由リ中繼局ニ於テハ受信ノ順序ニ從テ傳送スルモノトス

第二章 電報書法

第六條 電報ニ用フル文字及數字ハ莫爾斯字號ニ翻書スルコトヲ得ヘキモノニ限ル

第七條 莫爾斯字號左ノ如シ

(字號畧ス)

第八條 普通辭トハ和文ハ片假名歐文ハ羅旬語又ハ常ニ通用スル歐洲國語ニシテ其意味ノ通解シ易キモノヲ云フ但電報新書及電報新編ニ依リ語辭ニ代用スル數字ヲ以テ書シタル電報ハ普通辭ト看做スヘシ

第九條 秘辭トハ普通辭ニ非ス文字又ハ數字ノ孤立或ハ聯集シテ其意味ノ通解シ難キモノヲ云フ

第十條 隱語トハ每語ニハ通スヘキ意味アルモ作文全體ニ於テ通解シ難キモノヲ云フ

第十一條 普通辭中秘辭ヲ用ヒタルトキハ括弧ヲ以テ秘辭ノ前後ヲ圍ムヘシ

第十二條 秘辭ヲ用ヒタル私報ニハ文字ト數字トヲ混用スヘカラス

第十三條 普通辭ヲ用ヒタル和文ニハ數字ヲ混用スルコトヲ得

第十四條 和文ニハ普通辭秘辭隱語ヲ問ハス第十五條ノ場合ヲ除クノ外ハ亞刺比亞數字ヲ挿入スヘカラス

テノ部

第十五條 和文ニハ歐字及之ニ附屬シタル亞刺比亞數字ヲ挿入スルコトヲ得但小括弧ヲ以テ之ヲ區別スヘシ

第十六條 受信人ノ住所氏名ハ着信地ニ於テ配達シ易キ爲メ詳ニ之ヲ肩書スヘシ若シ町村名等他ニ類似ノ地名アルモノハ府縣名又ハ國名及郡區名ヲ記スヘシ但詳明ヲ要スルモ贅語ヲ用フヘカラス

第十七條 宛名ノ不十分ヨリ起リタル損失ハ總テ發信人ノ負擔タルヘシ

三三七
参考

第十八條 受信人ノ住所氏名ハ豫メ電信局ト約定シテ略號ヲ常用スルコトヲ得

第十九條 第七條ニ記載シタル略符號ハ賴信紙中受信人ノ名下ニ記スヘシ若シ普通ノ文字ヲ以テ記シタルトキハ發信局ニ於テ之ヲ略符號ニ改書スルモノトス

第二十條 發信人ノ賴信紙中ニ記シタル略符號判然タラサルモノハ都テ通常電報ト爲シテ取扱フヘシ

第三章 字數計算

第二十一條 和文電報ノ住所氏名ハ字數ニ算入セス歐文電報ノ住所氏名ハ語數ニ算入ス

第二十二條 和文中濁點半濁點ヲ附シタル文字ハ之ヲ二字ニ計算スヘシ

(例略ス)

第二十三條 和文中ニ用ヒタル數字歸除線句讀點及第十五條ニ記載シタル歐字及之ニ附屬シタル亞刺比亞數字ハ其一字又ハ一個ヲ片假名一字ニ計算スヘシ

(例略ス)

第二十四條 和文中ニ用ヒタル括弧及小括弧ハ之ヲ片假名二字ニ計算スヘシ

第二十五條 歐文ハ一語ノ聯綴十字ヲ超ヘサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ十字ヲ超ヘタルモノハ又之ヲ一語ニ計算スヘシ(明治二十年六月電信省令第二號ヲ以テ聯綴十字ノ下五ノ一字及計算シ十ノ下五ノ一字ヲ削ル)

第二十六條 歐文中文字又ハ數字ノ孤立シタルモノハ之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十七條 歐文中聯記シタル數字五個ヲ超ヘサルモノハ之ヲ一語ニ計算シ五個ヲ超ヘタルモノハ又之ヲ一語ニ計算スヘシ

第二十八條 歐文中順序數ヲ作ル爲メ數字ニ加ヘタル文字ハ之ヲ數字一個ニ計算スヘシ

(例略ス)

第二十九條 歐文數字中ニ用ヒタル分數點讀點及歸除線ハ一個ヲ一字ニ計算スヘシ

(例略ス)

第三十條 歐文中ニ記入シタル句讀諸點連續點略符新章ハ之ヲ語數ニ計算セス但此記號ハ必シモ傳送スルヲ要セス

第三十一條 歐文中連續點ヲ以テ繋キタル辭及略符ヲ以テ分チタル辭ハ其分辭毎ニ一語ニ計算スヘシ

(例略ス)

第三十二條 歐文中字下線ヲ每語ニ引キ又ハ二語以上ニ繋ケテ引クトキハ一個ヲ一語ニ計算スヘシ

(例略ス)

第三十三條 歐文中ニ用ヒタル括弧轉倒句讀ハ之ヲ一語ニ計算スヘシ

第三十四條 歐文普通辭中秘辭ノ雜リタルモノハ其普通辭ハ通常ノ例ヲ以テ之ヲ計算シ數字又ハ文字ノ聯集シタルモノハ數字ノ例ニ依テ之ヲ計算シ第八條ニ記載シタル國語ニ非サル語辭ハ文字ノ聯集ト看做シテ之ヲ計算スヘシ

第三十五條 歐文中國語ノ用法ニ反シテ語辭ノ聯綴シタルモノ若クハ省略シタルモノハ普通辭ノ例ヲ以テ計算スルコトヲ得ス然レトモ府縣名地名其他官位氏名等及文字ニテ記載シタル數目ハ發信人ニテ之ヲ顯明ニスル爲メ用ヒタル語數ニ因テ計算スヘシ

第三十六條 第七條ニ記載シタル略符號ハ和文ハ二字歐文ハ一語ニ計算スヘシ

第四章 電報料及手數料

第三十七條 國內一市内及登岐ヲ除ク通スル電報料左ノ如シ

一和文 片假名十字以内 一音信 金拾五錢

十字以内ヲ加フル毎ニ金拾錢ヲ増ス

一歐文 五語以内住所氏名共 金貳拾五錢

一語ヲ加フル毎ニ金五錢ヲ増ス(明治二十年六月電信省令第二號ヲ以テ一語以下一語毎ニ金拾錢五語以内ハ總テ

第三十八條 金五拾錢トスノ二十字ヲ加フル一市内ニ發着スル電報料左ノ如シ

一和文 片假名十字以内 一音信 金五錢

十字以内ヲ加フル毎ニ金三錢ヲ増ス

一歐文 五語以内住所氏名共 金拾錢

一語ヲ加フル毎ニ金貳錢ヲ増ス(明治二十年六月電信省令第二號ヲ以テ一語以下一語毎ニ金三錢五語以内ハ總テ

金拾五錢トスノ二十字ヲ加フル

第三十九條 至急官報ノ電報料ハ通常電報料ノ二倍トス

第四十條 至急私報ノ電報料ハ通常電報料ノ三倍トス

第四十一條 追尾電報料ハ追尾一回毎ニ原信電報料ノ半額ヲ増ス

第四十二條 同文電報料ハ原信ヲ除クノ外一通毎ニ和文ハ金五錢歐文ハ金拾五錢トス

第四十三條 照校電報料ハ原信電報料ノ半額ヲ増ス

第四十四條 受信電報料ハ和文ハ一音信歐文ハ五語ノ料金ヲ増ス

第四十五條 電報料ニ一錢未滿ノ端數ヲ生シタルトキ其端數ハ切捨ルモノトス

第四十六條 歐文電報ノ住所氏名ノ略號常用料ハ一ヶ年正貨拾圓トス

第四十七條 條例第三十條ノ電報受取證書ノ手數料ハ金三錢トス

第四十八條 條例第三十九條ノ別使配達料ハ九丁毎ニ金三錢トス

四三七七
參看

第四十九條 條例第三十九條ノ船配送料ハ金貳拾錢トス

第五十條 條例第四十五條ノ原信正寫ノ手数料ハ和文百字以内毎ニ金貳錢歐文百語以内毎ニ金拾錢トス

第五十一條 料金ノ還付ヲ請求スルトキハ不達ニ係ルモノハ着信局又ハ受信人ノ書面ヲ添ヘ誤謬遲延ニ係ルモノハ受信人ニ到達シタル電報ノ原書ヲ添ヘ發信人ヨリ電信局長ニ申立ヘシ但時宜ニ依リ受信人ヨリ申立ルコトヲ得

第五十二條 電報遲延ノ申出ハ郵便ニテ遞送スル時日ヨリモ後レテ届先ニ達シタル者ニ限ルヘシ

第五十三條 料金ヲ還付スルトキ前ニ電信切手又ハ郵便切手ヲ以テ納メタルモノハ電信切手ニテ還付シ通貨ヲ以テ納メタルモノハ通貨ニテ還付スヘシ

第五十四條 同文電報ノ内若干通ノ料金ヲ還付スルトキハ原信ノ料金及通數ニ因テ收入シタル料金ヲ併セ之ヲ總通數ニテ除算シ其得數ヲ以テ還付スヘキ一通ノ額トスヘシ

第五十五條 料金ノ追納方ヲ通知シタルトキハ其通知ノ日ヨリ七日以内 郵便性復ノニ納ムヘシ此期限ヲ過ルトキハ條例第十八條ニ依テ處分スヘシ 日收ヲ除ク

第五十六條 發信人又ハ受信人ヨリ料金ヲ追納スルトキハ電信中央局又ハ分局ノ追徵證書ニ據リ電信切手若クハ通貨ヲ以テスヘシ又郵便切手ヲ以テ電信切手ニ代用スルコトヲ得ヘキ地ニ在テハ郵便切手ヲ以テスルコトヲ得但其通貨又ハ郵便切手

四三七六
參看

ハ電信中央局及分局ニ於テ電信切手ニ換コルモノトス

第五章 電報發送

第五十七條 發信人ハ電報一通ニ三名マテ連署スルコトヲ得

第五十八條 受信人ノ便利ヲ圖リ電報ヲ電信中央局又ハ分局ニ預ケ置カントスルトキハ其局宛トナスモ妨ケナシ

第五十九條 電報ノ受取證書ニハ其手数料ニ當ル電信切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

第六十條 郵便ニテ電報ヲ發出スルトキハ電報文ト郵便切手トヲ合封シ其近傍ノ電信分局ヘ宛テ之ヲ差出スヘシ

第六十一條 郵便ニテ發出シタル電報ニテ閉局後ニ受取リタルモノハ翌日閉局ノ時傳送ノ手續ヲナスモノトス

第六十二條 發信人速ニ返信ヲ望ミ發信局ニ在テ之ヲ待ツトキハ局待ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十三條 發信人電報ノ受信家ヘ到達スル時他人ノ披見スルコトヲ憚ルトキハ親展ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十四條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十五條 別使ヲ以テ配達スヘキ電報ニシテ發信局ニ於テ里程分明ナラサルトキハ發信人ニ豫算ノ金額ヲ納メシメ着信局ニ於テ實地ノ調査ヲナシ過剩アラハ發信

テノ部

人ニ還付シ不足アラハ受信人ヨリ徴收スヘシ

第六十六條 郵便ヲ以テ遞送スヘキ電報ハ郵便又ハ書留郵便ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ但別配遞郵便ハ之ヲ取扱ハス

第六十七條 艦船宛ノ電報ニシテ將船ヲ以テ配達スヘキモノハ將船配達ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十八條 艦船宛ノ電報ニシテ別使ヲ以テ配達スヘキモノハ將船配達并別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第六十九條 艦船宛ノ電報ニシテ將船配達ノ指定ナク實際將船ヲ要スルトキハ其將船料ヲ受信人ヨリ徴收スヘシ

第七十條 島嶼配達ノ電報ハ着信局ヨリ一里内外ニ拘ハラヌ別使又ハ郵便ヲ用フヘキニ依リ何レカ其畧符號ヲ以テ指定スヘシ但其記入ナキモノハ先排郵便ヲ以テ遞送スヘシ

第七十一條 島嶼ノ別使配達料ハ水陸トモ實費ヲ徴收スヘキニ依リ發信人ヨリ豫算ノ金額ヲ發信局ヘ納ムヘシ其過不足ハ第六十五條ニ依リ處分スヘシ

第七十二條 電報ハ着信局ニ於テ受信シタル順序ニ依リ配達スヘシ

第七十三條 電報ハ送達紙ニ記シテ配達スヘシ

第七十四條 受信人ニ配達スル送達紙ニハ無手数料ニテ其發信局名及依托ノ月日時并ヲ記スルモノトス

第七十五條 送達紙ニ記載シタル宛名ノ者他所へ移轉シ其居所分明ナルモノ一里ヲ超ヘサルトキハ別ニ手数料ヲ要セスシテ配達スヘシ一里ヲ超ユルトキハ郵便ヲ以テ遞送スヘシ

四三七六

第七十六條 條例第三十四條ニ依リ受信人豫テ電報ヲ受取ルヘキ人名ヲ指定スルトキハ其旨書面ヲ以テ申出置クヘシ

第七十七條 電信中央局又ハ分局ニ預リ置キ及留置ク電報ハ其發信人及受信人ノ住所氏名ヲ詳記シテ七日ヨリ少ナカラサル間其局前ニ揭示スヘシ

第六章 至急電報

第七十八條 官報私報ヲ問ハス通常電報ニ先チテ傳送ヲ要スルモノハ至急電報ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ

第七十九條 至急電報ニシテ返信料ヲ前納シ其返信モ至急電報ト爲ストキハ至急電報ノ畧符號ノ次ニ「ヘンシンシヤウ」ト記スヘシ

第七章 追尾電報

第八十條 發信人豫メ受信人ノ轉居又ハ旅行等ヲ知リテ電報ヲ追送セントスルトキハ追尾電報ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ

第八十一條 追尾電報ノ第一着局以外ノ料金ハ受信人ヨリ徴收スヘシ但一市内ニテ追送スルモノハ料金ヲ要セス

第八十二條 追尾電報ノ願信紙ニハ追尾スヘキ受信人ノ居所ヲ逐次ニ記スヘシ

テノ部

第八十三條 追尾電報ノ畧符號アルモ追尾スヘキ居所ヲ逐次ニ記セサルモノニシテ若シ受信人不在ノトキ更ニ追尾スヘキ居所ヲ知ルコトヲ得タルトキハ直ニ之ヲ追送スヘシ若シ追送スヘキ居所不分明ナルカ又ハ之ヲ追送スルモ受信人ヲ尋得サルトキハ電報ヲ留置クヘシ

第八十四條 追尾電報ノ畧符號アリテ且追尾スヘキ居所ヲ逐次ニ記シタルモノハ受信人ニ達スルマテ逐局之ヲ傳送シ若シ受信人ヲ尋得サルトキハ其終尾ノ局ニ於テ前條ニ依テ之ヲ取扱フヘシ但追尾電報ノ本文ハ固ヨリ一字モ省畧セス逐局之ヲ傳送ス然レトモ逐書シタル居所ハ其當サニ送ルヘキモノヘミヨ存シ已ニ經過セシモノハ之ヲ削除スヘシ

第八十五條 追尾ノ指定ナキ電報ニテモ受信家ノ者ヨリ之ヲ追尾電報ト爲ストキハ更ニ改追尾電報ノ畧符號ヲ以テ指定シ之ヲ逐局傳送スルコトヲ得

第八十六條 追尾電報ニシテ其返信料ヲ前納スルトキハ追尾電報ノ畧符號ノ次ニ返信料前納ノ畧符號ヲ記シ第一着局マテノ返信料ヲ前納スヘシ

第八十七條 返信料ヲ前納シタル電報ヲ更ニ追尾電報ト爲ストキハ返信料前納ノ畧符號ノ次ニ改追尾電報ノ畧符號ヲ記スヘシ其着信局ニ於テハ第一着局マテノ返信料ヲ受信人ニ交付ス

第八十八條 何人ニテモ電報ノ配達ヲ受ル所ノ電信分局ヘ移轉等ノ事由ヲ書面ニテ申出置キ其電報ノ到着次第追尾電報ノ規則ニ依リ再送ヲ受ント請求スルコトヲ得

此電報ハ着信局ニ於テ更ニ改追尾電報ノ畧符號ヲ以テ指定シ移轉ノ居所所在ノ着信局ヘ追送スヘシ

第八十九條 追尾電報ヲ着信局ヨリ一里ヲ超ヘタル地ニ遞送スルトキハ前拂郵便ヲ用ヒ其送達紙中ニ電報料及郵便税ノ金額ヲ記シ之ヲ追徴ス

第九十條 受信人ニ配達スル追尾電報ノ送達紙ニハ第一發信局ノ局名月日時分ヲ記スルモノトス

第九十一條 追尾電報ヲ傳送シタル後受信人ノ所在不分明ニテ配達シ得サルトキ又ハ受信人ヨリ追尾料金ヲ出スコトヲ拒ムトキハ其追尾依托人ニ事實ヲ報シテ其料金ヲ追徴スヘシ

第八章 同文電報

第九十二條 發信人ヨリ同時ニ同文ノ電報ヲ一市内又ハ一市内ニ非サルモ着信局ヲ同クスル地方ニ住シテ居所ヲ異ニスル數名ヘ差出サントスルトキハ同文電報ノ畧符號ヲ以テ指定スヘシ

第九十三條 同文電報ノ頼信紙ニハ初筆ノ受信人ノ名下ニ略符號ト受信人ノ員數ヲ記スヘシ

第九十四條 同文電報ハ原信一通ニ定則ノ電報料ヲ課シ其餘ハ一通毎ニ同文電報料ヲ課スルモノトス

第九十五條 照校電報ヲ同文電報ト爲ストキハ同文電報ノ畧符號ノ次ニ照校電報ノヲノ部

略符號ヲ記スヘシ其電報ハ原信一通ニ照校電報料ヲ課シ其餘ハ同文電報料ノミヲ課スルモノトス

第九十六條 受信電報ヲ同文電報ト爲ストキハ同文電報ノ略符號ノ次ニ受信電報ノ略符號ヲ記シ同文電報料ノ外其通數ニ應シ受信電報料ヲ納ムヘシ

第九十七條 同文電報ハ發信人ニ於テ送達紙各通ニ受信人ノ連名ヲ記スルコトヲ請求セサルトキハ一通毎ニ一名ノミヲ記スルモノトス故ニ之ヲ請求スル者ハ同文電報ノ略符號ノ次ニ「レンメイ」ト記スヘシ

第九十八條 住居ヲ同クスル者ニ宛タル電報ニテモ同文電報ト爲スニ非サレハ電報一通ニ三名ヲ超ヘタル連名ヲ記スルコトヲ得ス

第九十九條 同文電報ヲ送達スルニ或ハ郵便ヲ以テシ或ハ別使ヲ以テスル等各配達ノ方法ヲ異ニスルモノハ受信人ノ名下ニ一々郵便配達若クハ別使配達ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第九章 照校電報

第一百條 發信人ニ於テ電報中字句ノ誤謬ヲ豫防セントスルトキハ照校電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第一百一條 照校電報ハ各局傳送ノ際全文ヲ校正スルモノトス

第一百二條 返信料ヲ前納シタル照校電報ニテ其返信モ亦照校電報ト爲ストキハ照校電報ノ略符號ノ次ニ「ヘンシンセウカウ」ト記スヘシ

第十章 受信電報

第一百三條 發信人電報ノ正ニ受信人ニ到達セシヤ否ヤノ報知ヲ受ケントスルトキハ受信電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第一百四條 受信報知ヲ要スル電報ノ發信人ニハ受信人ノ電報ヲ受取リタル時刻ヲ報知スヘシ

第一百五條 受信電報ハ其原信ノ種類ニ依テ之ヲ傳送スヘシ

第一百六條 受信報知ヲ要スル電報ヲ受信人ニ配達スル能ハサルトキハ着信局ニ於テ先ツ發信局ニ其旨ノ局報ヲ送ルヘシ然ル後電報ヲ配達スルコトヲ得タルトキハ直ニ受信電報ヲ送ルヘシ若シ局報ヲ送リタル後二十四時ヲ過クルモ尙配達スル能ハサルトキハ更ニ其事由ヲ確報スヘシ

第一百七條 受信報知ヲ要スル電報ニシテ其着信局ヨリ受信人へ別使又ハ郵便ヲ以テ配達スヘキモノハ受信電報ノ略符號ノ次ニ別使配達若クハ書留郵便配達ノ略符號ヲ記スヘシ

其郵便ヲ以テ配達スヘキモノハ郵便局へ付托セシ時刻ヲ答報ス

第一百八條 發信人配達區外ニ居住スルニ依リ別使又ハ郵便ヲ以テ受信電報ノ配達ヲ得ントスルトキハ順信紙ノ端末ニ「別使」又ハ「郵便」ト記シ其別使料又ハ郵便稅ヲ前納スヘシ

第十一章 返信料前納

テノ部

第百九條 發信人ニ於テ受信人ヨリ納ムヘキ電報料ヲ前納シテ返信ヲ受ケントスルトキハ返信料前納電報ノ略符號ヲ以テ指定スヘシ

第百十條 一音信又ハ五語ヲ超ヘテ返信料ヲ前納スルトキハ返信料前納ノ略符號ノ次ニ其字數又ハ語數ヲ記スヘシ

(例畧ス)

第百十一條 返信料ハ原信料ノ三倍ニ超ヘテ前納スルコトヲ得ス又歐文五語未滿ノ料金ヲ前納スルコトヲ得ス

第百十二條 返信ノ爲メ前納スル料金ハ通貨ヲ以テスルモ妨ナシ但着信局ニ於テハ此料金ニ當ル電信切手ヲ以テ電報ト共ニ受信人ニ交付スヘシ

第百十三條 返信料前納ノ電報ヲ受信人ニ交付スルコト能ハス又ハ受信人ニ於テ返信料ヲ受領スルコトヲ拒ムトキハ其旨ヲ着信局ヨリ電報ヲ以テ發信局ヲ經テ發信人ニ報知シ其報知ノ電報ハ返信ノ代ト看做シテ前納シタル金額ヲ收入スヘシ但和文一音信以上歐文五語以上ノ料金ヲ前納シタルモノハ一音信若クハ五語分ヲ收メテ其餘ハ發信人ニ還付スヘシ

第百十四條 返信料前納ノ電報ヲ郵便ニテ送達スルトキハ着信局ニ於テ電信切手ヲ電報ト共ニ封入シ書留郵便ヲ以テ遞送スヘシ

第百十五條 前條ノ場合ニ於テハ返信料前納ノ略符號ノ次ニ書留郵便ノ略符號ヲ記スヘシ

第百十六條 返信料前納電報ノ受信人ヨリ發スル返信ハ何時何地方ニテモ隨意ニ之ヲ送ルコトヲ得

第十二章 尋問改正

第百十七條 條例第四十三條第四十四條ニ依リ既送現送ノ電報ニ關シ發信人又ハ受信人ノ依頼ニ依リ傳送スル電報ハ其種類ニ依リ取扱フモ之ヲ往復スルニハ局名ヲ以テスルモノトス

第十三章 原信正寫

第百十八條 原信ノ正寫ニハ其手數料ニ當ル電信切手ヲ貼付シ且消印シテ交付スヘシ

○ **三七六** 遞信省告示第七十八號 明治十九年八月

電信條例第十一條第十二條第十七條第二十二條第二十七條第二十八條第三十三條第三十七條第三十八條及第四十三條中電信中央局及分局トアルハ電信分局同第二十一條電信局長ハ遞信管理局長第二十五條及第二十六條中電信中央局及工部卿ハ一等電信分局及遞信大臣同第二十八條及第四十六條中工部卿ハ遞信大臣電信取扱規則第二條第五十六條第五十八條及第七十七條中「中央局并分局」電信中央局又ハ分局「電信中央局及分局」ハ電信分局ト心得ヘシ

○ **三七七** 遞信省告示第二十六號 明治二十年三月

電信條例第四條第六十七條ノ電信局長ハ遞信大臣第七條ノ電信局長ハ郵便電信局長
 電信局長第二十五條ノ一等電信分局及遞信大臣ノ告示ヲ以テ定メタル分局ハ遞信管
 理局第二十六條ノ一等電信分局及遞信大臣ノ告示ヲ以テ定メタル分局ハ遞信管理
 又ハ一等郵便電信局一等電信局第十六條ノ電信局長第四十二條第四十五條第四十八
 條ノ電信局長ハ遞信省電信取扱規則第二條ノ電信局長ハ遞信省遞信管理局第五十一條ノ
 電信局長ハ遞信省第十八條ノ電信局長ハ郵便電信局又ハ電信局其他電信條例電信取扱
 規則中ノ電信分局ハ郵便電信局電信局ト心得ヘシ

○判決例

三七八 明治二十一年乙第九十四號

岡山縣平民 堀部 金造

明治十八年第八號布告電信條例別冊ノ通り改定シ云々但明治七年第九十八號布告十二年工部省第九號布告其他本
 條例ニ抵触スル從前ノ布告布達ハ右施行ノ日ヨリ廢止ストアリテ該條例第六十一條政府ノ指定シタル水底電信線
 路内ニ於テ艦船ヲ擧泊シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ云々五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スル旨ヲ規定シアル上ハ假令明治
 十六年第五號布告ヲ以テ水底電信線路ニ關シ前令ヲ定メラレタリト雖モ前明治十八年第八號布告施行以後ニ在テ
 ノ該犯罪ニ付テハ電信條例第六十一條ヲ適用處斷スヘキハ論ヲ俟タス然ルニ原判官ハ被告於テ政府ノ布設スル海
 底電信線ヨリ二百圓以内漁業等禁制ノ場所ニ明治二十年十一月四日午前十一時船纜ヲ沈メ漁業ヲ爲シタルモノト
 認メナカラ明治十六年第五號布告等ヲ適用處斷セシハ原檢察官上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリ
 トス

明治二十一年二月廿七日

○舊令

六〇參

三七九 太政官第九十八號布告 明治七年
 電信條例別冊ノ通相定本年十二月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

日本帝國電信條例

第一條 此條例ハ日本帝國政府電信ニ於テ所轄スル處ノ電機上ニ施行スルナリ
 第二條 此條例中ニ用ユル電報ノ語ハ百般ノ電信總テ電機ヲ以テ傳送シ又ハ傳送セント欲スルモノヲ指テ言フナ
 第三條 日本政府電信寮ハ日本帝國外ノ各地ヘ又ハ各地ヨリ傳送スル電報ヲ除キ日本帝國中ニ電報ヲ傳送シ及ヒ
 受取リ取集メ届渡等一切關係ノ事務ヲ取扱フ專任ノ權ヲ有ス
 第四條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ電送器械柱木信線若クハ其線ヲ覆フ匣蓋管筒或ハ支凸腦木柵木陶器海底線浮
 標旗竿號報柱及ヒ電機并ニ其附屬一切ノ物品ヲ毀傷スル者或ハ此ノ電機ニテ通信ノ傳送妨致又届渡シテ如何様
 ナル仕方ニテモ妨礙スル者其他上件ノ柵木支凸腦木ヲ拔取ル者ハ五百圓ヨリ多カラサル罰金又ハ三月ヨリ長カ
 ラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス
 但シ過誤失錯ニ出ル者ハ其損害ノ多少ニ隨テ償金ノミヲ出サシム
 第五條 電機掛リ官及ヒ改役或ハ其他ノ官吏又ハ何人ニテモ電信寮ノ事務ニ從事スル際之ヲ攻打シ或ハ粗暴ノ
 舉動ヲナシ其事業ニ妨礙抗抵ヲ爲ス者ハ五百圓ヨリ多カラサル罰金又ハ三月ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ
 處ス
 第六條 何人ニテモ不法ニ柱木柵木海底線信線旗竿浮標其他電機又ハ其附屬一切ノ物品ニ馬又ハ其他ノ獸畜或ハ
 舟筏等ヲ繫ク者ハ其所行ニ依テ損害ノ有無ヲ論セス壹百五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサ
 ル懲役或ハ禁獄ニ處ス
 第七條 何人ニテモ柱木信線陶器旗竿柵木支凸腦號報柱浮標其他ノ物品ヘ瓦礫若クハ雜物ヲ投擲シ又ハ矢箭火

テノ部

器ヲ彈射スル者ハ其所行ニ依テ毀傷ノ有無ヲ論セス罰百五十圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第九條 何人ニテモ電線ノ近傍ニテ紙屑ヲ飛シ信線陶器厨木枷木支凸其他電線ニ屬スル物品(紙屑又ハ其附屬ノ糸等ヲ引掛ケ電線ノ妨礙ヲ生セシムル者ハ拾圓ヨリ多カラサル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十條 何人ニテモ不法電線ノ一部分タル柱木旗竿信線支線支柱(懸子又ハ同様ノ浮標ニ乘ル者ハ其所行ニ依テ妨礙ノ有無ヲ論セス貳拾五圓ヨリ多カラサル罰金又ハ二十一日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十一條 何人ニテモ不法故意ヲ以テ柱木浮標其他一切電線附屬ノ物品(落書圖繪又ハ鐫刻スル者ハ拾圓ヨリ多カラサル罰金又ハ七日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十二條 電機係官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何人ニテモ他人(雇渡又ハキ電報ヲ故意ヲ以テ隱匿シ又ハ電報ヲ電報ヲ雇渡スヘキ命令ヲ怠リ或ハ肯セサル者ハ五拾圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十三條 電信係ニ任官スル者故意怠慢ヲ以テ音信ノ傳達又ハ雇渡スヘキ忘却遲延スル者又ハ同様ノ一ニ依テ音信ノ傳達遲延シテ妨礙延セシムル者又ハ猥リニ音信ノ旨趣ヲ傳洩スル者又ハ他人ノ人民又ハ電信係ノ官員ト雖モ其職ニ立入ヘキ職務ニ非サル者ヲ電信係ノ器械室ニ立入ラセ又ハ雇居セシムル者等以上ノ各犯ハ壹百圓ヨリ多カラサル罰金ニ處ス

第十四條 凡此條例中ニ記載シタル簡條ヲ顯然犯サント企ル者ハ五拾圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十日ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十五條 凡此條例ヲ犯シテ電信係所轄ノ物品ヲ毀傷シ又ハ他人ノ損失妨礙ヲ生スル者ハ例ニ照シテ處分スルノ

外其毀傷損失ノ罰金ヲ出サシム

但工部省所管電信私線ノ分モ總テ此條例ニ準シ處分ス

第十六條 凡犯人ヲ處罰シ罰金並價金ノ額ヲ定ムルハ總テ裁判官ノ轄内ニ屬ス

第十七條 (十二年第十八號) 布告ヲ以テ別除

○

三三〇 太政官第五號布告 明治十六年 二月

水底電信線路ニ於テ投擲漁業採藻等ノ禁ヲ犯ス者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

六〇六
六〇七

○サノ部

(六二) 裁判所呼出遅不參罰例 明治十年一月 第五號布告

凡ソ裁判所ノ呼出ヲ受ケタルモノノ疾病等ノ事故アリテ遲參又ハ不參スルルハ其事故ヲ詳記シ呼出刻限迄ニ其裁判所ニ届出ヘシ若シ右刻限ヲ過キテ届出ルカ又ハ無届ニテ遲參不參スルルハ裁判官ニ於テ直ニ五錢以上十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

(六三) 蠶種検査規則 明治十九年八月 農商務省第九號

蠶種微粒子病(一名黑痣病)豫防ノ爲メ蠶種検査規則左ノ通相定メ原種ノ検査ハ明治二十年 検査期ヨリ施行シ製絲用種ノ検査ハ同二十一年検査期ヨリ施行ス

第一條 凡ソ蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣セントスル者ハ管轄廳ニ願出テ鑑札ヲ受クヘシ

サノ部

三三〇
三三一
三三二
三三三

一回ノ視 每鏡面微粒子ノ有無ヲ檢シ左表ニ據リ病毒ノ歩合ヲ定ムヘシ
(表畧ス)

病毒ノ歩合ヲ定ムルニハ觀察中微粒子ヲ目撃セル數ニニヲ乘シ以テ百分中ノ歩合トナスヘシ

第七項 製絲用種ハ同種類中ニ於テ病毒多シト認ムルモノヨリ順次第六項檢査ヲ爲シ病毒百分ノ十五以内ノモノヲ檢出スルニ至リテ止ムヘシ

第八項 顯微鏡ハ五百倍以上ノモノヲ用フヘシ

第九項 檢査證印及ヒ廢棄證印ヲ定ムルコト左ノ如シ

原種檢査證印
圓形 徑一寸 文字(某 某檢査所原種檢査之證)

製絲用種檢査證印
橢圓形 縱一寸八分 文字(某 某檢査所製絲用種檢査之證)

廢棄證印
長方形 縱一寸五分 文字(廢棄之證)

第十項 各檢査所毎年檢査ノ成績ハ左ノ表式ニ準シ翌年二月限リ當省ニ報告スヘシ
(表式畧ス)

○伺指令

三三八二 富山縣伺 明治十九年十一月五日

去八月十七日付省令第九號檢査規則第八條ニ製種ニハ云々原種ト製絲用種トニ區別シテ檢査所ニ差出スヘシ又第十條ニ廢棄證印アル製種ハ販賣又ハ飼育スルヲ得ストアリ故ニ原種ハ原種檢査手續ニ據リ檢査シ不合格ノモノニハ廢棄ノ證印ヲ捺捺スヘキ儀ニ候ヘハ原種トシテ販賣又ハ飼養スルヲ得サルハ勿論ナレモ右條原種ニ不合格ノモノナルモ更ニ製絲用種ノ檢査ヲ受ケ合格ノモノハ製絲用種檢査證印ヲ捺捺スルモ實際敢テ差支無之儀ト思考候就テハ原種ニシテ不合格ノモノモ受檢者ノ志願ニヨリ更ニ製絲用種ノ檢査ヲナスハ差支無之儀
農商務省指令 明治十九年十一月十八日 伺之通

三三八三 熊本縣伺 明治二十年三月三日

客年八月十七日付省令第九號ヲ以テ發布相成候種檢査規則第六條中其種種秋種種ノ檢査期日ハ管轄廳ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトストアリ然ルニ其種種ハ春夏兩季ニ孵化スルモノニ有之候處春季ノ孵化種ヲ以テ製造シタル種種ハ僅々十日乃至十五日ニテ夏季ノ孵化ヲナスカ如キ速カナルモノナレハ檢査上實際至難ノ事ト被存候儀リテ春季ノ分ハ檢査ヲナス夏季ノ孵化種ヲ以テ製造シタルモノ、ミテ檢査スル儀ト心得可然哉又ハ兩季共檢査スルモノニ可有之哉

農商務省指令 明治二十年三月廿三日

伺之趣及種種ニシテ春季製造ノ分ハ春種種ト同様毎年十月一日ヨリ之ヲ檢査シ春季製造シタル分ハ夏季飼養前檢査スル義ト心得ヘレ

○キノ部

キノ部

(六四)牛馬賣買規則 明治五年十一月
第三百三十號布告
牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨幸未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定
候條各管内共區々ノ取計無之機可致候事

(別紙)

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨幸未十二月相達候處此度御詮議之次第有之別紙ノ通規則
相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段可
申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ處置可致事

壬申十月

大藏省

牛馬賣買規則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬壹鼻綱ニ付免許鑑札一枚相渡可
申事

但シ壹鼻綱ハ牛馬共七匹ニ限リ鑑札一枚ヲ所持スル者旅行ノキハ七匹以内二枚ヲ所持
スル者ハ十四匹ニ限ル可シ其餘准之可申事

第二條 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以
後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事(七年第四十五號
布告ヲ以テ改正)

第三條 免許鑑札萬一燒失流失盜難等ニテ失ヒ候モ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相
渡可申事

六四ノ四六、
九條

六四ノ四條

六四ノ九條

六四ノ一二、
七條

第四條 免許鑑札一枚ニ付一ヶ年税金壹圓上納可致事

但シ右税金前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限各管轄ヘ取立租稅察
ヘ上納可致尤モ新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致候事(八年第百十五號布告
年第四號布告ヲ
以テ納期改正)

第五條 免許鑑札燒印並ニ押切判ハ難形ノ通り其管轄所ニテ製造致シ各椽人共ヘ相渡可申
事

但シ鑑札相渡次第椽人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添ヘ當省ヘ可差
出事

第六條 右機取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之
相顯ルニ於テハ牛馬共取上免許稅十倍ノ科料可申付事

但シ密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主ヘ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二褒
美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代金並ニ科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行ニ付諸入費ハ一ヶ年試驗ノ上可申立事

第九條 免許鑑札ハ貸借決シテ不相成候事

但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡候者ハ免許稅
五倍ノ科料可申付事(七年第百三十一號布
告ヲ以テ但書共追加)

右ノ鑑札水火盜難又ハ過誤等ニテ遺失或ハ毀損候節ハ其旨管轄廳ヘ届出新規鑑札可申受

六四ノ三五條
六四ノ一九條

六四ノ三條
六四ノ三五條
六四ノ一九條

事
但手散料トシテ鑑札一枚ニ付金二十錢可相納事(八年第百六十六號布告)
(ヲ以テ但書トモ追加ス)
(難形畧之)

○(六五)危害品積込規則 明治六年八月 第二百九十二號布告

危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚シキハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件ノ法則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事
一 火藥硝石硫黃ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液并腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積候時ハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危險請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事
一 尋常ノ品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受候時ハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラヌ何地ヲ論セス直チニ發包シテ之ヲ視查スルノ權利可有之事
但爲視查發包シタル荷物中ニ危害品無之時ハ船主會社等ノ入費ヲ以テ故ノ如ク荷造可致然レモ其荷物中ニ危害品有之時ハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事
一 此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社ノ倉庫等ニ於テ見出ス時ハ之ヲ安金ノ場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事

一ノ三五條
六五ノ二三五條
項刑法第二五一條
條參看

六五ノ一項參看

六五ノ一項參看

六五ノ一項參看

但安全ノ場所ニ之ヲ移スノ費用ハ荷主ヨリ辨償可致事
一 此危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全ノ場所ニ保チ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保證人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ著港ノ上直ニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄廳或ハ裁判所ヘ可届出事
但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主ノ損失ヲ辨償スルニ不及事
一 船長及ヒ運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出ストイヘトモ官ニ訴ヘ出サル時ハ金二百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

一ノ三五條
六五ノ二三五條
參看

○(六六)金祿公債證書發行條例 明治九年八月 第百八號布告

家祿賞典祿ノ儀永世一代或ハ年限等ヲ以テ給與有之候處其制限ヲ改メ來明治十年ヨリ別紙條例ノ通公債證書ヲ以テ一時ニ下賜候條此旨布告候事
(別紙)
金祿公債證書發行條例
第一條 華士族及ヒ平民トモ各自ノ家祿賞典祿給與ノ制限ヲ改メ一時ニ之ヲ下渡スイト爲シ以テ公債證書ヲ附與ス可シ
一 永世祿ノ者ヘハ
金祿元高(賞典祿アルモノハ家祿ニ合計シ元高トス)年限

六六ノ二三
四五六條參看

中ノ部

七萬圓以上

- (七萬圓未滿六萬圓以上) 五ヶ年分
 - (六萬圓未滿五萬圓以上) 五ヶ年二分五厘分
 - (五萬圓未滿四萬圓以上) 五ヶ年七分五厘分
 - (四萬圓未滿三萬圓以上) 六ヶ年分
 - (三萬圓未滿二萬圓以上) 六ヶ年二分五厘分
 - (二萬圓未滿一萬圓以上) 六ヶ年半分
 - (壹萬圓未滿七千五百圓以上) 六ヶ年七分五厘分
 - (七千五百圓未滿五千圓以上) 七ヶ年分
 - (五千圓未滿二千五百圓以上) 七ヶ年二分五厘分
 - (二千五百圓未滿千圓以上) 七ヶ年半分
- 右一ヶ年五分ノ利子ヲ給ス
- (千圓未滿九百圓以上) 七ヶ年七分五厘分
 - (九百圓未滿八百圓以上) 八ヶ年分
 - (八百圓未滿七百圓以上) 八ヶ年二分五厘分
 - (七百圓未滿六百圓以上) 八ヶ年半分
 - (六百圓未滿五百圓以上) 八ヶ年七分五厘分
 - (五百圓未滿四百五十圓以上) 九ヶ年分

右一ヶ年六分ノ利子ヲ給ス

- (四百五十圓未滿四百圓以上) 九ヶ年二分五厘分
 - (四百圓未滿三百五十圓以上) 九ヶ年半分
 - (三百五十圓未滿三百圓以上) 九ヶ年七分五厘分
 - (三百圓未滿二百五十圓以上) 十ヶ年分
 - (二百五十圓未滿二百圓以上) 十ヶ年二分五厘分
 - (二百圓未滿百五十圓以上) 十ヶ年半分
 - (百五十圓未滿百圓以上) 十一ヶ年分
- 右一ヶ年六分ノ利子ヲ給ス
- (百圓未滿七拾五圓以上) 十一ヶ年半分
 - (七拾五圓未滿五十圓以上) 十二ヶ年分
 - (五十圓未滿四拾圓以上) 十二ヶ年半分
 - (四拾圓未滿三拾圓以上) 十三ヶ年分
 - (三拾圓未滿貳拾五圓以上) 十三ヶ年半分
 - 貳拾五圓未滿以下 十四ヶ年分

一終身祿ノ者ハ

右永世祿年限十分ノ五ヲ給ス
但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

一年限祿ノ者ハ

- 十年以上ノ者ハ右永世祿年限十分ノ四ヲ給ス
- (十年未滿八年以上)ノ者ハ右永世祿年限十分ノ三五ヲ給ス
- (八年未滿六年迄)ノ者ハ右永世祿年限十分ノ三ヲ給ス
- (六年未滿四年迄)ノ者ハ右永世祿年限十分ノ二五ヲ給ス
- (四年未滿三年迄)ノ者ハ右永世祿十分ノ二ヲ給ス
- 二年ノ者ハ右永世祿年限十分ノ一五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ト同シ

第二條 此ノ公債證書ノ利子下渡シハ明治十年分ハ十一月翌年五月ニ相渡シ以後之ニ準シ年々兩度ニ下ケ渡ス

但シ利子下ケ渡シ混淆セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月二十八日マテ十月一日ヨリ十一月廿八日マテハ證書ノ讓渡シ賣買等ノ届出ヲ見合ス可シ(明治十一年九月第貳拾六號施ス三字ハ明治十二年第廿六號布告ヲ以テ追加シタルモノニ係ル)

第三條 家祿賞典祿元高ヲ附與スル年限ニヨリテ利子ノ差異ヲ生スルキ元高ニ向テ公債證書ヲ付與スル制限左ノ如シ

一金壹萬圓

家祿賞典祿合高

此六ヶ年半分金六萬五千圓此公債證書ノ利子一ヶ年五分金三千貳百五十拾圓ト成ル

一金九千九百圓

家祿賞典祿合高

此六ヶ年七分五厘分金六萬六千八百貳拾五圓此ノ公債證書ノ利子一ヶ年五分金三千二百四十拾壹圓貳拾五錢ト爲ル

右比較九千九百圓ノ方利子九拾壹圓廿五錢ノ過ト爲ル然ルルハ壹萬圓ノ利子金額ニ超過セサルヲ以テ制限トナス故ニ九拾壹圓貳拾五錢ヲ引去リ利子三千貳百五十拾圓ニ適當スル公債證書ヲ下渡ヲ以テ規則トス其他右ニ類似ノ件ハ皆之ニ準ス

第四條 此公債證書ハ利子ノ差ニヨリ區別アリト云ヒ其發行スル種類ハ左ノ如シ

- 五圓 拾圓 貳拾五圓 五拾圓 百圓
- 三百圓 五百圓 千圓 五千圓

第五條 前條公債證書ヲ付與スルニ當リテハ公債證書ニ未滿ノ端金ハ總テ通貨ニテ相渡ス

第六條 此公債證書ノ元金ハ五ヶ年間之ヲ振置キ六ヶ年目ヨリ大藏省ノ都合ニ因リ毎年抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シ都合三十ヶ年間ニ悉皆之ヲ消却ス可シ

第七條 此公債證書發行ニ付テノ順序其外トモ此條例外ノ事件ハ都テ新舊公債證書發行條例ノ通りタルコト心得可シ

(六七)起業公債 明治十一年四月 第七號布告

今般全國中公益ノ事業ヲ興シ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賣ヲ盛ニスル爲メ新々ニ壹千貳

六六ノ二四

六六ノ一係

六六ノ二二

六六ノ二四

六六ノ一係

七五

六八

百五拾萬圓ノ内國債ヲ起シ其費用ニ供スヘキニ被決定右募債方一切大藏卿へ御委任相成候條此旨布告候事

但シ詳細之儀ハ大藏卿ヨリ可及布達候事

(六八)起業公債證書發行條例 明治十一年五月
大藏省甲第十三號布達

今般内國債募集ノ儀ニ付キ本年(四月)太政官第七號布告ノ旨趣ニ因リ起業公債證書發行條例別冊ノ通り相定メ施行セシメ候條此旨布達候事

起業公債證書發行條例

此公債ハ明治十一年(四月)太政官第七號布告ノ旨趣ニ基ツキ要用ノ金額ヲ募集スル爲メ起ス所ニシテ是ヲ大日本政府ノ公債トシテ各債主ヘハ此公債證書ヲ交付シ年限ヲ定メテ之ヲ償却スルニ付大藏省ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 (公債證書ノ元高種類並ニ利息ノ制限ヲ示ス)

第一節 此公債ノ元高ハ壹千貳百五拾萬圓ニシテ年六分(百分ノ六)ノ利付トシ其元金ハ二箇年間拆置キ三ヶ年目(即チ明治十三年)ヨリ向二十三限リ(即チ明治二十五年迄)毎年大藏省ノ都合ヲ以テ(第四條ニ掲グル)抽籤ノ方法ヲ用ヒ之ヲ拂戻スヘシ而シ其利息ハ(第二條第二節)但書并ニ第四節ノ分ヲ除キ)募金拂込ミ皆濟ノ後ヨリ明治二十五年迄毎年六月十二月ノ兩度ニ之ヲ拂渡スヘシ(本文金額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ)

但シ明治十二年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當テハ年六分ノ利息月割(抽籤十五

六七看

六八ノ第一條
二三第四條一
看

六八ノ第一條
一參看

日以前ニ係ルハ前月迄ノ分十六日以後ニ係レハ半ヶ月分下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシキ迄ノ分下渡スヘシ

第二節 此公債證書面ノ金高ヲ五百圓百圓五拾圓ノ三種ニ區別シ利息ノ小札付キトス

但シ本文ノ利札ハ每半年利息渡ノキニ其渡方ヲ取扱フ銀行等ニテ切り取り引換ニ其金額ヲ得ヘキモノトス

第二條 (公債證書授受賣買等ノトヲ示ス)

第一節 此公債證書ハ(第六條ニ掲グル)記名ニ變改スル分ヲ除キ)所有主ノ名ヲ記サス故ニ書換又ハ管廩ノ捺印ヲ受クル等ノ手續ナクシテ授受賣買等(外國人ヲ除クノ外)各自ノ隨意ヲヘシ

但シ買入書入(外國人ヲ除キ)及ヒ相續人ヘノ遺物モ勝手タルヘシ

第三條 (募債並ニ出金等ノ手續概略ヲ示ス)

第一節 此公債ノ募集方並ニ元利金ノ渡方ハ都テ第一國立銀行並ニ三井銀行ヘ委任シテ取扱ハシムルカ故ニ申込ノ手續引受ノ實高期限場所及ヒ利息並ニ元金ノ渡方其他必要ノ件々ハ右兩銀行本店若クハ支店及ヒ其取引仲間等ヨリ追テ新聞紙等ヲ以テ廣告ニ及フ可シ

第二節 募リニ應シ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ最初引受方申込ノ節手付金ヲ拂込マシメ其後ハ第一第二第三ト割拂ヲ以テ順次ニ出金セシムルモノトシ其時日ハ右兩銀行等ヨリ廣告スヘシ

但シ第三割拂マテノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割合ナル月割ヲ以テ之ヲ拂渡ス可

キノ部

六八ノ第三條
一三五看

六八ノ第一條
一第三條二七
第四條一第五
條一參看

六八ノ第一條
二第三條七第
六條一參看

第六八ノ第三條
二六參看

シ(十一年大藏省甲第二十三) 第三節 右四度ノ内手附金拂込ノ節ハ該銀行ノ受取書ヲ與ヘ第一割拂ノ拂込ニハ右受取書ト引換ニ假證券ヲ與ヘ第二割拂ニハ新假證券ヲ以テ舊假證券ト取換ヘ第三割拂ノ拂込濟ミニ至リ此公債證書ヲ假證券ト引換ニ交付ス可シ

第六八ノ第一條
一三參看

但シ公債證書ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之レヲ交付ス可シ 第四節 手附金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金トモ都テ其定期ノ時日ニ先ツテ入金スル者ヘハ其高ニ對シ年六分ノ割合ナル利息月割(拂込十五日以前ニ係ルハ半ヶ月分十六日以後ニ係ルハ翌月ノ分ニ立テ、計算スルモノトス)ヲ以テ入金ノ内ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡ス可シ(十一年大藏省甲第二十三)

第六八ノ第三條
二六參看

第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルニ付テハ若シ初度ノ手付金相濟ミ更ニ第一割拂若クハ第二第三割拂出金ノ定期ヲ愆マツ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ販セシメテ返與セサルヘシ

第六八ノ第三條
三參看

第六節 出金未タ皆濟ニ至ラス此公債證書ヲ受取ラサル以前タリトモ當人ノ都合ニ依リ第一割拂ヨリ交付シタル假證券ヲ授受買賣質入書入ニスルハ(外國人ヲ除クノ外)勝手タルヘシ尤モ授受買賣ノ節ハ其證券ノ裏面ニ讓渡人(又ハ賣主)ノ姓名住所ト讓受人(又ハ買主)ノ姓名住所ト記載シ且調印スルモノトス

第六八ノ第二條
一三參看

但シ此讓受人(又ハ買主)ニテ其次ノ割拂出金ヲ愆期スルハ本條第五節ノ通タル可シ 第七節 若シ申込ノ出金高募集ス可キ見込高ヨリ超過スルハ該銀行ニテ之レヲ總体ノ申

看

第六八ノ第一條
一三參看

込高ニ割付ケテ平等ニ減却シ而シテ其手付金ノ過剩トナル分ハ第一割拂ノ拂込金ニ廻スヘシ尤モ其時ノ都合ニ依テハ別ニ適宜ノ方法ヲ設ケテ之ヲ減却スルヲモアル可シ

第四條 (抽籤ノ手續概略ヲ示ス)

第一節 毎年抽籤ヲ以テ此公債ノ拂戻シヲ定ムルニハ此公債ヲ取扱フ銀行本店ニ於テ其年ノ十月中該地方身柄ノ人ニテ此公債證書(無記名記名トモ)ヲ所持スル者五人以上ヲ撰ミ大藏省國債局ノ官員ト其地方廳ノ官員各兩名以上立會ノ上抽籤ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號番號ヲ公定シ中リ籤ノ記號番號ハ速ニ新聞紙等ヲ以テ廣告スヘシ

第五條 (證書ノ毀損紛失盜難流焼失等ノ心得方ヲ示ス) (附點ノ七字ハ明治十一年大藏省甲第二十三號布達ヲ以テ追加セラル)

第六八ノ第三條
一三五參看

第一節 此公債證書ハ自然垢付或ハ少々ノ損シ等アルモ金高及ヒ主要ノ印部等ニ損害ナク正眞ノ證書タルヲ保認スヘキ分ハ當然ノ規則ニ隨ヒ元利金ノ渡方ヲ爲ス可シ尤モ過失ニテ此公債證書ノ一部分ヲ燒損シ又ハ金高及ヒ主要ノ印部等ヲ毀損シ或ハ之ヲ見認メ難キ程ノ墨附等アレハ速ニ其手續書ヲ添ヘテ兩銀行ノ本店又ハ大坂ニ在ル支店ニ持參シテ引換ヲ乞フヘシ兩銀行ハ其事實ヲ證明シテ後チ之ヲ大藏省ヘ具申シテ此引換ヲ爲スヘシ尤モ大藏省ニ於テハ其事實ハ勿論該證書面ニ金高番記號ノ部分必ス判然存在シ眞正ノ證書ニ相違ナシト見認ムル分ハ之カ引換ヲ爲スヘシ

第六八ノ第五條
一三參看

但シ此引換ヲ乞フニハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ 第二節 此公債證書紛失盜難又ハ流焼失ニ罹ル分ハ所有主ニ於テ其事實ヲ審明シ證書ノ記

キノ部

第六八ノ第五條
二款者

號番號金高枚數及ヒ所有トナリシレノ手續等詳細相認メ地方管廳ヲ經テ大藏省ヘ届出置キ償却年限ノ末期ニ至ル迄該證書終ニ顯出致サス全ク消滅セシニ相違ナキニ於テハ該證書ニ對シテ積リタル利息元金トモ一同ニ之レヲ拂渡スヘシ(明治十一年大藏省甲第二十三號布達ヲ以テ第二節第三節ヲ加)
第三節 前節届出ノ後テ該證書顯出シ而シテ未タ犯罪人ノ手ニ在ルカ或ハ犯罪ノ情ヲ知リ轉受セシモノカ或ハ情ヲ知ラストモ恩惠(貨幣又ハ物品ヲ渡サスシテ受取ルノ類)ノ讓與ニ係ルモノハ原所有主ニ於テ之ヲ取戻スコトヲ得ヘシ
但シ前二節ノ場合ニ於テ事實判明致シ難キハ都テ法官ノ裁決ニ付シ相當ノ處分ニ及フコトアルヘシ

第六條 (記名公債證書ニ變改スル手續並ニ變改セシ以後ノ規則ヲ示ス)

第一節 此公債證書ハ授受賣買等ヲ便ニスル爲メ本來無記名ナレド所有主ノ請願ニ依リテハ之ヲ變改シテ更ニ記名證書ト爲スコトヲ得ヘシ其變改ノ手續並ニ規則等ハ左ノ如シ
第二節 無記名證書ヲ記名ニ變改スルニハ證書ヲ引換ユルニ非ラス又證書本紙ニ記名スルニ非ラスシテ本條第四節ノ取扱ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス
第三節 右記名ヲ請願スルニハ第三條最後出金ノ定期ヨリ七八十日乃至五六十日以前ニ其旨ヲ此公債ヲ取扱フ兩銀行ノ本支店若クハ取引仲間等ニ申込ムヘシ右銀行ハ(支店並ニ取引仲間等ニ申込ミタル分ハ之ヲ取纏メ)請願人ノ姓名住所並ニ入用證書ノ金高等ヲ詳記シ大藏省ヘ具申シ記名種印濟ミノ證書ヲ(記名紙相添ヘ)受取リ之ヲ其本人ヘ交付シ本

第六八ノ第六條
第一款者
第二款者

人ヨリ更ニ之ヲ管廳ヘ持出テ記名其他次節ノ手續ヲ受クヘシ

第四節 前節ノ如ク大藏省ヘ具申ノ上ハ同省ニ於テ該證書ニ記名シタル極印ヲ押シ之ヲ簿冊ニ登記シ置キ再ヒ之ヲ其銀行ニ送付シテ其本人ヘ交付シ本人ヨリ管廳ヘ持出ルモノトス管廳ニ於テハ該證書ノ種類金高記號番號枚數及ヒ所有主ノ姓名住所年月日等ヲ簿冊ニ登記シ該證書ニ記名紙ヲ糊付シ該廳ノ緞印ヲ爲シ所有主ノ姓名住所ヲ記入シ該廳ノ割印及ヒ公債掛ノ捺印ヲ捺シテ再ヒ之ヲ所有主ヘ付與ス可シ
但シ一旦無記名證書ヲ引受ケ置キ追テ記名ニ改メント欲スル者ハ該證書ニ其種類金高記號番號枚數ノ目錄書及ヒ願書ヲ添ヘ管廳ヘ申立ツヘシ管廳ヨリハ願人ヘ證書ノ受取書ヲ渡シ置キ之ヲ大藏省ヘ具申シテ極印濟ミノ證書並ニ記名紙ヲ受取リ成規ノ如ク再ヒ之ヲ其本人ヘ付與スルノ手續ヲ爲スモノトス尤モ記名紙ハ地方官ノ見込ヲ以テ豫メ之ヲ大藏省ヨリ受取リ置クモ適宜タルヘシ

第五節 前節ノ如ク無記名證書ヲ記名證書ニ變改シタル上ハ之ヲ授受賣買シ或ハ引當物ニ爲シ又ハ紛失盜難及ヒ流焼失等ノ虞ハ明治八年(五月)太政官第九十五號布告改正新舊公債證書發行條例第六條第七條第八條第九條第十條ヲ適用スヘシ尤モ右條例ヲ此記名公債證書ニ適用スル場合ニ於テハ右條例中換用ノ文字並ニ不用ノ條々左ノ如シ
但シ元利金渡方等ノ手續ハ無記名公債證書ト同様ナルモノトス

右條例第六條ヨリ第十條迄ノ中ニ「新舊公債證書共」並ニ「新舊公債證書」トアルハ都テ「此記名公債證書」ト改ム

第七五參看

第六八ノ第六條
三款者

同第六條第一節但書ノ「其都度大藏省へ届出可シ」ヲ「置ク可シ」ニ改ム
 同條第二節ニ「證書裏面へ形ノ通り(裏面雜形)」及ヒ同條第三節ノ「證書裏面へ形ノ如ク(裏面雜形)」ハ都テ「記名紙へ末ニ附スル雜形ノ通り」ト改ム
 同條第三節ノ「大藏省へハ云々」ノ十五字ヲ「置クヘシ」ニ改ム
 同條第四節ノ但書ヲ削除ス
 同條第五節並ニ第七節第八節ノ「證書へ割印」ハ都テ「記名紙へ割印」ニ改ム
 同條第七節ノ「且大藏省へハ一月分翌月五日迄ニ云々」ノ廿七字ハ不用
 同條第九節ノ「就テ八年々元利金云々」ノ十八字ヲ「尤モ年々元利金拂方ハ此公債ヲ取扱フ銀行等ニテ拂渡スヘシ」ニ改ム
 同條第十節ノ「年々元利拂及」ノ六字並ニ「年々元利受取或ハ」ト兩所ニ在ル都合十六字及ヒ第十二節ヲ削除ス
 同條同節中ノ「前條」ヲ「第七節」ニ改ム
 同第七條第一節ノ「其所持人へ下渡スヘシ云々」ノ四十七字ヲ「何人タリトモ其持參人へ(外國人ヲ除クノ外)相渡スヘシ」ニ改ム
 同第八條割註ノ廿一字ヲ「此公債證書記名紙繼足ノ手續ヲ明ニス」ニ改ム
 同條第一節ノ「裏面記名ノ場所」ヲ「記名紙ノ餘枠」ニ改メ「證書ノ繼足」ヲ「記名紙ノ繼足」ニ改ム
 同第九條第一節ノ但書ヲ削除ス
 同條第二節ノ「地方官廳ニテハ即右ノ旨ヲ云々」ノ六十三字ヲ削除ス

同條第三節ノ「公布」ヲ「布達」ニ改ム
 同條第四節ノ「元利」ヲ「利金」ニ改ム

第七條 (證書製造等ノ處分ヲ示ス)

第一節 此公債證書(無記名記名トモ)ヲ私ニ割去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊付ニスル等ノ事ヲ爲ス可カラズ若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ
 第二節 此證書ヲ贋造シ又ハ人ヲシテ贋造セシメ又ハ人ノ贋造スルヲ助ケ又ハ贋造ト知リテ通用シ又ハ證書ノ圖書文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知テ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第八條

第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノコアレハ利息及ヒ償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正ス可シ
 第二節 右增補改正等アルキハ速ニ其旨趣ヲ公告ス可シ
 (別紙雜形畧之)

(六九)金札引換公債條例 明治十三年十月
第四十七號布告
 明治六年^三第百二十一號布告金札引換公債證書發行條例並改正追加ノ分共更ニ別冊ノ通告
 定候條此旨布告候事

(別冊)

キノ部

一ノ三五條

刑注第二〇四條

金札引換公債條例

第一章 總則

第六九ノ二三
四五三二四
條

第一條 金札引換公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ仕拂フモノトス

第六九ノ二三
條

第二條 金札引換公債證書ハ記名利札付ニシテ五百圓百圓五十圓ノ三種トス

第六九ノ二三
條

第三條 何人ニテモ(外國人ヲ除ク)前條ニ記載スル各種證書面ノ金高ノ紙幣ヲ差出シ金札引換公債證書ニ交換スルコトヲ得ヘシ(十六年第四十八號布告ヲ以テ停止)

第六九ノ一
條

第四條 金札引換公債證書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ成規ニ遵ヒ之ヲ截斷スヘシ

第六九ノ一
條

第二章 元利金ノ仕拂

第六九ノ一
條

第五條 金札引換公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ三ヶ年振置キ四ヶ年目ヨリ向十二ヶ年間政府ノ都合ニヨリ抽籤ノ法ヲ以テ消却シ利息ハ一ヶ年六分(百分ノ六)トシ元金消却ニ至ルマテ毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スヘシ

第六九ノ一
條

但シ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當リテハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係レハ前月迄ノ分十六日後ニ係レハ半ヶ月ヲ下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシトキマテノ分下渡スヘシ

第六九ノ三
九條

第三章 證書ノ交付及ヒ簿記ノ手續

第六九ノ三
九條

第六條 紙幣ヲ以テ金札引換公債證書ニ交換セント欲スル者ハ其紙幣並ニ紙幣ノ高ヲ記載シタル交換願書ヲ其地方ノ管廳ニ差出スヘシ

第六九ノ六
九條

第七條 地方管廳ニ於テハ紙幣ト願書トヲ受取り其受領證ヲ製シテ本人ニ渡シ其紙幣ヲ大藏省出納局若クハ其出張所ニ納付シ其預リ證ト共ニ金札引換公債證書申請書ヲ大藏省國債局ニ送付スヘシ

第六九ノ六
九條

第八條 交換願書ヲ差出シタル者ニ地方管廳ヨリ其受領證ヲ交付スルコト各月十五日以前ナレハ其月十六日以後ナレハ其翌月ヨリ計算シテ其年利ヲ拂渡スヘシ

第六九ノ六
九條

第九條 國債局ニ於テハ申請書ニ據リ其金高ニ相當スル公債證書ノ番號記號枚數ノ定メ其債主ノ住所姓名ヲ簿冊ニ登記シ並ニ割印シタル上ニテ其證書ヲ各債主ノ地方管廳ヘ送達スヘシ

第六九ノ七
九條

第十條 地方管廳ニ於テハ其債主ノ住所姓名及ヒ證書ノ金高種類枚數番號記號ヲ公債掛リノ簿冊ニ登記シ及ヒ證書裏面ノ右側ヘ債主ノ姓名ヲ記入シ且ツ管廳ノ割印ヲ加ヘ本人ヘ渡置キタル受領證ト引換ヘニ證書ヲ交付スヘシ

第六九ノ一
條

但シ證書交付ノ後チ他管ニ移轉シ若クハ他管ヨリ移轉シ來ルモノハ其出入増減表ヲ製シ每翌月五日マテニ大藏省國債局ニ届ケ出ツヘシ

第六九ノ一
條

第十一條 公債證書ト引換ヘタル受領證ノ裏面ニ本人ヲシテ證書ノ受取ヲ記サシメ翌月五日マテニ之ヲ取經メ明細表ヲ添ヘ大藏省國債局ヘ送致スヘシ

第六九ノ一
條

第四章 證書ノ様式及ヒ賣渡讓渡ノ手續

第六九ノ一
條

第十二條 此條例頒布以後ト雖モ金札引換公債證書ハ従前ノ金札引換公債證書無記名利札付ノ様式ヲ用ヒ不要予糖ノ文字ハ朱書ヲ以テ點竄スヘシ

第六九ノ一
條

第十三條 金札引換公債證書ノ所有者ニ於テ始メテ之ヲ他人(外國人ヲ除ク)ヘ賣渡シ若ク

キノ部

ハ讓渡サントヌルモ其證書ヲ其地方管廳ヘ差出シテ繼足紙ヲ請願スヘシ管廳ニ於テハ新舊公債證書ニ用フル繼足紙ヲ該證書ノ左側ニ糊付繼印シテ請願人ニ下付シ名前書替ノ手續ヲ爲サシメタル上其檢印ヲ取計フヘシ

但シ利息渡方混淆セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月十五日マテ十月一日ヨリ十一月十五日マテ證書ノ讓渡シ賣買ノ届出ヲ見合スヘシ

第十四條 此條例頒布以前交付シタル金札引換公債證書ハ記名無記名ノ分共改定ノ證書ト引換ユヘシ

第十五條 凡ソ此條例ニ明文ナキノ件ハ都テ明治八年(五月)第九十五號布告改正新舊公債證書發行條例第四條ヨリ第十二條マテ及ヒ右ニ關シ爾來改正増補ノ各條ニ準據スヘシ

(七〇)脚本樂譜條例 明治二十年十二月 勅令第七十八號

脚本樂譜條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ依リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得

第二條 演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權(即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演ズルノ權)ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ

六九ノ一二
二條

七五號

一二ノ一
七〇ノ一
九〇ノ一
五六五號
七〇ノ一

第三條 演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スヲ得

第四條 演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任ヌヘシ著作權者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スルモ亦同シ

第五條 興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

◎エノ部

(七一)郵便條例 明治十五年十二月 第五十九號布告

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス

(別冊)

郵便條例目次

第一章 郵便物	自第一條至第十一條
第二章 郵便稅	自第十二條至第十六條
第三章 郵便切手封皮素書往復葉書帶紙	自第十七條至第二十一條
第四章 免稅郵便	自第二十二條至第二十六條
第五章 書留郵便	自第二十七條至第三十一條
第六章 郵便物遞送配達	自第三十二條至第三十六條

エノ部

七〇ノ二條
七〇ノ二五
條

第七一ノ二三五
第七一ノ二三三
第七一ノ二三一
第七一ノ二三〇
第七一ノ二三
第七一ノ二二六
第七一ノ二二五
第七一ノ二二四
第七一ノ二二三
第七一ノ二二二
第七一ノ二二一
第七一ノ二二〇
第七一ノ二一九
第七一ノ二一八
第七一ノ二一七
第七一ノ二一六
第七一ノ二一五
第七一ノ二一四
第七一ノ二一三
第七一ノ二一二
第七一ノ二一一
第七一ノ二一〇
第七一ノ二〇九
第七一ノ二〇八
第七一ノ二〇七
第七一ノ二〇六
第七一ノ二〇五
第七一ノ二〇四
第七一ノ二〇三
第七一ノ二〇二
第七一ノ二〇一
第七一ノ二〇〇
第七一ノ一九九
第七一ノ一九八
第七一ノ一九七
第七一ノ一九六
第七一ノ一九五
第七一ノ一九四
第七一ノ一九三
第七一ノ一九二
第七一ノ一九一
第七一ノ一九〇
第七一ノ一八九
第七一ノ一八八
第七一ノ一八七
第七一ノ一八六
第七一ノ一八五
第七一ノ一八四
第七一ノ一八三
第七一ノ一八二
第七一ノ一八一
第七一ノ一八〇
第七一ノ一七九
第七一ノ一七八
第七一ノ一七七
第七一ノ一七六
第七一ノ一七五
第七一ノ一七四
第七一ノ一七三
第七一ノ一七二
第七一ノ一七一
第七一ノ一七〇
第七一ノ一六九
第七一ノ一六八
第七一ノ一六七
第七一ノ一六六
第七一ノ一六五
第七一ノ一六四
第七一ノ一六三
第七一ノ一六二
第七一ノ一六一
第七一ノ一六〇
第七一ノ一五九
第七一ノ一五八
第七一ノ一五七
第七一ノ一五六
第七一ノ一五五
第七一ノ一五四
第七一ノ一五三
第七一ノ一五二
第七一ノ一五一
第七一ノ一五〇
第七一ノ一四九
第七一ノ一四八
第七一ノ一四七
第七一ノ一四六
第七一ノ一四五
第七一ノ一四四
第七一ノ一四三
第七一ノ一四二
第七一ノ一四一
第七一ノ一四〇
第七一ノ一三九
第七一ノ一三八
第七一ノ一三七
第七一ノ一三六
第七一ノ一三五
第七一ノ一三四
第七一ノ一三三
第七一ノ一三二
第七一ノ一三一
第七一ノ一三〇
第七一ノ一二九
第七一ノ一二八
第七一ノ一二七
第七一ノ一二六
第七一ノ一二五
第七一ノ一二四
第七一ノ一二三
第七一ノ一二二
第七一ノ一二一
第七一ノ一二〇
第七一ノ一一九
第七一ノ一一八
第七一ノ一一七
第七一ノ一一六
第七一ノ一一五
第七一ノ一一四
第七一ノ一一三
第七一ノ一一二
第七一ノ一一一
第七一ノ一一〇
第七一ノ一〇九
第七一ノ一〇八
第七一ノ一〇七
第七一ノ一〇六
第七一ノ一〇五
第七一ノ一〇四
第七一ノ一〇三
第七一ノ一〇二
第七一ノ一〇一
第七一ノ一〇〇
第七一ノ九九
第七一ノ九八
第七一ノ九七
第七一ノ九六
第七一ノ九五
第七一ノ九四
第七一ノ九三
第七一ノ九二
第七一ノ九一
第七一ノ九〇
第七一ノ八九
第七一ノ八八
第七一ノ八七
第七一ノ八六
第七一ノ八五
第七一ノ八四
第七一ノ八三
第七一ノ八二
第七一ノ八一
第七一ノ八〇
第七一ノ七九
第七一ノ七八
第七一ノ七七
第七一ノ七六
第七一ノ七五
第七一ノ七四
第七一ノ七三
第七一ノ七二
第七一ノ七一
第七一ノ七〇
第七一ノ六九
第七一ノ六八
第七一ノ六七
第七一ノ六六
第七一ノ六五
第七一ノ六四
第七一ノ六三
第七一ノ六二
第七一ノ六一
第七一ノ六〇
第七一ノ五九
第七一ノ五八
第七一ノ五七
第七一ノ五六
第七一ノ五五
第七一ノ五四
第七一ノ五三
第七一ノ五二
第七一ノ五一
第七一ノ五〇
第七一ノ四九
第七一ノ四八
第七一ノ四七
第七一ノ四六
第七一ノ四五
第七一ノ四四
第七一ノ四三
第七一ノ四二
第七一ノ四一
第七一ノ四〇
第七一ノ三九
第七一ノ三八
第七一ノ三七
第七一ノ三六
第七一ノ三五
第七一ノ三四
第七一ノ三三
第七一ノ三二
第七一ノ三一
第七一ノ三〇
第七一ノ二九
第七一ノ二八
第七一ノ二七
第七一ノ二六
第七一ノ二五
第七一ノ二四
第七一ノ二三
第七一ノ二二
第七一ノ二一
第七一ノ二〇
第七一ノ一九
第七一ノ一八
第七一ノ一七
第七一ノ一六
第七一ノ一五
第七一ノ一四
第七一ノ一三
第七一ノ一二
第七一ノ一一
第七一ノ一〇
第七一ノ九
第七一ノ八
第七一ノ七
第七一ノ六
第七一ノ五
第七一ノ四
第七一ノ三
第七一ノ二
第七一ノ一
第七一ノ〇

第七一ノ二三五
第七一ノ二三三
第七一ノ二三一
第七一ノ二三〇
第七一ノ二三
第七一ノ二二六
第七一ノ二二五
第七一ノ二二四
第七一ノ二二三
第七一ノ二二二
第七一ノ二二一
第七一ノ二二〇
第七一ノ二一九
第七一ノ二一八
第七一ノ二一七
第七一ノ二一六
第七一ノ二一五
第七一ノ二一四
第七一ノ二一三
第七一ノ二一二
第七一ノ二一一
第七一ノ二一〇
第七一ノ二〇九
第七一ノ二〇八
第七一ノ二〇七
第七一ノ二〇六
第七一ノ二〇五
第七一ノ二〇四
第七一ノ二〇三
第七一ノ二〇二
第七一ノ二〇一
第七一ノ二〇〇
第七一ノ一九九
第七一ノ一九八
第七一ノ一九七
第七一ノ一九六
第七一ノ一九五
第七一ノ一九四
第七一ノ一九三
第七一ノ一九二
第七一ノ一九一
第七一ノ一九〇
第七一ノ一八九
第七一ノ一八八
第七一ノ一八七
第七一ノ一八六
第七一ノ一八五
第七一ノ一八四
第七一ノ一八三
第七一ノ一八二
第七一ノ一八一
第七一ノ一八〇
第七一ノ一七九
第七一ノ一七八
第七一ノ一七七
第七一ノ一七六
第七一ノ一七五
第七一ノ一七四
第七一ノ一七三
第七一ノ一七二
第七一ノ一七一
第七一ノ一七〇
第七一ノ一六九
第七一ノ一六八
第七一ノ一六七
第七一ノ一六六
第七一ノ一六五
第七一ノ一六四
第七一ノ一六三
第七一ノ一六二
第七一ノ一六一
第七一ノ一六〇
第七一ノ一五九
第七一ノ一五八
第七一ノ一五七
第七一ノ一五六
第七一ノ一五五
第七一ノ一五四
第七一ノ一五三
第七一ノ一五二
第七一ノ一五一
第七一ノ一五〇
第七一ノ一四九
第七一ノ一四八
第七一ノ一四七
第七一ノ一四六
第七一ノ一四五
第七一ノ一四四
第七一ノ一四三
第七一ノ一四二
第七一ノ一四一
第七一ノ一四〇
第七一ノ一三九
第七一ノ一三八
第七一ノ一三七
第七一ノ一三六
第七一ノ一三五
第七一ノ一三四
第七一ノ一三三
第七一ノ一三二
第七一ノ一三一
第七一ノ一三〇
第七一ノ一二九
第七一ノ一二八
第七一ノ一二七
第七一ノ一二六
第七一ノ一二五
第七一ノ一二四
第七一ノ一二三
第七一ノ一二二
第七一ノ一二一
第七一ノ一二〇
第七一ノ一一九
第七一ノ一一八
第七一ノ一一七
第七一ノ一一六
第七一ノ一一五
第七一ノ一一四
第七一ノ一一三
第七一ノ一一二
第七一ノ一一一
第七一ノ一一〇
第七一ノ一〇九
第七一ノ一〇八
第七一ノ一〇七
第七一ノ一〇六
第七一ノ一〇五
第七一ノ一〇四
第七一ノ一〇三
第七一ノ一〇二
第七一ノ一〇一
第七一ノ一〇〇
第七一ノ九九
第七一ノ九八
第七一ノ九七
第七一ノ九六
第七一ノ九五
第七一ノ九四
第七一ノ九三
第七一ノ九二
第七一ノ九一
第七一ノ九〇
第七一ノ八九
第七一ノ八八
第七一ノ八七
第七一ノ八六
第七一ノ八五
第七一ノ八四
第七一ノ八三
第七一ノ八二
第七一ノ八一
第七一ノ八〇
第七一ノ七九
第七一ノ七八
第七一ノ七七
第七一ノ七六
第七一ノ七五
第七一ノ七四
第七一ノ七三
第七一ノ七二
第七一ノ七一
第七一ノ七〇
第七一ノ六九
第七一ノ六八
第七一ノ六七
第七一ノ六六
第七一ノ六五
第七一ノ六四
第七一ノ六三
第七一ノ六二
第七一ノ六一
第七一ノ六〇
第七一ノ五九
第七一ノ五八
第七一ノ五七
第七一ノ五六
第七一ノ五五
第七一ノ五四
第七一ノ五三
第七一ノ五二
第七一ノ五一
第七一ノ五〇
第七一ノ四九
第七一ノ四八
第七一ノ四七
第七一ノ四六
第七一ノ四五
第七一ノ四四
第七一ノ四三
第七一ノ四二
第七一ノ四一
第七一ノ四〇
第七一ノ三九
第七一ノ三八
第七一ノ三七
第七一ノ三六
第七一ノ三五
第七一ノ三四
第七一ノ三三
第七一ノ三二
第七一ノ三一
第七一ノ三〇
第七一ノ二九
第七一ノ二八
第七一ノ二七
第七一ノ二六
第七一ノ二五
第七一ノ二四
第七一ノ二三
第七一ノ二二
第七一ノ二一
第七一ノ二〇
第七一ノ一九
第七一ノ一八
第七一ノ一七
第七一ノ一六
第七一ノ一五
第七一ノ一四
第七一ノ一三
第七一ノ一二
第七一ノ一一
第七一ノ一〇
第七一ノ九
第七一ノ八
第七一ノ七
第七一ノ六
第七一ノ五
第七一ノ四
第七一ノ三
第七一ノ二
第七一ノ一
第七一ノ〇

但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

第十三條 第三種第四種郵便物及雜品ノ見本ハ一個ノ重量三百目ニ超過スヘカラス

第十四條 營業品ノ見本及雜形ハ一個ノ重量四十八匁ニ超過スヘカラス

第十五條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス

第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

一 毒藥、劇藥、爆發物、易キ物品(十九年第四號布告ヲ以テ本項及ヒ決項ヲ改正追加ス)

一流動物、流動腐敗シ易キ物、輝化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ

傷害スヘキ物品但十分ノ豫防ヲ爲シ郵便局若クハ郵便受取所ノ承認ヲ受ケタル後郵便

ニ差出スモノハ此限ニアラス

一 風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫真及物品

一 金銀寶玉

一 貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便税

第十七條 郵便税ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物 重量ニ依リ 未滿亦同シ 貳錢
第二種郵便物 往復葉書一葉 二錢(十七年第三十三號布告ヲ以テ往復以下八字ヲ追加ス)

第三種郵便物 一號一個重量十六匁毎ニ十六匁未滿亦同シ 壹錢
二號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ十六匁未滿亦同シ 貳錢

第四種郵便物 重量八匁毎ニ八匁未滿亦同シ 貳錢

第十八條 郵便税ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス郵便封

皮葉書往復葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但驛遞總官ト納定アルモノハ

此限ニアラス(十七年第三十三號布告ヲ以テ葉書ノ下往復葉書ノ四字ヲ加フ以下做之)

第十九條 納税ニ用ヒタル郵便切手并封皮葉書往復葉書帶紙ノ税額印面ハ郵便局ニ於テ消

印スヘシ

第二十條 郵便税ニ過納アルモ已ニ其税額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第二十一條 未納税又ハ不足税ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ

受取人其郵便物ヲ受取リタルトキハ其納税ヲ拒ムヘカラス

受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ三倍ヲ徴收

スヘシ

第二十二條 未納税又ハ不足税ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍

ヲ徴收スヘシ差立前ニ係ル未納税又ハ不足税ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ

第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納

税又ハ不足税ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便税完納ニ限ルヘシ

未納税又ハ不足税ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十五條 未納税又ハ不足税ヲ徴收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ

三三五 二二六
條考

其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第三章 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙

第二十六條 郵便切手郵便封皮郵便葉書往復葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノ
ナルヘシ

第二十七條 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ハ郵便稅納ノ證トナシ又郵便切手ハ書留手數
料并別配送料納濟ノ證トナスモノトス

第二十八條 郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ依テ稅額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便
切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條 郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ稅額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ驛遞總官之ヲ定
ムヘシ

第三十條 郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一個ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以
下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條 郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ驛遞局ニテ賣下ク
ルヘシ

第三十二條 郵便切手封皮葉書往復葉書ヲ賣ルモノハ驛遞總官ノ免許ヲ受ケ郵便切手賣下
所ノ標板ヲ掲クヘシ

第三十三條 郵便切手封皮葉書往復葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣
買スルカラス

三七二ノ一七
一八三三五條考
三七二ノ一八
三七二ノ一九
三七二ノ二〇
三七二ノ二一
三七二ノ二二
三七二ノ二三
三七二ノ二四
三七二ノ二五
三七二ノ二六
三七二ノ二七
三七二ノ二八
三七二ノ二九
三七二ノ三〇
三七二ノ三一
三七二ノ三二
三七二ノ三三
三七二ノ三四
三七二ノ三五
三七二ノ三六
三七二ノ三七
三七二ノ三八
三七二ノ三九
三七二ノ四〇
三七二ノ四一
三七二ノ四二
三七二ノ四三
三七二ノ四四
三七二ノ四五
三七二ノ四六
三七二ノ四七
三七二ノ四八
三七二ノ四九
三七二ノ五〇
三七二ノ五一
三七二ノ五二
三七二ノ五三
三七二ノ五四
三七二ノ五五
三七二ノ五六
三七二ノ五七
三七二ノ五八
三七二ノ五九
三七二ノ六〇
三七二ノ六一
三七二ノ六二
三七二ノ六三
三七二ノ六四
三七二ノ六五
三七二ノ六六
三七二ノ六七
三七二ノ六八
三七二ノ六九
三七二ノ七〇
三七二ノ七一
三七二ノ七二
三七二ノ七三
三七二ノ七四
三七二ノ七五
三七二ノ七六
三七二ノ七七
三七二ノ七八
三七二ノ七九
三七二ノ八〇
三七二ノ八一
三七二ノ八二
三七二ノ八三
三七二ノ八四
三七二ノ八五
三七二ノ八六
三七二ノ八七
三七二ノ八八
三七二ノ八九
三七二ノ九〇
三七二ノ九一
三七二ノ九二
三七二ノ九三
三七二ノ九四
三七二ノ九五
三七二ノ九六
三七二ノ九七
三七二ノ九八
三七二ノ九九
三七二ノ一〇〇

第三十四條 郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書往復葉書ノ印面稅額ヨ
リ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第三十五條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ノ稅額印面ヲ切取り郵便切手ニ代用スルモ其効用
ヲ有セス

第三十六條 郵便切手并封皮葉書往復葉書帶紙ノ汚損毀損捺印アルモノ及稅額印面不明瞭
ナルモノハ其効用ヲ失フ然レモ其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ證人ヲ立テ其原
由ヲ明瞭ナラシムルトキハ驛遞局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ

第三十七條 驛遞局及一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手并封皮葉書往復葉
書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第四章 免稅郵便

第三十八條 郵便郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス

第三十九條 免稅郵便物ハ驛遞局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所并以上各廳派出官吏相
互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限ルヘシ

第四十條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ

第四十一條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ
派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十二條 人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四十三條 免稅郵便物ニ他ノ書信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ附シタルモ

第七一ノ七六
 七二ノ八〇
 七三ノ八四
 七四ノ八八
 七五ノ九二
 七六ノ九六
 七七ノ一〇〇
 七八ノ一〇四
 七九ノ一〇八
 八〇ノ一一二
 八一ノ一一六
 八二ノ一二〇
 八三ノ一二四
 八四ノ一二八
 八五ノ一三二
 八六ノ一三六
 八七ノ一四〇
 八八ノ一四四
 八九ノ一四八
 九〇ノ一五二
 九一ノ一五六
 九二ノ一六〇
 九三ノ一六四
 九四ノ一六八
 九五ノ一七二
 九六ノ一七六
 九七ノ一八〇
 九八ノ一八四
 九九ノ一八八
 一〇〇ノ一九二

第八十條 市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納済ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徴收スヘシ

第八十一條 市外別配達料不足額ヲ徴收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其證トナスヘシ

第八十二條 船舶ニ遠スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ船料受取人ヨリ徴收スヘシ

第八十三條 市外別配達料不足額又ハ船料ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徴收スヘシ

第八十四條 別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第八十五條 別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八十六條 甲郵便局所在地ニ遠スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナスヘシ

第八十七條 市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八十八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ其郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達ト記載スヘシ

第八十九條 別配達ト記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達スヘシ

送スヘシ

第七一ノ七四
 七二ノ七八
 七三ノ八二
 七四ノ八六
 七五ノ九〇
 七六ノ九四
 七七ノ九八
 七八ノ一〇二
 七九ノ一〇六
 八〇ノ一〇九
 八一ノ一一三
 八二ノ一一七
 八三ノ一二一
 八四ノ一二五
 八五ノ一二九
 八六ノ一三三
 八七ノ一三七
 八八ノ一四一
 八九ノ一四五
 九〇ノ一四九
 九一ノ一五三
 九二ノ一五七
 九三ノ一六一
 九四ノ一六五
 九五ノ一六九
 九六ノ一七三
 九七ノ一七七
 九八ノ一八一
 九九ノ一八五
 一〇〇ノ一九三

第九十條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ遠スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九十一條 免税郵便物ハ別配達料船料ヲ納ムルニ及ハス

第八章 郵便私書函

第九十二條 郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條 私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セズ私書函ニ入置クヘシ

第九十四條 私書函貸與料ハ一ヶ月金三圓以下ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第九十五條 私書函貸與期限ハ一ヶ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九十六條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納税不足税ノ郵便物ハ私書函ニ入レシテ其住所ニ配達スヘシ

第九十七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一個ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條 私書函貸與ノ満期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ續テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章 留置郵便

第九十九條 留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ

第三百八十八條
第三百八十九條
第三百九十條
第三百九十一條
第三百九十二條
第三百九十三條
第三百九十四條
第三百九十五條
第三百九十六條
第三百九十七條
第三百九十八條
第三百九十九條
第四百條

第三百二十條 貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セヌ
第三百二十一條 郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ
第三百二十二條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ強盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實證アルモノハ外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ
第十一章 郵便沒書
第三百二十三條 郵便沒書ハ配達シ能ハヌ又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ没入スルモノトス
第三百二十四條 驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
第三百二十五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ保存スヘシ
沒書中貨幣或ハ諸證書又ハ有價ノ物品アルトキハ驛遞局ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ
第三百二十六條 沒書ヨリ一ケ年内ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸證書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヨリ三ケ年内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸證書ハ手數料ヲ徵收セスト雖モ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十

第三百八十八條
第三百八十九條
第三百九十條
第三百九十一條
第三百九十二條
第三百九十三條
第三百九十四條
第三百九十五條
第三百九十六條
第三百九十七條
第三百九十八條
第三百九十九條
第四百條

分一ヲ手數料トシテ徵收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス
第三百二十八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ但驛遞局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス
第十二章 郵便爲替
第三百二十九條 郵便爲替ハ驛遞總官ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フモノトス
第三百三十條 爲替ヲ取扱フ郵便局ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ
第三百三十一條 爲替證書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス
第三百三十二條 爲替料ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便局ニ掲示スヘシ
第三百三十三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス
第三百三十四條 爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替證書ヲ受領スヘシ
第三百三十五條 爲替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ
第三百三十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セス
第三百三十七條 爲替受取人其爲替證書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナルトキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ驛遞局ニ其證書ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル證書ヲ受クルヲ得

第三百八十八條
第三百八十九條
第三百九十條
第三百九十一條
第三百九十二條
第三百九十三條
第三百九十四條
第三百九十五條
第三百九十六條
第三百九十七條
第三百九十八條
第三百九十九條
第四百條

分一ヲ手數料トシテ徵收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス
第三百二十八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ證スヘシ但驛遞局ニ於テ證人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス
第十二章 郵便爲替
第三百二十九條 郵便爲替ハ驛遞總官ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フモノトス
第三百三十條 爲替ヲ取扱フ郵便局ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ
第三百三十一條 爲替證書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス
第三百三十二條 爲替料ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便局ニ掲示スヘシ
第三百三十三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス
第三百三十四條 爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替證書ヲ受領スヘシ
第三百三十五條 爲替證書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ
第三百三十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セス
第三百三十七條 爲替受取人其爲替證書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナルトキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ驛遞局ニ其證書ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル證書ヲ受クルヲ得

五〇八七六六
四〇八七六六
三〇八七六六
二〇八七六六
一〇八七六六
〇八七六六
九八七六六
八八七六六
七八七六六
六八七六六
五八七六六
四八七六六
三八七六六
二八七六六
一八七六六
〇八七六六
九八七六六
八八七六六
七八七六六
六八七六六
五八七六六
四八七六六
三八七六六
二八七六六
一八七六六
〇八七六六

送達スヘシ

第百七十四條 貯金預ケ人ハ預ケ金ヲナシタル日ヨリ左ノ期日内ニ貯金領收通知書到達セサルトキハ其期日ヨリ十五日内又到達スルモ記載ノ金額并年月日ニ相違アルトキハ到達ノ日ヨリ十五日内ニ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ但申告書ハ郵便局ニ出シ其受取證書ヲ受領スヘシ

一東京

十日

一東京ヨリ百里未満

三十日

一東京ヨリ百里以外

六十日

第百七十五條 第百七十四條ノ申告書ヲ出サハルトキハ其預ケ金額驛遞局ノ原簿ニ登記ナキカ或ハ原簿登記ノ金額年月日ト其預ケタル金額年月日ト符合セサルモ驛遞局ハ原簿ニ登記シタルモノノ外其實ニ任セズ

第百七十六條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金預所ニ於テモ其貯金金額若クハ幾分ノ拂戻ヲ請求スルヲ得但未タ元金ニ加ヘサル利子ハ貯金ノ全額ヲ拂戻ストキニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス

第百七十七條 貯金拂戻願人ハ貯金預所ニ設ケアル拂戻願書用紙ニ金額其他式ノ如ク記載調印シ通帳ヲ添ヘ貯金預所ヲ經由シテ驛遞局ニ出スヘシ但貯金預所ヨリ通帳ノ受取證書ヲ受領スヘシ

第百七十八條 第百七十七條ノ拂戻願書及通帳ヲ驛遞局ニ於テ領收シタルトキハ貯金拂戻

五〇八七六六
四〇八七六六
三〇八七六六
二〇八七六六
一〇八七六六
〇八七六六
九八七六六
八八七六六
七八七六六
六八七六六
五八七六六
四八七六六
三八七六六
二八七六六
一八七六六
〇八七六六
九八七六六
八八七六六
七八七六六
六八七六六
五八七六六
四八七六六
三八七六六
二八七六六
一八七六六
〇八七六六

證書ヲ拂戻願人ニ送達スヘシ

第百七十九條 貯金ノ全額ヲ拂戻ストキハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻ストキハ驛遞局ニ於テ其通帳ニ拂戻金額及年月日ヲ記載シ官印ヲ捺シ且主務者調印シ貯金預リ所ヲ經由テ之ヲ返付スヘシ

第百八十條 貯金拂戻願人ハ拂戻證書ニ式ノ如ク記名調印シ貯金預所ニ交付シ拂戻金ヲ受取ルヘシ

第百八十一條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ルモノハ拂戻證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第百八十條ノ手續ヲナスヘシ

第百八十二條 拂戻金ハ其拂戻證書ノ日附ヨリ左ノ期日内ニ受取ルヘシ期日ヲ失スルトキハ更ニ驛遞局ニ其證書ノ書換ヲ請求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス

一東京

十五日

一東京ヨリ百里未満

廿五日

一東京ヨリ百里以外

四十日

第百八十三條 貯金預ケ人死亡シタルトキハ其相續人ニ於テ證人ヲ立テ相續人タルヲ證スル書面ヲ出シ且其相續人ハ第百七十七條ノ手續ヲナシ貯金拂戻ヲ請求スヘシ

第百八十四條 預ケ金ヲナストキ引受人ヲ立ツルモノハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ氏名ヲ記シ其引受人亦記名調印スヘシ

ニノ部

七二ノ二六
四乃至二六
條等

三 書籍各種ノ印刷物、寫眞、畫圖
四 詞訟上及商用上ノ書類
五 商品ノ見本

七二ノ二〇
三二一四條

第二百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ抵觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

七二ノ二〇
三二二條

第二百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

七二ノ二〇
三二二條

第二百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

七二ノ二〇
三二二條

第二百七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

七二ノ二〇
三二二條

第二百八條 第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニ「キログラム」凡五百三十二ニ超過スヘカラズ

七二ノ二〇
三二二條

第二百九條 第五項郵便物ノ大サハ長二十「センチメートル」凡曲尺六寸幅十「センチメートル」凡三寸三「分」厚五「センチメートル」凡一寸六「分」又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六「分」ニ超過スヘカラズ

七二ノ二〇
三二二條

第二百十條 第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラズ但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

七二ノ二〇
三二二條

第二百十一條 第二項郵便物ハ萬國郵便聯合會書往復書ヲ用ユヘシ

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

七二ノ二〇
三二二條

第二百十二條 第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百十三條 第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百十四條 左ニ記載スルモノハ外國ニ差立郵便物トナスヘカラズ

一 貨幣又ハ高價ノ物品

一 關稅ヲ拂フヘキ物品

一 流動物、流動廢敗シ易キ物、腐化スヘキ物、動物、植物、鋒刃器、硝子器、陶器等他ノ郵便物ヲ傷害スヘキ物品(十九年第四號布告ヲ以テ)

一 第十六條第一項第三項及第四項ニ記載シタル物品

第二百十五條 郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便稅ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第二百十六條 郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便稅完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便稅ハ此限ニアラス

第二百十七條 第二百八條第二百九條第二百十條第二百十三條第二百十五條第二百十六條ニ背戻スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納稅又ハ不足稅ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條 書留郵便物ハ郵便稅書留手數料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條 郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取證書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便稅書留手數料ノ外増手數料ヲ前納スヘシ

ニノ部

第七ノ一七
一八條參看

三三八七三
八〇七二一
七四五二九
二二二條參看
三三八七三
二二二條參看

第二百二十條 郵便稅書留手數料及増手數料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條 郵便稅書留手數料増手數料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ驛遞總官公告スヘシ

第二百二十二條 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ内國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノ、外之ヲ紛失シタル國ノ驛遞局ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十「フランク」凡金貨二十錢若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ
書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ内國ニ到達スル書留郵便物ヲ内國遞送中紛失シタルトキ亦同シ

第二百二十三條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一 第一項郵便物ハ一個貳錢ニ超過セサル額
一 第二項以下ノ郵便物ハ一個壹錢ニ超過セサル額

第二百二十四條 第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便葉書往復葉書ニ亦適用スヘシ

第二百二十五條 第十二條第十九條第二十條第二十一條第一項第三項第二十二條第二十五條第四十四條第四十八條第五十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

三三八七三
一ノ六八二三
一三三九條參看

條第四十四條第四十八條第五十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條ノ規則ハ外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第十五章 罰則

第二百二十七條 第三十三條第三十四條第六十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條 第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 第六十七條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百三十一條 第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

三九〇條參看

三八九七
二四九條參看

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第二百三十二條 懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條 己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買若クハ牙保ヲナシタル者ハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條 疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條 有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐偽ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物ノ未納稅又ハ不足稅ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第七一ノ二六
條

第二百三十八條 不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

行フ處不良ノ罪重キ者ハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條 驛遞總官ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ驛遞局認可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦同シ

第二百四十條 未納稅又ハ不足稅及ヒ別配達料貯船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ貳圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徴收スヘキ郵便稅別配達料貯船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ徴收セサルトキ亦同シ

第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印ヲナサル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替料ヲ領收セスシテ爲替證書ヲ振出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

驛遞局貯金事務ヲ奉スルモノ預金ヲ領收セスシテ貯金通帳ニ預ケ金ノ記入ヲナシ又ハ拂戻證書ヲ受取ラスシテ貯金ヲ拂渡シタルトキ亦同シ

ニノ部

第七ノ二四九

第二百四十三條 郵便事務ヲ奉スルモノノ諸般ノ計數ヲ偽ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七ノ二五二條

第二百四十四條 郵便物ニ押用セシ印面ヲ變換シタルモノハ貳圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十六條 郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七ノ二六八條

第二百四十七條 渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遲緩シタルトキハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十八條 第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百四十九條 第二百三十條第二百三十三條第二百三十七條第二百四十一條第二百四十二條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監禁ニ附ス

第二百五十條 本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

明治十七年十二月第三十三號布告ノ改正追加ハ明治十八年一月一日ヨリ施行ス

參照

○關係法令

三八四 司法省丁第十六號達 明治十七年五月

刑法第九十九條及郵便條例ニ違犯シタル者處分方ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

司法省

別紙農商務省何ヘ朱書ノ通指令ニ及ヒ候條爲心得此旨相達候事

太政大臣三條實美

別紙

明治十七年五月十四日

刑法第九十九條及郵便條例ニ違犯シタル者處分方何

第一條 郵便物トシテ差出シタルモノハ内刑法第九十九條及郵便條例罰則ニ依リ處罰セラルヘキ所爲アリト認知シ又ハ思料シタルモノハ其差出タル物品ノ條例ニ禁止セラレタル物及ヒ條例ノ禁ニ觸レサル者醫ヘハ書狀其他ヘ一度用ヒタル郵便切手ヲ再貼シタル時ノ如キ又ハ輕税ノ郵便物中ヘ高額税ノモノヲ密ニ封入シタル時ノ如キ其物ハ條例ニ禁止セラレタルモノニアラサレ共其差出タル所爲ノ犯則タルモノハ其物ノ條例ニ違犯スルト否トニ係ハラス總テ差出シタル所ノ物品ハ其發見地ヨリ遞送配達ヲ留メ(條例第十六條四)該物品ヲ添ヘ法衛ヘ告發シ裁判ヲ經テ有罪ニ決シタル以上ハ條例第十六條ニ禁止ノ物品ニ非ラサルモ再ヒ郵便物ト爲サス其物品ヲ沒收シ又ハ差出入ヘ還付スル等ハ法官ノ處分ニ任セ候儀ト心得可然哉

二ノ部

第二條 前條告發ノ後檢察官於テ罪トナラスシテ之レガ起訴ヲ爲サス又ハ裁判ヲ經テ免訴若クハ無罪ノ旨渡アリタルハ其物品ノ郵便物ト爲スヘカラサルモノヲ除クノ外之レヲ取戻シ更ニ郵便物トシテ遞送配達スヘキ儀ト心得可然哉

第三條 遞送配達ノ途中ニ係ル郵便物盜難ニ罹リ贓物ト成リタルハ刑法ニ明文モ有之儀ニ付再郵便物ト爲サス其物品ハ法官ノ處分ニ任セ候儀ト心得可然哉

第四條 郵便條例第十六條ニ禁止セラレタル物品ヘハ郵便稅ヲ賦課スヘカラサル儀ニ可有之ト雖モ其物品ハ郵便局ニ於テ之ヲ取集メ區分檢査等ノ手數ヲ爲シタルモノニ付郵便稅ノ割合ニ比準シ裁判ヲ經テ其損害ヲ差出人ヨリ賠償セシメ可然儀ト存候果テ然ルハ郵便局ニテ最初該物品ノ犯則タルヲ知ラス誤テ郵便物トシ一旦郵便稅ヲ徵收シタル後之レガ犯則タルヲ認知シ又ハ思料シ之ヲ告發シタルハ前キニ誤テ徵收シタル税金ハ裁判ヲ經テ賠償セシムヘキ處ノ金員ニ直ニ之ヲ充テシメ可然哉

第五條 郵便ニ差出ス事ヲ得ル物品ト雖モ其所爲ノ犯罪即郵便切手再貼若クハ輕稅ノ郵便物中ヘ高額稅ノモノヲ密ニ封入シタルモノ、如キ其犯罪ト認知シ又ハ思料シ遞送配達途中ヨリ直チニ告發ノ后有罪ト決シ其物品ヲ沒收シ又ハ差出人ヘ還付ノ處分相成ルハ其物ヨリ徵收スヘキ郵便稅ノ未納又ハ不足額有之モノ之ヲ徵收シ能ハサルニ付右等未納又ハ不足額有之ハ郵便稅額ニ比準シ犯罪ノ廉ヲ告發ノ際併セテ差出人ヨリ該金額賠償方ノ告訴ヲ爲シ可然哉

右何分之御指令相成度此段相伺候也

明治十七年四月四日

太政大臣三條實美殿

農商務卿西郷從道

朱書

伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一條 物品ヲ沒收シ又ハ差出人ニ還付シ又ハ再ヒ郵便物ト爲スト否トハ法官ノ處分ニ任スヘシ

但條例第十六條ヲ以テ禁止シタル物品ハ再ヒ郵便物ト爲スノ限リニアラス

第二條 伺ノ通
第三條 其贓品ヲ再ヒ郵便物ト爲スト否トモ法官ノ處分ニ任スヘシ
第四條 第五條 伺ノ通

明治十七年五月十四日

三三五 農商務省第貳拾號告示 明治十八年九月

郵便爲替細則左ノ通相定メ明治十八年十月一日ヨリ施行候條此旨告示候事

一七九條以下各條

第一章 總則

第一條 郵便爲替ハ爲替差出人ヨリ拂込ミタル金員ニ對シ甲郵便局ニ於テ爲替證書

ニノ部

ヲ交付シ乙郵便局ニ於テ其證書ニ對シ爲替金ヲ拂渡スモノトス

第二條 爲替證書ニハ差出人受取人ノ氏名ヲ記載セシ其氏名宿所等ハ差出人ノ指示
スル所ニ從ヒ甲振出局ヨリ乙拂渡局ニ報知スルモノトス

第三條 爲替金額單位以上ノモノハ驛遞總官特ニ指定スル郵便局ニ於テ差出人ノ望
ニ依リ電信ヲ以テ報知スルコトヲ得

第四條 爲替證書ハ驛遞局ニ於テ發行シタル式紙ニ限ルヘシ其證書ノ雜形左ノ如シ
(爲替證書雜形略ス)

電信ニ依テ發シタル爲換證書ニハ前ニ示ス表中各區畫ノ外ニ「番號」「振出局名」「電
報着日」ノ三區畫又再渡爲替證書ニハ「振出局名」ノ一畫ヲ備フルモノトス

第五條 爲替差出人又ハ爲替證書再渡ヲ請求スルモノハ爲替料又ハ爲替料及手数料
ヲ前納スヘシ但電信ヲ以テ爲替ヲ報知スルコトヲ望ムトキハ別ニ電報料ヲ納ムヘ
シ

爲替證書再渡ヲ請求スル場合ニ在リテハ其爲替料及手数料ハ便宜原爲替證書金額
ノ内ヨリ引去リ納ムルコトヲ得

第六條 爲替差出人自ラ爲替金ヲ差出シ能ハサルトキ或ハ差出人又ハ受取人自ラ證
書再渡ヲ請求シ能ハサルトキハ代人ヲ立テ爲替證書又ハ請求書ニ本人記名調印シ
代人亦代人ノ肩書ヲナシテ記名調印スヘシ但別紙ニ委任文ヲ記シ記名調印シテ差
出ストキハ此限ニアラス

爲替受取人自ラ爲替金ヲ受取ル能ハサルトキハ代人ヲ立テ本人ニ於テ爲替證書ノ
裏面又ハ別紙ニ委任文ヲ記シ記名調印シ代人ハ爲替證書相當ノ位置ニ代人ノ肩書
ヲナシテ記名調印スヘシ

第七條 爲替ニ屬スル金錢ヲ受授スルトキハ相互目前ニ於テ之ヲ計算スヘシ

第八條 差出人ニハ振出局ニ於テ其拂込金ニ對スル受領證書ヲ交付スヘシ
差出人ハ其受領證書ノ相當ノ位置ニ差出人受取人ノ宿所氏名ヲ記載シテ之ヲ保存
シ後日爲替金ノ返戻又ハ證書再渡ヲ請求スルトキノ證據トナスヘシ

第九條 爲換受取人又ハ差出人死亡等ノ場合ニ於テハ其相續人等ヨリ事實ヲ證明シ
證人ヲ立テ爲替金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第十條 爲替差出人又ハ受取人印形紛失等ノ爲メ爲替金ノ受授ニ關スル願書證書等
ニ調印シ能ハサルトキハ其旨ヲ附記シ證人ヲ立ヘシ

第十一條 爲替金ノ受授ニ關シ證人トナリ事實ヲ證明シタルモノハ其受授ニ關スル
願書證書等ニ記名調印シ其事由ヲ附記スヘシ

第十二條 爲替金ノ拂渡ヲ請求スルモノハ郵便局吏員ノ尋問ニ對シ差出人受取人ノ
宿所氏名等ヲ陳述スヘシ

又必要ノ場合ニ於テハ郵便局吏員ニ對シ該吏員ノ満足スヘキ證人ヲ立テ又ハ正當
受取人タルコトヲ證明スヘキ證據物ヲ該吏員ニ展示シ若クハ之ヲ差出スヘシ

第十三條 爲替金ノ拂渡ヲ請求スルモノアルトキ左ニ掲クル事故アル場合ニ在リテ

ニノ部

ハ郵便局ニ於テ拂渡傳延書ヲ其請求人ニ付與シ爲替金ノ交付ヲ停延スルコトアル
ヘシ

一爲替證書調製上違式ノトキ若クハ其證書ニ對スル報知書未達又ハ不符合ノトキ
一爲替資金ノ補充金未達ノトキ

第十四條 規則上爲替金ノ交付ヲ停延シタル間ハ爲替證書有効期限ノ經過ヲ中止ス
ルモノトス

第十五條 爲替取扱時間ハ爲替ヲ取扱フ郵便局前ニ揭示スヘシ
爲替取扱休日ハ左ノ如シ

一月一日 二月三日

新年宴會

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神宮神嘗祭

天皇節

新嘗祭

日曜日

第十六條 郵便局上版ノ料紙ヲ用フヘキ願書請求書等ノ式紙ハ爲替ヲ取扱フ郵便局
ニ於テ申受クヘシ

第二章 爲替振出

第十七條 爲替ヲ願出ルモノハ上版ノ願書式紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替

料ヲ添ヘ之ヲ郵便局吏員ニ差出シ爲替證書及受領證書其爲替電信ニ依ルトキハ受領證書ニ依ルトキヲ受收
スヘシ

其爲替願書ニハ受取人違ヲ生セサル豫防トシテ家號又ハ商標ノ畧符等ヲ附記ス
ルモ妨ケナシ但其爲替電信ニ依ルトキハ此限ニアラス

願書ノ書體ハ最明瞭ヲ要シ後日取調上差支ヲ生セサルヲ主トシ差出人受取人ノ宿
所ハ其詳畧ヲ斟酌シ又其氏名ハ固有ノ文字ヲ用フヘシ且名宛ノ郵便局ハ受取人爲
替金ヲ受クルニ便宜ナル郵便局ヲ指定スヘシ但其爲替電信ニ依ル場合ニ在リテハ
願書ニ本字ヲ以テ記載シタル差出人受取人ノ宿所氏名ノ傍ニ片假名文字ヲ附記ス
ヘシ

第十八條 爲替ヲ願出ルモノアルトキハ振出局吏員ハ爲替願書ニ依リ差出人ノ指定
シタル郵便局ヲ宛テ爲替證書ヲ調製シ拂込金ニ對スル受領證書ト共ニ之ヲ差出人
ニ交付シ且爲替願書ノ諸件ヲ其名宛ノ郵便局ニ報知スヘシ但電信ニ依ルトキハ其
特別ニ據ルヘシ

第十九條 爲替願書ニハ差出人又ハ受取人二名以上連帶ノ場合ト雖モ各一名ヲ記載
スヘシ

第二十條 差出人旅行先又ハ一時寄留ノ場所ニ於テ爲替ヲ願出ルトキハ爲替願書ニ
本籍住所ヲ記載シ尙其宿所ヲ附記スヘシ

第二十一條 差出人ハ受取人ニ於テ拂渡局吏員ノ尋問ニ對シ爲替報知書ニ記載アル

諸件ヲ陳述シ得ル爲メ爲替願書ニ書入レタル諸件ヲ受取人ニ通知スヘシ 其爲替電
トキハ通知セザル 但詐僞ヲ避クル豫防ノ爲メ此通知ハ爲替證書ヲ遞送スル信書ト成
ルモ妨ケナシ

第二十二條 代人ヲ以テ爲替ヲ願出ルトモ爲替報知書ニ其氏名ヲ記入セサルヲ以テ
一般ノ例トス但其氏名ヲ報知スルコトヲ望ムモノ爲替願書ニ其旨ヲ附記シタル場
合ハ此限ニアラス

第二十三條 差出人爲替證書ヲ受取リタル後差出人受取人氏名宿所等ノ認メ方相違
シタル事アルトキハ其振出局ニ訂正願書ヲ差出スヘシ但電信ニ依リ爲替ヲ報知シ
タル場合ニ在リテハ相當ノ電信料ヲ納ムヘシ

第二十四條 差出人爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ前ニ受取シタル拂込金受領證書ヲ
振出局ニ返納シ爲替金ヲ受取ルヘシ但受領證書紛失ノ場合ニ於テハ其爲替金高番
號及振出月日等ヲ記載シタル爲替金返戻願書ヲ差出スヘシ

第三章 爲替拂渡

第二十五條 爲替證書ノ金額ハ差出人ノ指定セル拂渡局ニ於テ其振出局ノ爲替報知
書ニ照ラシ受取人ヲ尋問シタル後拂渡スモノトス

第二十六條 爲替證書ノ金高番號又ハ受取人ノ答辨等爲替報知書ニ符合セサルカ又
ハ報知書未達等ノ事故アルトキハ拂渡局ニ於テ受取人ニ拂渡停延書ヲ交付シ其事
故ヲ振出局ニ問合スヘシ

受取人ハ停延書ノ満期ニ至リテ更ニ爲替金ノ拂渡ヲ申出テ尙ホ規則ノ通手數ノ上
爲替金ヲ受取ルヘシ

第二十七條 若シ前條ノ場合ニ於テ振出局ヨリ回付セル更訂報知書ノ金額證書ノ金
額ニ過不及アリテ證書金額ノ誤ナルヲ判明シタルキハ其受取人ハ證書ノ裏面ニ現
實受取ルヘキ金額及其事故ヲ記載記名調印シ其金ヲ受取ルコトヲ得

第四章 爲替證書再渡

第二十八條 爲替證書再渡ヲ要スルトキハ次キニ掲グル第二十九條乃至第三十一條ニ
從ヒ爲替差出人若クハ受取人ハ上版ノ請求書式紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替ヲ取
扱フ郵便局ヲ經由シテ驛遞局ニ請求スヘシ

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ爲替差出人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ但拂込金受領
證書ヲ返納スヘシ

一爲替證書紛失シタルトキ又ハ汚損毀損シテ金高番號印章等必要ノ部分不判明ニ
ナリタルトキ

一爲替證書ニ示ス振出局ニテ爲替金ノ返戻ヲ受クルニ不便ノ爲メ他局ニ於テ返戻
ヲ受クルコトヲ要スルトキ

第三十條 左ノ場合ニ於テハ爲替受取人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ

一爲替證書ニ示ス拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ノ爲メ拂渡局ノ變更ヲ要スル
トキ

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ爲替差出人又ハ受取人ヨリ證書再渡ヲ請求スヘシ但
差出人ヨリ請求スルトキハ拂込金受領證書ヲ返納スヘシ

一爲替證書有効期限ヲ失ヒタルトキ

第五章 電信ニ依ル爲替ノ規則

第三十二條 電信ニ依テ爲替ヲ發スルトキハ振出局ニ於テ差出人ノ拂込金ニ對シ受
領證書ヲ交付シ爲替願書ニ差出人ノ指定シタル郵便局ニ願書ノ諸件ヲ電報スヘシ
第三十三條 拂渡局ハ電信報知ニ由リ爲替證書ヲ調製シ爲替ノ諸件ヲ其受取人ニ通
報スヘシ

受取人ハ拂渡局ノ通報ニ依リ其通知書ヲ拂渡局員ニ差出シ爲替證書ヲ受取ルヘシ
第三十四條 前條ノ通知ヲ發シタル日ヨリ七日以内ニ爲替證書ノ渡方ヲ請求セサル
トキハ拂渡局ヨリ更ニ受取人ニ通報スヘシ

其通報ノ日ヨリ尙七日以内ニ證書渡方ヲ請求セサルトキハ振出局ヲ經テ之ヲ其差
出人ニ交付スヘシ

第三十五條 拂渡局ヨリ前條ノ證書到達シタルトキハ振出局ニ於テ其旨ヲ差出人ニ
通報スヘシ

差出人ハ振出局吏員ニ前ニ受收シタル受領證書ヲ示シ振出局ノ通知書ト引換ヘ爲
替證書ヲ受取ルヘシ

第三十六條 前二條ノ順序ヲ經タル後ハ再度電報ニ依リテ其爲替金ヲ受授スルトコト

ヲ得ス故ニ差出人證書ヲ受取リタル後尙其爲替金ヲ受取人ノ受取ルコトヲ望ムト
キハ其證書ヲ受取人ニ廻送スヘシ若シ其爲替金ノ返戻ヲ要スルトキハ差出人ニ於
テ第二章第二十四條ノ手續ヲナスヘシ

第六章 爲替金渡濟通知(明治十九年電信省告示第百六號ヲ以テ本章追加)

第三十七條 爲替差出人其爲替金ノ渡濟通知ヲ要スルトキハ豫メ振出局ニ之ヲ請求
スヘシ

第三十八條 爲替金渡濟ノ通知ハ拂渡局ニ於テ爲替金ヲ拂渡ストキ通知書ニ受取人
ノ證明ヲ取リ即日之ヲ差出人ニ送付スルモノトス

第三十九條 爲替金渡濟ノ通知料ハ爲替證書壹枚ニ付金貳錢トス

第四十條 通知料ハ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ其切手ハ爲替願書又ハ小爲替原符ニ貼
付スヘシ

但通知料ニ用ヒタル郵便切手ハ振出局ニ於テ消印シ納濟ノ證トス

第四十一條 爲替金返戻ノ場合ニ於テモ既納ノ通知料ハ還付セズ

第四十二條 通知料納濟ノ爲替ハ振出局ニ於テ其爲替證書(電信爲替ハ)ニ通知料納
濟ノ印ヲ押捺シ交付スヘシ

第四十三條 受取人ハ通知料納濟ノ爲替ヲ受取トキ拂渡局ノ求メニ隨ヒ通知書ニ記
名調印スヘシ又小爲替ニアリテハ其差出人ノ宿所氏名ヲ陳述スヘシ

第四十四條 爲替金拂渡ノ通知ヲ脱漏シタルトキハ其通知料ヲ還付スヘシ

第四十五條 通知料還付ハ爲替振出ノ日ヨリ六個月内ニ差出人ヨリ驛遞局長ニ請求スヘシ此期限ヲ過クルトキハ之ヲ還付セズ

三六六 遞信省告示第百十七號 明治二十年六月廿五日

七一九
以下參看

郵便小爲替規定左ノ通改定シ本年七月十五日ヨリ施行ス

・郵便小爲替規定

第一條 郵便小爲替證書壹枚ノ金額ハ參圓以下トシ端數ハ釐位ヲ限リトス

第二條 爲替料ハ小爲替證書一枚ニ付參錢トス

第三條 小爲替ハ差出人ノ指示シタル爲替ヲ取扱フ郵便局ニ於テ拂渡スモノトス

第四條 爲替差出人ハ郵便局吏員ニ爲替金及爲替料ヲ差出シ小爲替證書及受領證書ヲ受取ヘシ

第五條 爲替差出人ハ小爲替證書ニ設ケアル相當ノ區畫ニ受取人ノ宿所氏名ヲ記入シテ送ルヘシ其宿所氏名ヲ記入シ能ハサルモハ郵便局吏員ニ之ヲ請求スルヲ得

第六條 小爲替證書ニ記載ノ拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ヲ訂正ヲ要スルトキハ差出人ニ於テ爲替ヲ取扱フ郵便局ノ許可ヲ受クヘシ

但郵便局ノ許可ヲ請フトキハ受領證書ヲ以テ其差出人タルコトヲ證明スヘシ

第七條 爲替受取人爲替金ヲ受取ルトキハ其證書裏面ニ記名調印スヘシ又郵便局ニ於テ證書ヲ遞送シタル信書ノ封皮又ハ其受取人タルコトヲ證明スヘキ他ノ物件ヲ

要スルトキハ之ヲ差出スヘシ

第八條 爲替差出人爲替金ノ返戻ヲ受クルトキハ其證書裏面ニ記名調印シ且受領證書ヲ郵便局ニ納メ差出人タルコトヲ證明スヘシ

第九條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ルモノハ其爲替證書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ爲替金受取方相當ノ手續ヲナスヘシ

第十條 小爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ六十日ヲ限リトス

第十一條 郵便局ノ許可ヲ受ケス拂渡局又ハ受取人ノ宿所氏名ヲ變換シ若クハ其宿所氏名ヲ訂正シタルトキハ爲替金ヲ拂渡サハルモノトス

但第六條ニ依リ更ニ許可ヲ經タルモノハ此限ニアラス

第十二條 左ニ掲グル場合ニアリテハ差出人ニ於テ受領證書ヲ納メ爲替ヲ取扱フ郵便局ヲ經テ爲替貯金局ニ再度小爲替證書ヲ請求スヘシ

但第一項ノ場合ハ受取人ヨリ之ヲ請求スルヲ得

一 小爲替證書有効期限ヲ經過シタルトキ

二 小爲替證書ヲ失ヒタルトキ

三 小爲替證書毀損汚損シ點檢上支障アルトキ

第十三條 再度小爲替證書ヲ請求スルトキハ更ニ爲替料ヲ納ムヘシ

第十四條 小爲替證書ヲ失ヒ再度證書ヲ請求シタルトキハ當初振出ノ日ヨリ百二十日經過スルニ非サレハ之ヲ交付セズ

三七八 遞信省告示第六十六號 明治十九年七月

郵便條例第二十九條第百二十四條第百二十九條第百三十二條第百五十七條第百六十一條ニ驛遞總官トアルハ遞信大臣第六條第十八條第五十二條第九十四條第百五條第百七條第百三十條第百四十七條第百五十八條第百七十四條第百九十七條第百二十二條第百二十九條ハ驛遞局長第三十二條第百六十條ハ遞信管理局長ト心得ヘシ

三七八 遞信省告示第三十五號 明治二十年三月

郵便條例第六條驛遞局長及驛遞局第六十六條第百二十條第百二十三條第百二十五條第百二十八條第百五十五條第百五十六條第百五十七條第百五十八條第百五十九條第百六十條第百六十一條第百六十二條第百六十三條第百六十四條第百六十五條第百六十六條第百六十七條第百六十八條第百六十九條第百七十條第百七十一條第百七十二條第百七十三條第百七十四條第百七十五條第百七十六條第百七十七條第百七十八條第百七十九條第百八十二條第百八十八條第百八十九條第百九十條第百九十一條第百九十二條第百九十三條第百九十四條第百九十六條第百九十七條第百九十九條ハ驛遞局長ハ內信局長第三十一條第三十六條第三十七條ノ驛遞局長及驛遞局ハ遞信省告示第十八條第百五條ノ驛遞局長ハ內信局長第三十一條第三十六條第三十七條ノ驛遞局長ハ遞信管理局第三十九條第六十八條第百二十三條ノ驛遞局長ハ遞信省遞信管理局第五十二條第九十四條第百七條第百三十條第百五十八條第百六十二條第百六十三條第百六十四條第百六十五條第百六十六條第百六十七條第百六十八條第百六十九條第百七十條第百七十一條第百七十二條第百七十三條第百七十四條第百七十五條第百七十六條第百七十七條第百七十八條第百七十九條第百八十二條第百八十八條第百八十九條第百九十條第百九十一條第百九十二條第百九十三條第百九十四條第百九十六條第百九十七條第百九十九條ノ驛遞局長ト心得ヘシ

ハ爲替貯金局第百四十七條第百七十四條第百九十七條ノ驛遞局長ハ爲替貯金局長第十三章第百五十七條第百四十二條ノ驛遞局長ハ郵便第百二十二條ノ驛遞局長ハ主管廳其他郵便條例中ノ郵便局ハ郵便電信局郵便局ト心得ヘシ

○判決例

三八九 明治二十年乙第九百三號

山口縣平民

井上田一

外三名

郵便條例ヲ案スルニ其第二百三十條第二項ニ遞送配達ヲ以テ營業ヲナス者トアルハ通常人ニシテ郵便物トナシ取扱フ可キ物品ヲ遞送配達スルヲ以テ營業トナス者該條例ヲ犯シ私ニ郵便物ヲ遞送配達ナス者ヲ制裁スルノ注意ナリトス故ニ本案被告ノ如ク其身郵便ノ遞送人ニシテ一時私ニ遞送シタル者ハ同第二百三十條初項第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ストアルニ該當スヘキ者ナリトス然ルモ原裁判所於テ前記ノ如ク同條第二項ヲ適用處斷シタルハ非常上告論旨ノ如ク相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル者ニシテ破毀ノ原由アリトス因テ治罪法第四百三十五條第二項ニ則リ原裁判ヲ破毀シ本院於テ直ニ判決スルノ如シ

井上田一

外三名

前辨明ノ如クナルヲ以テ原裁判所カ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ郵便條例第六十七條ニ違犯スルヲ以テ其第二百三十條初項二圓以上百圓以下ノ罰金範圍内ニ於テ田一及一勝太郎ヲ罰金五圓ツ、ニ處シ平太郎ハ犯時満二十歳ニ到ラサルヲ以テ仍ホ刑法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ罰金三圓ニ處スル者也

明治二十年十二月二十六日

三九〇 明治二十一年乙第五十五號

千原縣平民 鈴木 淺吉

郵便條例第二百三十四條ノ已レニ屬セサル郵便物ヲ云々受取人ニアラサルモノニ交付シト云フ其法條ハ受取人ニアラサルモノニ故ラニ交付スルモノノ制裁ニシテ原裁判所ノ認定シタル被告鈴木淺吉ノ所爲ハ郵便物ヲ其受取人ニアラサルモノニ故ラニ交付シタルニアラス永島仙右衛門ノ言ヲ信シ何心ナク木内孝三郎宛ノ郵便物ヲ仙右衛門ニ相渡シタルモノト云フニ在レハ其所爲タル郵便配達ノ途中ニ於テ其名宛ノ者ニ配達セン爲メ之ヲ他人ニ渡シタルニアリ然レハ則チ郵便條例第六十三條選送及ヒ集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラスト云フニ違フモノナルヲ以テ非常上告論旨ノ如ク同條例第二百二十八條第六十三條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處スト云フニ該當スヘキモノナリ然ルニ原裁判所カ該第六十三條ノ制裁ニ依ルヘキ事實ヲ認メナガラ其事實ニ對シ同第二百三十四條ヲ適用シ一月以上三年以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ加減シ處斷シタルハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ曾渡シタルモノトス
明治二十一年二月六日

○ミノ部

(七二)民事訴訟用印紙規則 明治十七年二月 第五號布告

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定シ明治十七年四月一日ヨリ施行ス

但明治八年十二月第百九十六號布告訴訟用野紙規則ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

(別紙)

民事訴訟用印紙規則

第一條 凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス

三九一 三九二 三九三 三九四 三五

六七八 九一〇 三九三 三九七 八條 八條

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應ジ左ノ區別ニ從ヒ其受付ノ時ニ於テ印紙ヲ貼用スヘシ

- 金額 五圓マテ 貳拾錢
- 全拾圓マテ 三拾錢
- 全貳拾圓マテ 六拾錢
- 全五拾圓マテ 壹圓五拾錢
- 全七拾五圓マテ 貳圓貳拾錢
- 全百圓マテ 三圓
- 全貳百五拾圓マテ 六圓五拾錢
- 全五百圓マテ 拾圓
- 全七百五拾圓マテ 拾五圓
- 全千圓マテ 拾五圓
- 全貳千五百圓マテ 貳拾圓
- 全五千圓マテ 貳拾五圓

全五千圓以上ハ千圓マテ毎ニ貳圓ヲ加フ

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第三條 人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ

ミノ部

七百五

三九二 三九三 八條 七條

但人事ニ於テハ極贖ノ者ニシテ戸長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スルコアルヘシ

三九二七二
ノ二五七六
條

第四條 左ノ書類ニハ正本一通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ
答辯書證據物寫辨駁書辯論書上申書陳述書等
證人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書
審判ノ延期ヲ請求スル願書

第五條 左ノ書類ニハ正本壹通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ
官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書
財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書
執行命令書ヲ請求スル願書
身代限ノ處分ヲ請求スル願書

三九二七三
ノ二七七一
條

第六條 裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ
但裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚拾二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ壹枚二十行一行十八字詰トス

三九二七四
ノ一八條

第七條 勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時貳拾錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ
第八條 此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者ニ辦償スヘキモノトス
第九條 印紙ノ種類定額及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

三九二七五
ノ一八條
七二二
ノ一八條
七二二
ノ一八條

第十條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ發賣スルコトヲ得ス

三九二七六
ノ一八條
七二二
ノ一八條
七二二
ノ一八條

第十一條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ
仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ
仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス
第十二條 前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

參照

關係法令

三九一 太政官第四號布達 明治十七年二月

今般第五號布告ヲ以テ訴訟用印紙規則制定候ニ付印紙ノ種類定價及ヒ貼用方左ノ通之ヲ定ム

淡黑色印紙	一枚	三錢
黑色印紙	同	五錢
赭色印紙	同	拾錢
茶褐色印紙	同	五拾錢
黃色印紙	同	壹圓

三ノ部

青色印紙 同 五圓
 橙黄色印紙 同 拾圓
 綠色印紙 同 拾五圓
 嬌栗色印紙 同 貳拾圓

印紙ハ訴狀其他書類ノ正本ニ貼用シ貼用者ノ印章ヲ以テ消印ス可シ

○
 三九二 司法省達 明治十七年 二月

今般第五號ヲ以テ民事訴訟用印紙規則布告相成候ニ付テハ左ノ手續ニ照準シテ取扱フ可シ

- 一 民事訴訟用印紙規則第四條第二項ハ概シテ訴訟ノ得失上ニ關係ヲ有スル必要ノ書類ヲ包含スルモノニ付設ヒ本項明文外ノ名稱ヲ附スル書類ト雖モ訴訟上必要ノモノナル時ハ必ス本項ニ準據セシム可キ事
 - 一 同條第三項第四項及ヒ第五條ニ掲ル事柄ニ付テハ必ス其願書ヲ差出サシム可キ事
 - 一 第六條ニ掲ル際本ヲ下附スル時ハ必ス其受取書ヲ差出サシム可キ事
- 但其際本ヲ下附スル時ハ先ツ其枚數ヲ受取人ニ示シテ必ス之ヲ受取書ニ記載セシメ其受取書ト引換際本ヲ下附ス可シ

○伺指令

三九三 廣島縣伺 明治十七年 五月一日

米穀ニ係ル既狀ニハ證券印稅規則ニ從カヒ價額ヲ見積リ印紙貼用スヘキヤ將テ既狀當時ノ實價ニ依ルヤ
 司法省指令 明治十七年 五月八日

米穀ニ係ル既狀ニ既狀用印紙貼用方ノ伺ハ後段見込ノ通ノ但賣買ニ係ル既狀ノ如キハ其賣買代價ニ依リ印紙ヲ貼用スヘキモノトス

三九四 静岡縣伺 明治十七年 五月六日

既狀用印紙及財產又ハ物品公賣或ハ身代限取消願等御規則中明文無之ニ付印紙貼用ノ限ニ無之ヤ若貼用ナスモノトセハ何レノ印紙相用可然哉

司法省指令 明治十七年 五月二十日

伺之既狀限又ハ財產及物品公賣ヲ取消スヘキ願書及清口證文ハ前段見込ノ通

○判決例

三九五 明治十九年乙第八三一號

兵庫縣平民 山田米七

本案被告人カ犯罪ノ有無ヲ決センニハ上告論旨第三點ノ如ク其所有タル委任者ノ利益ヲ慮リタルニ出ツルモノナル歟將ク被告人カ私利ヲ謀ル爲メ委任者營業外ノ所爲ナル歟ヲ決定スルヲ緊要ノ事實ナリトス如何トナレハ委任者ノ利益ヲ慮リ爲シタルモノナリトセハ假令賣捌所外ノ所爲ナリト雖モ委任者其責ニ任スヘキモノナレ之レニ反シ私利ヲ謀ル爲メ被告人自己ノ營業ナリトセハ無論被告人ノ責ニ歸スヘキモノニ至リ必要缺クヘカラサル點ナルヲ以テナリ今原判文ヲ閱スルニ(被告米七ハ云々兵庫縣神戸區北長狹通五丁目寄留福家文治カ官許ヲ受ケタル印紙賣捌所ニ於テ同人ノ依頼ニ依リ其代理人トナリ云々印紙ヲ賣捌クモノニシテ云々然ルニ明治十七年七月中被告米七八神谷慎吾ナル者同人宅ニ來リ三圓支ノ既狀用印紙ヲ購求致度ト申シタルニ際シ云々直ニ北長狹通賣捌所ニ

至リ管圍ノ紙幣用印紙三枚ヲ持歸リ之ヲ右様ニ渡シタルモノナリトアルニ依レハ福家文治ノ代理人トナリ
賣捌ク所ノ印紙ヲ賣渡シタルモノナルヲ以テ即チ同人ガ利益ヲ慮リタルニ出ツル所爲ナルカ如ク果テ然ラハ其賣
同人ノ負擔スヘキモノナリト雖モ其後段ニ至リ(此ノ如ク賣捌所外ニテ他人ニ印紙ヲ賣渡スハ文治ヨリノ委任權
限外ノ所爲ナリトス)トアルヲ見レハ委任權限外ノ所爲ニシテ即チ自己ノ私利ヲ謀ル爲メニ出ツルモノ、如ク果
テ然レハ其賣渡ヨリ被咎人ニ歸スヘキモノニ似タリ然リト雖モ以上ノ如ク其明示シタル理由ニ於ケル兩岐ニ洗ッ
何レヲ以テ是トナスカ之ヲ知ルニ由ナケレハ隨テ擬律ノ當否ヲ鑑査シ能ハサル不注ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由
アルモノトス既ニ此點ニ付キ破毀ノ原由アリト認メタル上ハ上告論旨ニ對シ一々辨明ヲ與ヘス
明治十九年十二月廿五日

○シノ部

(七三)銃砲取締規則 明治五年正月 第二十八號布告

銃砲取締規則別紙之通被定候條來ル四月ヨリ規則之通可相守事

(別紙)

銃砲取締規則

第一則

一 大小銃並ニ彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致間敷右定員ノ商賣ハ其地方管廳
ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ニ於テ管轄スヘキ事

免許商賣ノ定員

一府下

各五員

一縣下

各三員

一鎮臺本分營下

各一員

但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケス

一開港場

各五員

右免許差遣候商賣ノ姓名住所等東京武庫司ヘ届ケヘキ事

第二則

一 免許商人タリヒ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受
取其員數ヲ照ラシ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳ヘ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申
事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ヘ可願出事

一 免許商人ハ陸海軍准士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入レントスル
ルハ買入願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事(明治十三年三月第八號布告ヲ以テ本項追加)

第三則

一 免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等
明細附記シ軍用ノ者ハ免手形相添毎月其管廳ヘ差出ス可シ其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ管轄
鎮臺ヘ差送可申事

但諸鎮臺ヨリ毎歲正月七月兩度半ケ年明細帳ヲ以テ東京武庫司ヘ差送リ可申尤東京大

シノ部

四六ノ一條
附則七三ノ三
四七則等

四三九六
六ノ三九一〇
一三二七二八
七三ノ二四
七則末項處分方

四六ノ七一
三九七三
二四七七
末項處分方

阪ノ儀ハ武庫司ニ於テ取締可致事

第四則

一 彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミヲ計リ勝手ノ場所ヘ差置間敷兼テ其地方管
廳ヘ願出差圖ヲ受相圖可申事

但東京大阪ノ儀ハ武庫司ヘ願出ヘキ事

第五則

一 華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲并彈藥類ビストールニ至ル迄私ニ
貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出東京大阪ハ武別紙銃
庫司ヘ持出
砲改刻印式ノ通番號官印ヲ受可申他人ヘ讓與ヘ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ
但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通りタルヘシ

銃砲改刻印ノ式

千支何番 武庫司或ハ何府縣

右所持ノ人名番號等逐一書記シ置管轄鎮臺ヘ届出鎮臺ヨリ東京武庫司ヘ差送可申事

免許ノ銃類

一 和銃四文目八分玉以下

一 各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレハ霰彈ヲ用ユルモノハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳ヘ届出其廳ヨリ東京武庫司ヘ差出

四六ノ一三五條
至二二三七條
七三ノ一三三條
五七則末項處
分方參看

四三九六條
六ノ八條七三
ノ二三四五七
則末項處分方參
看

可申東京大阪ハ所持ノ者ヨリ萬一軍用獵用銃ノ差別難相辨者官ヘ尋出候得ハ檢査ノ上
免許ノ證印ヲ據ヘ可相渡事

第六則 (明治六年第二十五號布告鳥獸獵)

第七則 (規則ヲ以テ廢ス故ニ之ヲ略ス)

四六ノ一三五條
七三ノ一三五條
則末項處分方參
看

一 銃砲彈藥下々ニ於テ撰リニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作致度者ハ其
管廳ヘ相願管轄鎮臺ヘ届出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司ヘ差送り檢査ヲ遂ケ採用可相成

分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄銃砲並彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄廳ヘ爲指出其廳

ヨリ東京武庫司ヘ可差出事

但東京大阪ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ武庫司ヘ可届出事

右之通ニ候事

銃砲取締規則違犯者處分方 明治五年九月
第二百八十二號布告

銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥ヲ竊ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ

更ニ五拾錢ノ過料可申付候事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金可被下候事

一 免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以内ノ過料可申付事 明治七
年十二月
布告ヲ以テ追加

四六ノ一三五條
四六ノ一三五條
二六條參看

四一ノ三五條

シノ部

但書同前
右取上候品東京大阪ハ武庫司其他ハ所管ノ鎖臺ヘ可差出事

參照

○判決例

三九六 明治二十年乙第五百五十七號

大坂府平民 庄司喜兵衛

明治五年第二十八號布告銃砲取締規則ヲ調査スルニ其第五則轉換ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃
砲并彈藥類ビストールニ至ル迄私ニ貯蓄相成ラス云々トアリテ其免許銃類タルヤ該條後項免許ノ銃類一和銃四奴
八分玉以下一各國體銃銃トノミアリテ「ビストール」ノ免許銃タル取除法ノアルニ非サレハ假令其形体ノ如何ハ勿
論陸海軍ノ用方ニ適セサルモ規則上ニ於テハ軍用銃ト同視シテ取扱ハサルヲ得サルヤ知ルヘキナリ是ニ由テ之ヲ
觀レハ陸海軍ノ用方ニ適應セサルモ彈藥又ハ「ビストール」ト稱スヘキ銃類ナルニ於テハ原檢察官上告論旨ノ如ク
之ヲ賣買スルニハ規則第二則ニ從ハサル可カラズ依テ若シ之ニ背ク時ハ從テ其制裁ヲ免カル可キモノニ非サルナ
リ然ルヲ陸海軍ノ用方ニ適セサルモノハ私擅ニ賣買スルモ罪ト爲ラサルモノ、如キ理由ヲ付シ判文上欠ク可カラ
サル事實ノ如何ヲ判示セス漫然無罪ヲ以テ論斷シタルハ則チ爲スヘキヲ爲サ、ル越權ノ裁判ナルニ依リ今爰ニ法
律適用ヲ査定スルニ能ハス因テ該裁判ハ破毀スヘキ理由アルモノト裁定ス

明治二十年十月十日

(七四)車稅規則 明治八年二月
第二十七號布告

明治六年一月第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日
限り相廢シ尤遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年二月第二十一號布告解船并ニ海川小廻
船等船稅規則ニ照準收稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨

布告候事

車稅規則

第一則

- 一 馬車二疋立以上 一箇年稅金三圓
- 一 同一疋立 一箇年稅金貳圓
- 一 荷積馬車 一箇年稅金壹圓
- 一 人力車貳人乘 一箇年稅金貳圓
- 一 同 壹人乘 一箇年稅金壹圓
- 一 牛車 一箇年稅金壹圓
- 一 荷積大七大九車 一箇年稅金壹圓
- 一 荷積中小車但大六以下 一箇年稅金五拾錢

第二則

新調ノ車ハ總テ其都度區戶長ヘ届出檢印可申受事

但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分

六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則

シノ部

四三九八三九
九四〇〇四〇
四四〇〇八〇七
四四〇一三〇五
六四〇一四〇五

四三九七四〇
一四〇〇三〇四
五四〇〇八〇一
四四〇一三〇七
四四〇一六〇七
四四〇二一〇三
四四〇二六〇三

四〇二 愛媛縣伺 明治十六年十一月十日

食鹽製造者製造用ニ供スル薪炭ヲ製鹽場ニ送リ又ハ製鹽ヲ自宅若クハ問屋船積ノ場所等へ運搬スルニ止リ他用ニ供セサル車ハ農夫ノ耕作ニ途ニ使用スルモノト取テ異ナルナキヲ以テ車稅規則第五則ニ準シ免稅シ可然哉

大藏省指令 明治十六年十一月廿九日

伺之趣免稅ノ限ニ無之儘ト可相心得事

四〇三 靜岡縣伺 明治十六年十二月十三日

消防器械ヲ運搬スルニ車ヲ用フルトキハ隣時間ニシテ相送シ頗ル便宜ヲ與フル具ニ付平常準備非常ノ時ニ限リ使用致度肯願出ルトキハ稅則中ニ據ルヘキナシト雖モ特ニ免稅致シ然ルヘキヤ此段相伺候也

大藏省指令 明治十六年十二月廿四日

伺之趣

但免稅ノ檢印ヲ押捺スヘシ

四〇四 東京府伺 明治十七年四月廿三日

一 正立自用馬車並轎ヲ所有スル者更ニ正立ノ根柢ヲ關製檢印ヲ受ケ置キ時宜ニ依リ一正立或ハ二正立ノ二途ニ兼用出願スル者アリ右ハ稅額ノ重キニ就キ電報分課稅シ可然哉

大藏省指令 明治十七年四月廿九日

伺之趣

四〇五 内務大藏兩省伺 明治十八年五月四日

官用船船車馬ノ儀ハ地方稅ヲ賦課セサル様明治十五年七月伺定ノ上府縣へモ相達置候ニ付テハ驛遞局所有郵便物運送車ハ課稅セサル勿論ニ有之然ルニ各地郵便運送車ノ内ニハ受貨人ノ自費ヲ以テ製造シタルモノ有之右ハ受貨人ノ所有ニ屬スルモノニハ候得共其製造樣式等總テ驛遞總官ノ指定ニ從フモノニテ外面ニハ郵便御用ノ標識ヲ施シ他ニ使用スルヲ得ヌ官用ニミ供スルハ驛遞局所用ノ車輛ト同一ニ有之就テハ國稅地方稅正免除シ可然哉
太政官指令 明治十八年六月十日
伺之趣

○判決例

四〇六 明治二十年乙第百六十五號

愛媛縣平民 福江近次
上告事件ヲ審按スルニ車稅規則第四則ニ右稅金上納ハ年々兩度ニ區別シ云々但前半分ハ其年七月三十一日限リ後半分ハ翌年一月三十一日限リ其管轄區へ可相納事トアリテ車稅規則違犯ノ罪ハ其半期毎ニ一罪ヲ構造スルノ連續犯罪ニシテ即チ半期ノ稅額ハ同第一則ニ照セハ荷積中車一ヶ年稅金五拾錢ノ半額或拾五錢ノ五倍一圓二十五錢ノ科料ハ違犯罪ノ刑ニ當リ治罪法第十一條ニ基キ六月ヲ經テ公訴期滿免除ヲ得ル者トス而テ被告事件ハ明治二十年一月十八日ノ公訴ニ係ルヲ以テ被告カ明治十九年二月ヨリ六月迄ノ犯罪ハ已ニ六ヶ月ヲ經過シタルハ公訴期滿免除ヲ得タル者ナリトス故ニ本案ハ明治十九年後半期ノ犯罪ノミヲ罰スヘキ者トス然ルヲ原裁判茲ニ出ス明治十九年前後兩期ノ稅額五倍ノ罰金ヲ科シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スルヘシ如シ

福江近次

前辯明ノ理由ナルヲ以テ原裁判所カ認メタル事實ニ因リ之ヲ法律ニ照スニ車稅規則第一則荷積中小車但大六以下一ヶ年稅金五拾錢第四則右稅金上納ハ年々兩度ニ區別シ云々但前半分ハ其年七月三十一日限リ後半分ハ翌年

一月三十一日限り其管轄區へ可相納車第六則諸車類無届ニテ營業スル者ハ其脱税高ノ五倍料料タルヘキ事トアルニ依リ被告カ明治十九年二月ヨリ六月迄ノ犯罪ハ公訴期間満了ヲ得タルヲ以テ治罪法第三百三十五條第二百二十四條ニ照シ免訴シ後半期ノ脱税高金二十五錢ノ五倍料料金一圓貳拾五錢ニ處スル者ナリ

明治二十年二月二十八日

四〇七 明治二十年乙第三百廿五號

兵庫縣平民 中島常三郎

右常三郎カ被告事件ニ付明治廿年二月廿八日神戸縣裁判所對面支廳於テ被告ハ無届無檢印ノ大六以下荷積車ヲ使用セシモ該車ハ尙日原シ裁カ所有ニ係ルヲ無断使用シタルモノニテ車税規則違犯トシテ罰スヘキモノニアラス因テ刑法第二條ニ照シ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ立會檢車山崎慎三カ上告ヲ爲スノ要旨ハ現行車税規則ヲ通觀スルニ其目的タルヤ收税ト車籍取締ヲ併行スルニアルヤ疑フヘカラス且其精神ノ如キモ無届無檢印ノ車ヲ所持スヘカラスト云フノ意味ヲ含蓄セスシテ該車ヲ使用スヘカラスト云フニアリテ則第六則ハ脱税ヲ防カシカ爲メ制裁ヲ定メタルヤ論ヲ俟タズ本件荷積車ノ如キ被告實第ノ所有トスルモ無檢印無帳札ナルハ一見瞭然タルノミナラス其實兄弟ノ供用ニ係ルモ亦タ知ルヘカラス然ルニ原裁判ノ爰ニ出テス使用者即チ被告ヲ處罰セスシテ無罪ヲ言渡シタルハ擬律錯誤ノ裁判ト考置レ被控更正ヲ求ムト云フニアリ

對手人被告常三郎ハ答辯書提出サズ

大審院於テ治罪法第四百廿五條ノ定式ヲ踐行シ審理判決ヲ爲ス左ノ如シ

抑モ車税規則ハ其目的の特リ車籍監査ニ便スル爲メニナラス收税ヲ目的トシテ設立セシモノタルハ勿論ナリト雖モ其無届無檢印ノ車ヲ使用セシ時ハ所有者ノ何人タルヲ問ハズ之ヲ使用シタルモノヲ直チニ科罰スヘシトノ注意タルニアラストス何トナレハ車税規則第六則ハ脱税者ヲ處罰スルノ注意タル明カナレハ納税ノ義務者即車所有主其費ヲ受クヘキモノナルヲ以テナリ今原判官ノ認メタル事實ニ據レハ被告ハ本件ノ車主ニアラサレハ車税規則中料

罰スヘキモノニアラストナシ被告ニ對シ無罪ヲ言渡セシハ至當ニシテ殆モ擬律ニ錯誤アリト云フヲ得サルモノトス因テ治罪法第四百廿七條ニ則リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

明治二十年三月三十一日

四〇八 明治二十年乙第三百六十四號

愛知縣平民 小林增平

凡ソ修繕トハ元形ヲ變セス之ヲ修繕スルモノヲ云フニ在リテ中小車ノ荷蓋ヲ更ニ大七車ノ荷蓋ニ改造スル如キヲ云フニアラス然レハ中小車ノ荷蓋ヲ大七車以上ノ荷蓋ニ改造シタルニ於テハ大七車ノ新調ナルヲ以テ車税規則第二則ニ從ヒ其筋へ届出檢印ヲ受ク可キヲ勿論ナリ而シテ同規則第一則荷積大七車ト荷積中小車但大六以下ノ區別ハ明治十一年大藏省七第三十五號布達ニ依リ荷蓋十四坪以上以下ヲ以テス可キモノナレハ被告カ中小車ノ荷蓋ヲ增加シテ十四坪以上ト爲シ更ニ檢印ヲ受ケス使用シタルハ脱税ニ係ルノ所爲ニシテ同規則第六則ノ制裁ヲ免カレサルモノナリ又其第六則ニ過料トアリテ罰金ト即職シアラサルモ車税規則ハ明治八年ノ頒布ニシテ刑法實施以前ニアルモノナレハ明治十四年第七十二號布告第三條ニ依リ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未満ヲ五錢以上一圓九十五錢以下ヲ料料ニ處ス可キモノ而シテ荷積大七車ハ一期即チ半年ノ税金五拾錢其五倍貳圓五拾錢即チ罰金ノ範圍ニ在ルヲ以テ原裁判所ハ明治十四年第七十二號布告第三條ヲ適用シタル事知リ得ヘクシテ其七十二號布告ヲ判文ニ明記セサルモ刑ニ輕重アルニアラサレハ其七十二號布告ヲ明記セサルモ原裁判ヲ破毀更正スルヲ要セサルモノトス

右ノ理由ニシテ上告ノ旨趣ハ其原由アラサルヲ以テ上告其効ナキモノト裁定シ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スル者也

明治二十年二月二十六日

四〇九 明治二十年乙第百九十六號

滋賀縣平民 渡邊善七

凡ソ荷車ノ使用トハ物品ヲ運搬スルニアレハ其目的ヲ以テ他所ニ搬キ出ス如キ亦使用ト云フヘキモノナリ本件原
裁判官ノ認定シタル事實即チ物品ヲ運搬スル爲メ無檢印ニ屬シタル車ヲ他村ヘ搬キ行キ之ニ物品ヲ積載シ將ニ挽
出ントシタル場合ニ在テハ即チ荷車使用ノ所爲ニシテ車稅規則第六則ノ制裁ヲ免レサルモノナリ然ルヲ其第六則
ニ所謂使用ト云フヘキモノニアラストシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ車稅規則ノ見解ヲ誤ルモノニテ上告論旨ノ如ク
原裁判官ノ錯誤ナリトス

渡邊善七

原裁判所ガ認メタル事實ニ據リ刑法第五條ニ基キ車稅規則第一則第八項荷積中小車一ヶ年税金五十錢同則第三則
ニ依リ其半ヶ年分二十五錢同則第六則ニ照シ其半ヶ年分税金二十五錢ノ五倍過料金壹圓貳拾五錢ニ該當スルヲ
以テ明治十四年第七十二號布告第三條ニ依リ科料トシ被告人ヲ科料金壹圓貳拾五錢ニ處ス

明治二十年二月廿六日

四一〇 明治二十年乙第八百六號

富山縣平民 桐澤三郎

車稅規則第二則新調ノ車ハ總テ其都府區戸長ニ届出檢印ヲ受クヘントアルハ普通一般ノ場合ニ適施スヘキ規定ニ
シテ若シ此規定ニ背犯シ調製ノ車類ヲ無届ニテ營業又ハ使用スルモノニ在テハ同第六則ニ依リ科罰スヘキモノナ
リト雖モ本號被告ガ使用セル郵便物運送ニ供スル中車雙輪ハ現時不用ニ屬シ居ルニモセヨ原裁判官ガ認ムル所ニ
據レハ元來郵便物運送ノ命令ニ基キ郵便物運送ノ爲メニニ關聯シタルモノニ係レハ明治十六年大政官第九十三號達
ニ從ヒ其關製セル官署銘號ノ檢印ヲ爲シ車收ヲ大藏省ヘ届出ルモノニシテ車稅規則第二則ノ規定ニ從ヒ區戸長等

ニ届出テ檢印ヲ受クヘキ車類ヲラサレノミナラス明治十五年七月五十七號內務大藏兩省達ニ依リ官ノ所有ニ係ル
車ハ固ヨリ免稅ニ屬スルモノナル上ハ車稅規則ノ支配スヘキ限リニアラストス故ニ假令ヒ明治十六年大政官第九十
三號達ノ手續ヲ盡サス且今日已ニ車送スヘラカスト差止メラレタル場所ニ於テ郵便物ヲ車送セシハ不法ノ行爲ナ
ルモ前記明ノ如ク車稅規則ニ依リ科罰スルヲ得サルハ勿論他ニ罰スヘキノ法條ナキヲ以テ原裁判所ガ被告ニ罰シ
無罪ヲ言渡シタルハ相當ニシテ疑律ニ錯誤アルモノト云フヲ得ヌ到底上告趣旨ハ其原由ナキモノニ付治罪法第四
百廿七條ニ則リ之ヲ棄却スルモノ也

明治廿年十月三十一日

四一一 明治二十年乙第六百八十八號

山形縣平民 會田喜代松

上告ニ因リ原判文ヲ閱スルニ被告ハ免稅車ニ云々トノ事實ヲ記載セリ其所謂免稅車トハ何等ノ車ヲ指稱シタル者
ナルカ茲ニ車稅規則ヲ案スルニ其第五則ニ一荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事トアルヲ除クノ
外他ニ免稅車アルヲ視ス故ニ本按ニ所謂免稅車トハ耕作一途ニ用フル所ノ荷積車ト假定センニ此ノ車タルヤ自家
ト耕地トノ間ニ於テ肥料農具又ハ收穫物ヲ運搬シ得ヘキノミニシテ假令肥料又ハ收穫物ヲリトモ他所ヘ運搬シ得
ヘキ者ニアラス故ニ他所ヘ運搬ノ用ニ供セントセハ車稅規則ニ從ヒ相當ノ納稅ヲナサハルヘカラス而テ原判文記
載ノ事實ニ依レハ被告ハ免稅車ニ荷物又ハ桑葉ヲ積載シ上ノ山肥料取付ケ得意先ニ運搬シタル者ニシテ車稅規則
ヲ免レサル者トス然ルニ原判文ニ右ノ事實ヲ明示スルニモ拘ハラヌ有稅車ニ代用シタル證據充分ナラサル者トシ
無罪ヲ言渡シタルハ前後事實ノ理由相違著シ判定ノ當否ヲ疑蓋スル能ハサル不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條
第九項事實ニ因リ言渡ノ理由顯爾アル時トアルニ適當スル被毀ノ原由アリトス

明治二十年八月四日

四二二 明治二十年乙第九百三十號

豊後縣平民 大股 梶 藏

車税規則ヲ案スルニ其第二則ニ新調ノ車ハ其都府縣戸長ヘ届出檢印可申受車同第五則ニ荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タル可キトアリ又明治十八年大藏省令第四十號遂ニ本年第二十七號公布車税規則中第五則荷積車ノ内耕作一途ニ相用候車類ハ車税免除ノ檢印ヲ爲取備一車毎ニ燒記候上免稅證シ候義ト可相心得トアリ是等ノ注意ヲ參照スルハ耕作一途ニ用ユル車ト雖モ車税免除ノ檢印ヲ受タル上ニ非サレハ免稅車トナシ使用シ得可カラサルモノナリ故ニ其檢印ナキ車ハ假令耕作一途ニ使用シタルモ同第六則ノ制裁ヲ免レサル勿論ナリトス今ヤ本案原裁判官カ認メタル事實ニ依レハ無檢印ノ荷積小車ヲ耕作一途ニ使用シタリト云フニアレハ同第一則同第二則同第六則ニ照シ處斷セサル可カラサルニ原裁判官ニ出テ同第五則ヲ適用シ其罪ヲ論セサリシハ原檢察官上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ノ規定ニ則リ原裁判官渡ノ擬律ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スルノ左ノ如シ

大股 梶 藏

原裁判所カ認メタル事實ニ依リ被告カ所爲ヲ法律ニ照スニ車税規則第二則ノ規定ニ背キ届出ヲ爲サスシテ使用シタルモノナルニ依リ同第六則同第一則同第三則同第四則ヲ適用シ明治廿年上半年分稅高貳拾五錢五倍ノ科料金一圓貳拾五錢ニ處スル者ナリ

明治廿年十二月廿六日

四二三 明治十九年第三百七十一號

大坂府平民 梅津 彌助

車税規則第六則ノ罪タル其第六則ニ掲ル如ク無届ニテ營業上若シクハ其他ニ使用シタルノ時ニ於テ擲成スヘキモノニシテ其使用以前ニ犯罪ノ組成スルモノニ非サルヤ論ヲ減タサルナリ今原判文ヲ檢スルニ被告カ該車ヲ新調シタルハ明治十八年十一月廿八日ニ在ルモ其無届ニテ使用シタルハ明治十九年三月ニ在リ然ラハ則チ其犯罪ヲ組成シタルハ其三月ニ在ルヲ以テ明治十九年前半期ノ稅五倍ノ金額ヲ科スヘキハ當然ナルニ是ヲ明治十八年後半期ノ稅ヲ以テ論斷シタルハ上告論旨ノ如ク擬律ヲ誤リタル裁判ト認ルニ依リ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ本院於テ直ニ裁判言渡ヲ爲ス左ノ如シ

右ノ理由ナルヲ以テ被告カ犯罪ノ事實ハ原判官ノ認定シタル所ニ從ヒ刑法第五條ニ基キ之ヲ法律ニ照スニ車税規則第六則ニ據車類無届ニテ營業スル罪又ハ使用スル者ハ其稅額高ノ五倍科料タルヘキ事トアルヲ以テ此法條ヲ適用シ仍ホ今第一則第七項ニ照シ明治十九年前半期分稅金五拾錢ノ五倍罰金貳圓五拾錢ニ處スルモノ也

梅津 彌助

明治十九年十月廿八日

四二四 明治十九年乙第千二十七號

長野縣平民 湯 本 國 長 吉

車税規則ニ於テ使用ト稱スルハ即チ車力ニ依ルヲ便トスル物貨ヲ積載運搬スルモノヲ云フハ勿論ナリト雖モ今原裁判官カ認ユル如ク被告カ東京ニ於テ購求セシ荷車ヲ自家ニ挽行スルニ際シ途中偶々暖氣ニ逢ヒ旅衣ヲ脱シ之レト共ニ輕量ノ土産物ヲ一包トシ之ヲ車臺ニ附著シタル其物タルヤ僅々半肩ノ行李ニ過キサレハ彼ノ重大車力ニ據ラサレハ運搬スルニ便ナラサル荷物ヲ積載シテ運送スルト同一視スヘキモノニアラサレハ未タ之ヲ無檢印ニテ使用シタリト云フヲ得ヌ故ニ原裁判官カ稅則違犯ト認メスシテ無罪ヲ言渡シタルハ至當ノ裁判ナルニ付檢察官ノ上告旨趣ハ相立タサルモノトス

以上ノ理由ナルニ因リ本案上告ハ治罪法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スル者也

明治十九年十二月廿七日

四一五 明治二十一年乙第七二號

兵庫縣平民 多田政藏

車稅規則ヲ按スルニ其第二則ニ於テ新調ノ車ニ檢印ヲ受ケシムルノ精神ハ其屆出ニ依リ該車即チ荷臺ノ液狹ヲ調
 査シ稅率ヲ定ムルノ必要アルヲ以テナリ故ニ假令一旦檢印ヲ受ケタル車ト雖モ其荷臺ヲ新調スルカ如キ場合ニ在
 テハ更ニ檢印ヲ受ケルニ非サレハ使用スルヲ得ヘカラサルハ當然ナリトス今ヤ原判文ヲ閱スルニ被告ハ曾テ屆濟
 ニ係ル大六以下荷臺中車ノ荷臺破損セシヲ以テ其車輪ヲ存シ新規荷臺ヲ調製シ破損ニ係ル荷臺ノ梓木ニ打付ケ
 アリシ番號札ヲ剝取リ之ヲ新規ノ荷臺ニ打付ケ更ニ檢印ヲ受ケス云々トアリテ其稅額ヲ定ムルニ必要ナル部分即
 チ荷臺ヲ新調シ更ニ檢印ヲ受ケス使用シタルノ事實ヲ認メアレハ修繕ト云フヲ得可カラサルハ勿論ナルニ原裁判
 所ハ之ヲ修繕ニ止マルモノトナシ無罪ヲ言渡シタルハ要スルニ原檢察官上告趣旨ノ如ク擬律ニ錯誤アル不法ノ裁
 判ナリトス因テ治罪法第四百二十九條ノ規定ニ則リ原裁判官擬律ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スル一左ノ如
 シ

多田政藏

原裁判所カ認メタル事實ニ依ルニ被告カ所爲ハ車稅規則第二則ノ違犯ナルニ依リ同第六則同第一則同第三則ヲ適
 用シ明治二十一年前半年分ノ稅額高二十五錢五倍ノ科料金壹圓二十五錢ニ處スルモノ也

明治二十一年四月二十六日

(七五) 新舊公債證書發行條例 明治八年五月 第九十五號布告

明治六年三月 第一百十五號及 同七年六月 第六十六號布告新舊公債證書發行條例別冊ノ通改定候
 條此旨布告候事

(別冊)

新舊公債證書發行條例

明治五壬申年迄ノ間從來舊諸藩縣ニ於テ内國人民ヨリノ逋債ヲ改テ政府ノ公債トシ之ヲ
 大藏省ニ引受ケ其債主ヘハ各此公債證書ヲ交付シ定期ヲ逐フテ之ヲ償却スルニ付政府ニ
 於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 新舊公債ノ區別及ヒ證書ノ種類記號ノ區別等ヲ明ニス

第一節 弘化元庚辰年ヨリ慶應三丁卯年迄舊諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明
 治元戊辰年太政更始以後明治四辛未年七月廢藩迄及明治五壬申年迄ノ間舊諸藩ニ於テ借
 用シタルモノヲ新公債ト稱スヘシ

第二節 新舊公債トモ各其高ヲ五分シテ第一第二第三第四第五トシ證書面ノ金高ヲ五百圓
 三百圓壹百圓五十圓二十五圓ノ五種ニ區別スヘシ

第三節 新公債證書ハ向後抽籤ノ方法ヲ以テ其元金ヲ償却スヘキニ付便宜ノ爲メ四十七部
 分ニ別チ(いろは)四十七字ノ記號ヲ證書面ニ命名スヘシ

第二條 新舊公債償却ノ年度及ヒ利息ノ割合ヲ明ニス

第一節 舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申ヨリ明治五十四年迄五十年賦トシ其
 年ノ拂方ニ當リタル賦金ヲ毎年十二月一日ヨリ同十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ

第二節 新公債ハ利息付ニシテ明治八年ヨリ明治二十九年迄二十二年ノ間ヲ限リ大藏省ノ
 都合ニヨリ毎年或ハ隔年ニ抽籤ノ方法ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號ヲ公定シ其割
 合ニ從テ之ヲ拂戻スヘシ其利息ハ年々元高百分ノ四分トシ明治五年壬申ヨリ明治二十九
 年迄毎年六月一日ヨリ十五日迄十二月一日ヨリ十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ 本文總テ
 其金額ハ

シノ部

- ⑥六六ノ七條參看
- ⑤七五ノ第一條
- ④七五ノ第二條
- ③七五ノ第三條
- ②七五ノ第四條
- ①七五ノ第五條
- ⑦五七ノ第一條
- ⑥五七ノ第二條
- ⑤五七ノ第三條
- ④五七ノ第四條
- ③五七ノ第五條
- ②五七ノ第六條
- ①五七ノ第七條

大藏省ノ都合ニヨリ金銀貨又九年第五十號布告ヲ以テ毎年ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ(以下六月以下ノ十字ヲ加フ)

但明治八年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻ニ當リテ八年四分ノ利息月割ヲ以テ右抽籤法行ヒシ月迄ノ分下ケ渡スヘシ

第三條 公債證書ノ渡方及其辨記ノ手續ヲ明ニス

第一節 新舊公債證書共各債主ヘ交付スルニハ大藏省ニ於テ其金高及ヒ新舊ノ區分共調査シテ後之ヲ簿冊ニ登記シ證書五種ノ區別新公債ナレハ四種ノ記號中ニ於テ其金高ニ應シ相當ノ割合ヲ定メ其證書ハ簿冊ニ割印シテ各債主ノ地方管廳ニ送達スヘシ

但此公債證書ヲ其地方管廳ニ送達スルニハ勿論其債主ノ名面金高證書ノ種類等詳明ニ目錄書ヲ添テ相渡スヘシ

第二節 各地方管廳ニ於テハ別ニ公債掛ノ局ヲ設ケ各種ノ簿冊ヲ備ヘ大藏省ヨリ渡サレタル證書ヲ點檢シ其債主ノ名面及ヒ證書ノ金高種類ヲ分別シテ之ヲ簿冊ニ登記シ且其證書裏面ヘ悉ク債主ノ名面ヲ記入シ管廳ノ割印ヲ加ヘテ其渡方ヲ取計フヘシ

第四條 舊公債證書元金年賦並ニ新公債證書ノ利息渡方手續等ヲ明ニス

第一節 毎年舊公債元金年賦並ニ新公債利息下渡シ方ハ各地方官ニ於テ各管下ノ公債證書所持人ノ數ヲ取調其年ノ渡方ニナルヘキ利息並ニ元金年賦共金額内譯合計表ヲ作り新公債上半季ノ利金表ハ五月十日迄下半年ノ利金表及舊公債年賦金表ハ十一月十日迄ニ毎年大藏省ニ差出スヘシ(九年第五十號布告ヲ以テ合計表以下五十三字改正)

第二節 大藏省ヨリ右合計表ニ從テ其下渡スヘキ金高ヲ拂場所ヘ廻送ノ手續ヲナシ臨時官

六六ノ七條參看
七五ノ第一條參看
三三條參看
六條一三參看
四九條一參看

七五ノ第三條參看
六六ノ七條參看
六九ノ一五條參看

七五ノ第二條參看
三三條參看
五條一〇一參看

七五ノ第四條參看
三三條參看

第一〇條參看

七五ノ第四條參看

六六ノ七條參看
六九ノ一五條參看
七五ノ第一條參看
三三條參看

七五ノ第五條參看

七五ノ第五條參看

七五ノ第五條參看

員出張スルカ又ハ其地方官ヘ委任シ都テ證書ノ下ニ附添スル其年ノ拂方ニ屬スル小札ヲ切取り引換ニ其拂方ヲ爲スヘシ

第三節 右切取りタル小札ハ其拂方ヲ爲シタル明細證書ト共ニ直ニ之ヲ大藏省ニ送納スヘシ

第五條 新公債證書拂方辨記ノ手續ヲ明ニス

第一節 新公債證書ノ元金拂方ヲ爲スニハ毎年又ハ隔年大藏省ノ都合ニ從ヒ抽籤ノ法ヲ以テ拂渡スヘシ右抽籤ノ法ハ證書ノ記號ヲ明ニシ其年拂戻スヘキ金高ヲ定メ此金高ニ證書ノ高ヨリ部分シ東京或ハ大坂等證書ノ金額最モ多キ場所ヘ國債寮ノ官員出張シテ其地方ノ長官及ヒ公債掛立會ノ上管下ノ證書所持人十八以上ヲ集メ眼前ニ於テ籤ヲ抽キ其籤ニ當リシ部分ヲ其年ノ拂戻スヘキモノト定ムヘシ

第二節 抽籤ノ處置相濟ニ賦當ノ記號公定スレハ立會タル證書所持人等ヨリ其抽籤ノ方法公正ナルコトヲ保證スル爲メ書面ヲ出サシメ然ル後何記號ノ證書ハ何月何日何處ニ於テ拂戻スヘシト云フコトヲ布告書又ハ新聞紙ニテ普ク世上ニ公告スヘシ

第三節 右拂場所ヘハ大藏省ヨリ拂戻スヘキ金高ノ廻送ヲナシ公債拂方ノ官員出張シテ時宜ニヨリ地方官ニ委任スルコトアルヘシ 其籤ニ當リタル證書引換ニ其拂方ヲナシ其證書ハ拂濟ノ證ヲ印シ明細書ト共ニ直ニ大藏省ニ送納スヘシ

第四節 右拂方ノ取扱ハ年賦及ハ利大藏省ノ都合ニヨリテ追テ各地ニ創立スヘキ國立銀行ニ命シ名代人トシテ其處置ヲ爲サシムルコトアルヘシ

シノ部

第七五ノ第四條
第五條一參

第七百三十
第五節 凡ソ公債元金並ニ利賦金拂渡ノ際其期日ヲ失シテ受取方申出テス其拂渡スヘキ年ノ翌年ヨリ向五ヶ年ヲ過クルモハ一切之ヲ拂渡サス證書所持主ノ損失タルヘシ然レモ其受取難キ事由ヲ該期限内ニ其管廳ニ申出テ認可ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス(十二年第二十六號布告ヲ以テ追加)

但起業公債證書(記名無記名)モ本節ニ準ヌ又次條改正追加ノ内第十二節ヲ除キ該公債記名證書ニ適用スルモノトス

第六條 新舊公債證書授受

第六六ノ七條
第六八ノ六條五
第六九ノ一五
第七五ノ第三條
第七六ノ三條
第七七ノ八條
第七八ノ一五
第七九ノ一五
第八〇ノ一五

第一節 新舊公債證書トモ全ク所持人ノ所有物アレハ他人ヲ除クハ讓渡賣渡質入等都テ勝手タルヘシ尤死者又ハ失踪者遺留ノ公債證書並養子ノ戸主離縁復籍スル時其養家ニ屬スル公債證書ハ特約アルモノ、外總テ其遺留財産ヲ相續スヘキモノ、所有ニ歸スルモノトス(十三年第三十號布告)

但本文讓渡賣渡ハ第二節以下ノ手續ニ照準スヘク又死亡失踪離縁ニヨリ遺留セル證書ハ此條例附錄第二圖ノ振合ニ依テ名面書替ノ上管廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第七五ノ第六條
第七六ノ九條
第七七ノ二條

第二節 證書ヲ授受及ヒ賣買スルニハ雙方ノ示談整ヒシ上ニテ甲ノ方主ヲ云フハ證書裏面ヘ形ノ通取面記名調印シテ別ニ其證書ノ種類記號番號金高枚數月日及ヒ乙受ル者買ノ姓名等ヲ認メ其證書ト共ニ甲ヨリ之ヲ其管廳ニ差出スヘシ

第七五ノ第三條
第七六ノ三條
第七七ノ二條

但裁判所ニ於テ公賣スル證書ヲ買受ケタル者又ハ裁判所ノ言渡ニヨリ流質トナリタル證書ヲ有スル者此條例附錄第三圖ノ振合ニ依テ名面書替ノ上裁判所ヨリ管廳ヘノ通知書ヲ添ヘ管廳ノ檢印ヲ受クヘシ(十四年第四十一號布告)

第七五ノ第六條
第七六ノ三條
第七七ノ二條

第三節 管廳ノ公債掛ハ右證書ト屆書トヲ受取リ其次第ヲ承リ正シ證書裏面ヘ形ノ如ク形年號月日ヲ記シ檢印シテ之ヲ其差出セシ者ヘ下渡シ其趣ヲ簿冊ニ詳記シ大藏省ヘハ翌月五日迄ニ届出ヘシ

第七五ノ第六條
第七六ノ三條
第七七ノ二條

第四節 右ノ手續ニテ檢印濟ノ證書ヲ甲ヨリ乙ニ渡シタル時甲乙共同管下ノ者ナレハ別ニ屆書ヲ出スニ及ハスト雖モ管轉達ナレハ其證書ノ種類記號番號枚數及ヒ甲ノ姓名年號月日ヲ詳記シテ乙ヨリ其管廳ヘ速ニ届出ヘシ(十二年第二十六號布告ヲ以テ届出ヘ)

第七五ノ第六條
第七六ノ三條
第七七ノ二條

但利賦金拂方施行中ニ讓受買受ノ證書他ノ地方ヨリ増加シ來ル分ハ先買主ノ届出ヲ聞置最初ノ拂方相濟シ上ニテ利賦金受取方追加表ヲ製シ尙大藏省ニ差出スヘシ

第七五ノ第六條
第七六ノ三條
第七七ノ二條

第五節 乙ノ地方管廳ニテハ右ノ届出アレハ前以テ備ヘ置タル公債簿冊ヘ右證書ノ金高種類記號番號枚數及ヒ其名面取引ノ年號月日ヲ登記シ且證書ヘ割印シテ下ケ渡スヘシ

第七五ノ第六條
第七六ノ三條
第七七ノ二條

第六節 右ノ手續ヲ以テ引取りタル證書ヲ更ニ他人ニ外國人ヲ除ク讓渡ス時モ都テ前條ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第七五ノ第六條
第七六ノ三條
第七七ノ二條

第七節 新舊公債證書ヲ管轉達ニテ讓渡賣買等ノ事アレハ甲ノ地方管廳ヨリハ即日乙ノ地方管廳ヘ其證書ノ種類記號金高及ヒ名面取引ノ年月日ヲ詳記シ送達スル時直ニ公債簿上ヲ削除スヘシ尤此時證書ヘ割印ヲ爲スニ不及乙管廳ニテハ右送達書ヲ得タレハ直ニ其旨ヲ甲管廳ヘ回報スヘシ尤甲管廳ヨリ乙管廳ヘ送達ノ封書ヲ都合ニ因テ讓受買受人ヘ托シテ送達スルモ妨ナシ且大藏省ヘハ一月分翌月五日迄ニ甲乙管廳ヨリ互ニ届出ヘシ(十二年第二十六號布告)

二十六號布告ヲ以テ妨ナシノ下
若其送達ヲ云々ノ四十字ヲ削ル

但乙ノ管廳ニテハ右送達之ナキ間ハ其證書賣買スルヲ差留置クヘシ

第八節 新舊公債證書所持ノ者管轄替相成ル節ハ甲ノ地方管廳ヨリ乙地方管廳ヘ相達スル儀ハ第七節ノ通りタルヘシ本人ハ所持ノ證書種類記號番號金高枚數及ヒ轉籍ノ年號月日住居ノ地名等詳記シ乙管廳ニ届出ヘシ管廳ニテハ公債簿冊ヘ登記シ證書ヘ割印シテ下渡スヘシ

第七五ノ第六條
二參看

第九節 他ノ府縣ヨリ寄留ノモノ新舊公債證書ヲ讓受買受ムトスル時ハ寄留地ノ管廳ニ申立管廳ニテハ本管ノ人民同一ノ取扱ヲナスヘシ就テハ年々元利金モ其廳ヨリ拂渡スヘシ但後日本籍ヘ復歸スル時ハ本人ヨリ即日管廳ヘ届出ヘシ管廳ニテハ復歸ノ地方廳ヘ通達方並本人届方等第八節ノ通ナルヘシ

第七五ノ第四條
一參看

第十節 新舊公債證書所持ノモノ他ノ府縣ヘ寄留スル時ハ年々元利拂及ヒ讓渡シ賣渡シ共寄留地管廳ノ主務トナスニ付寄留セントスル者ハ證書ノ種類記號番號金高枚數共本管廳ヘ届出ヘシ本管廳ニテハ寄留地ノ管廳ヘ送達シ寄留地ノ管廳之ヲ受ケテ取扱ヲナス手續ハ第七節第八節ニ照準スヘシ若シ其身他ヘ寄留スト雖モ都合ニ因テ公債證書ハ本貫ヘ殘シ置年々元利受取或ハ讓渡賣渡ヲナス如キハ寄留地管廳ニテ與ル事ナカルヘシ然レトモ所持高ノ内都合ニ因テ幾分引分ケ寄留先ヘ携帶スル時ハ其分ヲ本管廳ヘ届出本管廳ヨリ寄留地ノ管廳ヘ送達ノ手續ハ前條ニ記載セル通りタルヘシ尤本貫ヘ殘シタル證書ハ本管廳ノ所轄勿論ニシテ年々元利受取或ハ讓渡賣渡等本人ヨリ委任狀ヲ與ヘシ代理人ヲ以テ其取扱ヲナシ妨ナカルヘシ

但後日本籍ヘ復歸スル時ハ第九節但書ノ通りタルヘシ

第七五ノ第三條
二第四條一、第
六條二參看

第十一節 都テ讓渡又ハ賣買等ハ相對ノ約定ヲ以テ其所有權ヲ轉移スルヲ得ヘシ然レトモ前各節ノ手續ヲ了セサル間ハ其讓受主買主ニ於テ假令其證書ヲ所持スルトモ利賦金及ヒ元金ハ官簿ニ記載ノ債主ニアラサレハ下渡サス又證書紛失等ヨリ代リ證書ヲ願出ルモ亦前ニ同シ(十二年第二十六號)
第十二節 每年六月一日ヨリ十五日迄ニ新公債利息渡シ方并十二月一日ヨリ十五日迄ニ新

第七五ノ第六條
一參看

公債利息番公債元金年賦渡方ヲ爲スニ付五月一日ヨリ六月十五日迄十一月一日ヨリ十二月十五日迄ハ各地方證書所持人ノ混淆セサル爲メ右證書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合スヘシ(九年第五十號布告ヲ以テ至節ヲ改正シ十年第三十四號布告ヲ以テ五月ヲ四月二十一日ヲ十月ニ改メ十一月第二十二號布告ヲ以テ四月ヲ五月二十月ヲ十一月ニ改ム十二年第二十六號布告ヲ以テ讓渡賣買ノ届出ノ三字ヲ追加ス)

第七五ノ第三條
一第六條一參

第十三節 公債證書ヲ諸官廳ノ所有トシテ引受クル節ハ其廳主掌官ノ官名姓名ヲ記シ讓渡等ノ節ハ其官印(官印ナキハ其實印)ヲ捺スヘシ(十二年第二十六號)
但記名者代換ノ時ハ次節ノ手續ニ照準スヘシ(十三年第三十號布告ヲ以テ但書追加)

第七五ノ第三條
一第六條一參

第十四節 銀行及公認シタル會社學校又ハ町村組合等ノ類共同合資ニシテ所有主壹個人ニ限リ難クトモ其内主長タル者又ハ證書管保ノ責ニ任スル者等壹個人ノ姓名ヲ記シ肩書ニ其責任タル名義ヲ記シ(例ヘハ學校ハ其取締又ハ世話掛銀行又ハ會社ハ頭取其支店ハ支配人ノ私有ニアラサル)人町村組合ハ總代人等何レモ其責任タル名目ヲ肩書ニシテ壹個人ノトテ明ニスルノ類)而シテ讓渡其他一切右記名者ノ實印ヲ以テ取引致スヘシ右記名者代

シノ部

換等ノ節ハ右ノ類ニ限り代任ノ者ヘ引繼キ證書書替ニ及ハスト雖代換ノ譯及ヒ其肩書姓名印影ヲ管廳ヘ届出ヘシ其廳ニ於テハ簿冊ヘ其謄并名面年號月日等ヲ登記シ置ヘシ然ル後代任ノ者更ニ記名者ト成リ讓渡其他一切其肩書姓名實印ヲ以テ取引致スヘシ(第十二年六號布告ヲ以テ但書共追加十三年第三十號布告ヲ以テ於テ)

但是迄銀行會社學校等ニ於テ記名者ヲ定メス所有スル向ハ證書書替ニ及ハス本節ニ照ラシ記名者ヲ定メ管廳ヘ届置クヘシ向後讓渡其他一切本節ニ照準シテ取引スヘシ

第七條 新舊公債證書引當物等ニナシタル處置ノ手續ヲ明ニス
第一節 新舊公債證書借金ノ引當又ハ質物ノ證據金トシ所持人ヨリ他ニ預ケ置クコトアリトモ其拂戻スヘキ元金利息ハ其所持人ヘ下渡スヘシ尤モ本人調印ノ委任狀ヲ持參セル時ニハ外國人ヲ除クノ外何人ヘナリトモ相渡スヘシ

第八條 新舊公債證書其裏面并ニ引換等ノ手續ヲ明ニス
第一節 新舊公債證書讓渡買賣頻繁ニシテ裏面記名ノ場所ナキニ至ル時ハ其所持人ハ書面ヲ以テ其地方管廳ニ申立證書ノ繼足ヲ願ヒ其證書ヲ差出スヘシ

第九條 新舊公債證書共紛失
第一節 新舊公債證書ノ所持人若シ證書ヲ取失フカ又ハ盜難ニ逢テ證書ヲ盜取ラレシ時ハ何號何番何高ノ證書幾許ヲ紛失又ハ盜取ラレタル由ヲ直ニ其地方管廳ヘ届出管廳ヨリ之ヲ大藏省ヘ届出ヘシ

但管廳ニテハ大藏省ヘ届出ル時管内ヘ其趣ヲ布達スヘシ
第二節 大藏省ニテ右ノ届書ヲ受取レハ速ニ其趣并ニ證書ノ種類番記號枚數等ヲ掲ケ何月何日後ハ右證書ヲ取引スヘカラス又何人ニ不限所持致居候ヲ見聞候者ハ速ニ管轉廳ヘ訴出管廳ヨリハ即大藏省ニ可届出旨ヲ布達ス地方管廳ニテハ即右ノ旨ヲ新聞紙其他ノ手續新聞紙ナキ地ハ村町ヲ以テ紛失又ハ盜取ラレシ月ヨリ七ヶ月間管内ヘ公布スヘシ

第三節 右公布ノ間ハ其證書ノ元金又ハ利息共之ヲ拂ヒ渡サヘシ
第四節 七ヶ月ヲ過テ其證書發見セサレハ大藏省ニテ其證書ニ換フヘキ新證書ヲ作り其地方官廳ヲ通シテ之ヲ所持人ヘ交付スヘシ尤モ公告時間中ニ積リタル元利ノ高ハ其新證書ヲ渡シタル次ノ拂期月ニ一同之ヲ拂渡スヘシ

但此新證書ヲ渡ス時元證書ノ記號其外紛失又ハ盜難ニ付此條々ノ手續ヲナセシ後更ニ交付スルノ趣意ヲ大藏省及ヒ其管廳ノ簿冊ニ記入スヘシ

第十條 新舊公債證書共紛失等ノ處置手續ヲ明ニス
第一節 水火災ニテ證書流失燒失ノ事アレハ所持人ハ前條ノ手續ニ從テ書面ニテ其由ヲ管廳ニ申立新證書下渡方ヲ乞フヘシ

第九條 新舊公債證書共紛失
第一節 新舊公債證書ノ所持人若シ證書ヲ取失フカ又ハ盜難ニ逢テ證書ヲ盜取ラレシ時ハ何號何番何高ノ證書幾許ヲ紛失又ハ盜取ラレタル由ヲ直ニ其地方管廳ヘ届出管廳ヨリ之ヲ大藏省ヘ届出ヘシ

但管廳ニテハ大藏省ヘ届出ル時管内ヘ其趣ヲ布達スヘシ
第二節 大藏省ニテ右ノ届書ヲ受取レハ速ニ其趣并ニ證書ノ種類番記號枚數等ヲ掲ケ何月何日後ハ右證書ヲ取引スヘカラス又何人ニ不限所持致居候ヲ見聞候者ハ速ニ管轉廳ヘ訴出管廳ヨリハ即大藏省ニ可届出旨ヲ布達ス地方管廳ニテハ即右ノ旨ヲ新聞紙其他ノ手續新聞紙ナキ地ハ村町ヲ以テ紛失又ハ盜取ラレシ月ヨリ七ヶ月間管内ヘ公布スヘシ

第三節 右公布ノ間ハ其證書ノ元金又ハ利息共之ヲ拂ヒ渡サヘシ
第四節 七ヶ月ヲ過テ其證書發見セサレハ大藏省ニテ其證書ニ換フヘキ新證書ヲ作り其地方官廳ヲ通シテ之ヲ所持人ヘ交付スヘシ尤モ公告時間中ニ積リタル元利ノ高ハ其新證書ヲ渡シタル次ノ拂期月ニ一同之ヲ拂渡スヘシ

但此新證書ヲ渡ス時元證書ノ記號其外紛失又ハ盜難ニ付此條々ノ手續ヲナセシ後更ニ交付スルノ趣意ヲ大藏省及ヒ其管廳ノ簿冊ニ記入スヘシ

第十條 新舊公債證書共紛失等ノ處置手續ヲ明ニス
第一節 水火災ニテ證書流失燒失ノ事アレハ所持人ハ前條ノ手續ニ從テ書面ニテ其由ヲ管廳ニ申立新證書下渡方ヲ乞フヘシ

シノ部

六六ノ七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ三條
七五ノ三條
七五ノ三條

六六ノ七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ三條
七五ノ三條
七五ノ三條

六六ノ七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ三條
七五ノ三條
七五ノ三條

七五ノ九條

七五ノ四條
七五ノ四條
七五ノ四條
七五ノ四條

六六ノ七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ三條
七五ノ三條
七五ノ三條

三四卷
七五ノ第九條
一參看

第二節 管廳ニテハ其流失焼失ノ次第ヲ推糺シ判然タレハ直ニ其次第及ヒ推糺ノ手續ヲ大藏省ヘ申立ヘシ

七五ノ第四條
二第一〇條一參看

第三節 大藏省ニテハ其申立ニ從テ代リ證書ヲ作り之ヲ其管廳ニ送達シテ所持人ニ交付スヘシ

七五ノ第一〇條
一五參看

但證書流焼失ニ付新證書交付ノ趣旨ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

七五ノ第一〇條
四參看

第四節 若シ又水火災ニテ其證書ノ部分焼切レ又ハ消滅シテ通用シ難キ程ナレハ所持人ハ證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ其由ヲ其管廳ニ申立證書ノ書替ヲ乞フヘシ

六六ノ第七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ第一條
一三三參看

第五節 其管廳ニテハ其證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ大藏省ヘ申立書替證書ヲ得テ之ヲ所持人ニ下渡スヘシ

六六ノ第七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ第一條
一三三參看

但證書ノ手續ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

刑律第二〇四條
參看

第十一條 新舊公債證書廢造
等ノ處分ヲ明ニス

六六ノ第七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ第一條
一三三參看

第一節 何人ニ不拘公債證書ヲ故ラニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊附ニスル等ノ事ヲナスヘカラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

六六ノ第七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ第一條
一三三參看

但舊公債證書ハ年賦拂濟ノ金高ヲ引去餘殘ノ小札金額ニ依テ計算シ罰金ヲ當ルモノトス

六六ノ第七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ第一條
一三三參看

第二節 何人ヲ論セス此公債證書ヲ廢造シ又ハ人ヲシテ之ヲ摸擬セシメ又ハ人ノ廢造スルヲ助ケ又ハ廢造ト知テ通用セシメ又ハ證書ノ圖書文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ

六六ノ第七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ第一條
一三三參看

又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板紙品雜形ノ圖書文字等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

六六ノ第七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ第一條
一三三參看

第十二條 第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利息及償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スルヲアルヘシ

六六ノ第七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ第一條
一三三參看

第二節 右增補改正等アレハ速ニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ

六六ノ第七條
六八ノ六條五
六九ノ一五
七五ノ第一條
一三三參看

(附錄圖面略之)

參照

○伺指令

四一六 京都府伺 明治十六年七月卅一日

當府平民下京區第四組榎忠町遠藤重兵衛所有舊公債證書額面五百圓(此券五枚)竹村藤太郎(可讓渡段届出候ニ付檢査候處會テ粘付有之候摺足紙ノ内下段ノ四枚(裏裏計算)切取有之候テ尋問ニ及ヒ候ニ別紙書面ノ通斷書差出候右ハ不都合ニ候ヘ共故違ノ所爲トモ不被存候ニ付將來ヲ制シ此儘流通爲致候テ可然儀ニ候別紙雜形彙集相添此段相伺候

(別紙略ス)

大藏省指令 明治十六年八月十四日

伺之趣裁斷ノ事由及ヒ届出ノ年月日等簿冊ヘ詳記シ證書裏面摺足紙粘付セシ箇所ヘ前同様記帳公債掛印シテ通用爲致不替候事

(七六)集會條例 明治十三年四月 第十二號布告
集會條例別冊之通被定候條此旨布告候事

(別冊)
集會條例

一八ノ一五
六條七六ノ三
三四五六六七
八九一〇二六七
一八條警察署

一八ノ一五
六條七六ノ一
三四五六六七
八九一〇二六七
八條警察署

七六ノ四一
〇條警察署

第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社(何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政治ニ關スルモノヲスル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルトキモ同様タルヘシ此届出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルコトアレハ社中ノ事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ

前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サントスルトキハ仍ホ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ(十五年第二十七號布告)

第三條 講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ定規アル者ハ其定規ヲ初會ノ三日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルトキハ爾後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖モ之ヲ變更スルトキハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出ニ於テ治安ニ妨害アリト認ナルトキハ之ヲ認可セス又ハ認可スルノ後ト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ(十五年第二十七號布告ヲ改正)

七六ノ一六
六條警察署

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可ノ證ヲ檢査シ會場ヲ監視セシムルコトアルヘシ

七六ノ五一
三二七條警察署

第六條 派出所ノ警察官ハ認可ノ證ヲ開示セサルトキ講談論議ノ届書ニ掲ケサル事項ニ亘ルトキ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ナルトキ及ヒ集會ニ臨ムヲ得サル者ニ退去ヲ命ジテ之ニ從ハサルトキハ全會ヲ解散セシムヘシ(但シ五年第二十七號布告ヲ以テ廢止)

七六ノ一三
一四條警察署

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ總會シ又ハ其社ニ加入スルコトヲ得ス

七六ノ一三
一五條警察署

第八條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連結通信スルコトヲ得ス(十五年第二十七號布告ヲ以テ改正)

一八ノ五六
七六ノ二二
一ノ三五
七六ノ一六

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催スヨリ得ス

第十條 第一條ノ認可ヲ受ケヌシテ集會ヲ催スモノ會主ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ貸シタル者并ニ會長幹事及ヒ其講談論議者ハ各貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ亦本條ニ依ル

一ノ三五條

第十一條 第二條第一項ノ規程ニ背キテ届出ヲ爲サス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルトキ社長ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ詐欺ノ届出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ偽答スルトキ社長ハ右罰金ノ外尙ホ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス(十五年第二十七號)

一ノ三五條

第十二條 第五條ノ規程ニ背キテ派出所警察官ノ臨席ヲ肯セス又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサルトキ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ警察官ノ尋問ニ答ヘス又ハ偽答スル者ハ同罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス(十五年第二十七號)

一ノ三五條
五三ノ七六
六條

第十三條 派出所警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙退散セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

一ノ三五條

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

一ノ三五條

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處

一八ノ一七
七六ノ五二七

シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ多衆集會スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ之ニ監臨スルコトヲ得若シ其監臨ヲ肯セサルトキハ第十二條ニ依テ處分ス

學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトアルトキハ第十條ニ依テ處分ス(十五年第二十七號)

第十七條 前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルトキハ第六條ニ依テ處分ス(十五年第二十七號)

一ノ五條

第十八條 凡ソ結社若クハ集會スル者内務卿ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハス又ハ仍ホ秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

一八ノ一七
七六ノ二二

第十九條 成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラズ

(七七)酒造稅則 明治十三年九月 第四十號布告
今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ従前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

(別冊)

酒造税則

第一章 免許鑑札 税率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケルヘシ

第二條 酒類ヲ分ツテ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒

二類 蒸溜酒

三類 再製酒

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許税及造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造場一箇所ニ付 金三十圓

酒類造石税(十五年第六十一號) 布告ヲ以テ改正

一類一石ニ付 金四圓

二類一石ニ付 金五圓

三類一石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス(十五年第六十一號布告)

清酒

百石

七十七ノ三三
四五六七八
二六二九條
四一七四一八
三四五七七八
一四三七一八
五九四六八
四四七七一
四四四四五
四四四四五
三〇九二八
七四一八四
三四二四

七十七ノ三三
二六二八條
四一九四六
四二五

濁酒

一類 清酒濁酒 二類 三類

拾石 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシム

第六條 免許鑑札買賣讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ二月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數(十五年第十七號) 布告ヲ以テ改正

第二期 七月卅一日限

三月一日ヨリ六月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數(十五年第十七號) 布告ヲ以テ改正

第三期 十月卅一日限(十九年勅令第七十九號) 布告ヲ以テ改正

七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル税額并前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳へ申出検査ヲ受ケルヘシ

七十七ノ三三
一三二五

シノ部

七十七ノ三三
〇條四三〇
四四二

七十七ノ三三
四九項四四一
三三項四四一
三三項四四一
三三項四四一
三三項四四一
三三項四四一
三三項四四一
三三項四四一
三三項四四一
三三項四四一

一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳へ申出検査ヲ受ケ現石數ニ付納税スヘシ
（十五年第六十一號布告）
但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セ
ル酒造場へ其酒類ヲ移ス時ハ管廳へ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ
第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ
第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其
造石税ヲ納ムヘシ
第十三條 検査未済ノ酒類へ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税ハ總
石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ
第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製（第一章第二條中一類ノ酒ヲニスル時
ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ）
第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ納メ
更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ
但變製ノ節ハ必ス管廳へ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査
ヲ受クヘシ
第十六條 皆造期限前ニ於テ非常損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ
第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ其製成ス
ルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ヲ免除ス

一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ免除
ス
第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もど其
他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ
第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳へ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳へ
届出ツ可シ（十六年第六十六號布告）
造酒着手後造石税完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ヲ酒造場外へ移スコト
ヲ許サヌ
酒造用諸器械ヲ賣買讓與貸與及ヒ所持主へ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ検査
済ニ係ル造石税ヲ完納ス可シ
第三章 雜令 雜令
第二十一條 酢及ヒ酒もどヲ販賣スルヲ許サヌ
但事故アリテ酒もどノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニアラヌ
（十五年第十七號布告）
第二十二條 他ノ依託ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造
スル爲メ酒造場ヲ貸ヌヲ許サヌ（十五年第六十一號）
第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サヌ（十五
年第六十一號布告）
（十五年第六十一號布告）
（十五年第六十一號布告）

但鑑札返納ノ上ハ其品目内務大藏兩省ニ届出ツ可シ

(別紙)

精劑

酒精

ホフマン氏鎮痛液

甘硝石精

礮砂加阿魏精

アネース精

芳香礮砂精

カヤフーテ精

コロハフォルム精

枸橼皮精

蟻精

複方杜松子精

複方ラーヘンデル精

複方マスチック精

椒性薄荷精

ミールシア精

再餾酒精

甘鹽精

礮砂精

複方白芷精

芳香精

複方アルモラシア精

龍腦精

桂皮精

山萸菜精

杜松子精

ラーヘンデル精

檸檬精

英國縮葉薄荷精

薄荷精

肉豆蔻精

迷迭香精

セルヒルリ精

双鸞菊精

失鳩蓉精

菲沃斯精

薔木髓精

コロシクム實精

幾丁

亞爾薛丁幾

芳香酸丁幾

双鸞菊丁幾

複方蘆薈丁幾(蘆薈浸藥丁幾)

ホーメ氏苦味丁幾

芳香丁幾

亞的兒製阿魏丁幾

新鮮橙皮丁幾

葛若丁幾

複方安息香丁幾

石鹼精

芥子精

葛若精

實莖答利精

高荳精

アルニカ花精

橙皮精

複方亞爾薛丁幾

蘆薈丁幾

苦味丁幾

アルニカ丁幾

阿魏丁幾

橙皮丁幾

バルサム丁幾

安息香丁幾

ビニツコ丁幾

シノ部

泥膏丁幾
 複方龍腦丁幾
 芫菁丁幾
 樟椒丁幾
 複方益智丁幾
 亞的兒製カストル丁幾
 シベリア産カストル丁幾
 褐色機那丁幾
 複方機那丁幾
 キラタ丁幾
 黄色機那丁幾
 ヨーシネール丁幾
 コロシント丁幾
 サフラン丁幾
 檳榔丁幾
 複方アルセラシヤ丁幾
 亞的兒製シキタリス丁幾
 酢酸鐵丁幾
 コロンボ丁幾
 亞的兒製龍腦丁幾
 亞的兒製芫菁丁幾
 益智丁幾
 カスカリルラ丁幾
 カナダ産カストル丁幾
 阿仙藥丁幾
 赤色機那丁幾
 キノイシネ丁幾
 複方コロロホルム丁幾
 桂皮丁幾
 コルシウム丁幾
 失鳩答丁幾
 畢澄茄丁幾(キノヘバ丁幾)
 石鹼丁幾
 シキタリス丁幾
 續隨子丁幾
 鹽化鐵丁幾

亞的兒製鹽化鐵丁幾
 沒食子丁幾
 複方ゲンチアナ丁幾
 揮發性瘧瘡木丁幾(砒砂加瘧瘡木丁幾)
 綠藜蘆丁幾
 ヘレニード丁幾
 ヒオス丁幾
 複方ヨシウム丁幾
 吐根丁幾
 複方ヤーラツバ丁幾
 ラタニア丁幾
 複方ラーヘンデル丁幾(ラーヘンデル丁幾)
 檸檬丁幾
 亞的兒製ロベリア丁幾
 肉豆蔻丁幾
 麝香丁幾
 揮發鹽化鐵丁幾(ベヌチニエフ氏神經丁幾)
 帶木糖丁幾
 安息香阿片丁幾
 林檎酸鐵丁幾
 ゲンチアナ丁幾
 瘧瘡木丁幾
 忽布丁幾
 ヨシウム丁幾
 脫色ヨシウム丁幾
 ヤーラツバ丁幾
 キノ丁幾
 フリシス丁幾
 ロベリア丁幾
 リニブリア丁幾
 亞的兒製肉豆蔻丁幾
 沒藥丁幾
 阿片丁幾
 舍電華漢氏阿片丁幾

單阿片丁幾
 礮砂精加阿片丁幾
 複方松芽丁幾
 括矢亞丁幾
 礮砂精加規尼涅丁幾
 大黃丁幾
 酒製大黃丁幾
 サピナ丁幾
 海葱丁幾
 麥奴丁幾
 旗那丁幾
 複方スピランチヌ丁幾
 亞的兒製馬鐵子丁幾
 シニンブル丁幾
 トリニタナ丁幾
 續草丁幾
 礮砂精加續草丁幾
 生姜丁幾

脫臭阿片丁幾
 地榆丁幾
 ビレトリニム丁幾
 規尼涅丁幾
 ヤーラツパ脂丁幾
 水製大黃丁幾
 大黃加旗那丁幾
 麒麟血丁幾
 加里加海葱丁幾
 遺志丁幾
 ヘルペンタリア丁幾
 蔓陀羅華丁幾
 琥珀丁幾
 チニヤ丁幾
 トキシコテンドリ丁幾
 亞的兒製續草丁幾
 グアニルラ丁幾
 強生姜丁幾

亞的兒製葦若丁幾
 亞的兒製非沃斯丁幾
 白黎蘆丁幾

亞的兒製失鳩答丁幾
 亞的兒製龍腦丁幾

酒劑
 蘆薈酒
 芳香酒
 龍腦酒
 コロシクム酒
 コロシクム實酒
 鐵酒
 吐根酒
 大黃酒
 アンチモニー酒
 酒石酸加里鐵酒

苦味酒
 橙皮酒
 機那酒
 コロシクム根酒
 麥奴酒
 枸橼酸鐵酒(枸橼酸アンモニア鐵酒)
 ペプシネ酒
 海葱酒
 煙草酒

四一八 内務省乙第三拾三號達 明治十二年 八月
 本年二月乙第拾貳號ヲ以テ酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ノ取扱方相達置候處右達書
 ニ掲載セル品目外ノモノニシテ酒類ヲ和スト雖モ全ク藥性ヲ浸出スルニ止マルモノ